

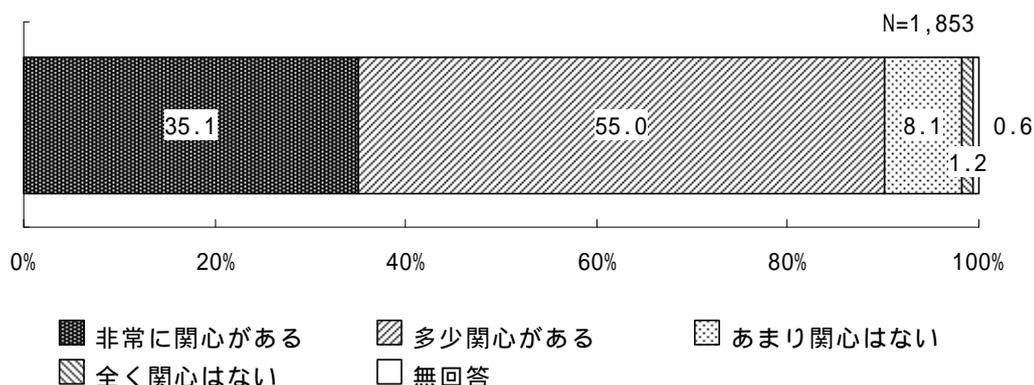
調查結果

調査結果

我が家の地震対策について

(1) 東海地震への関心

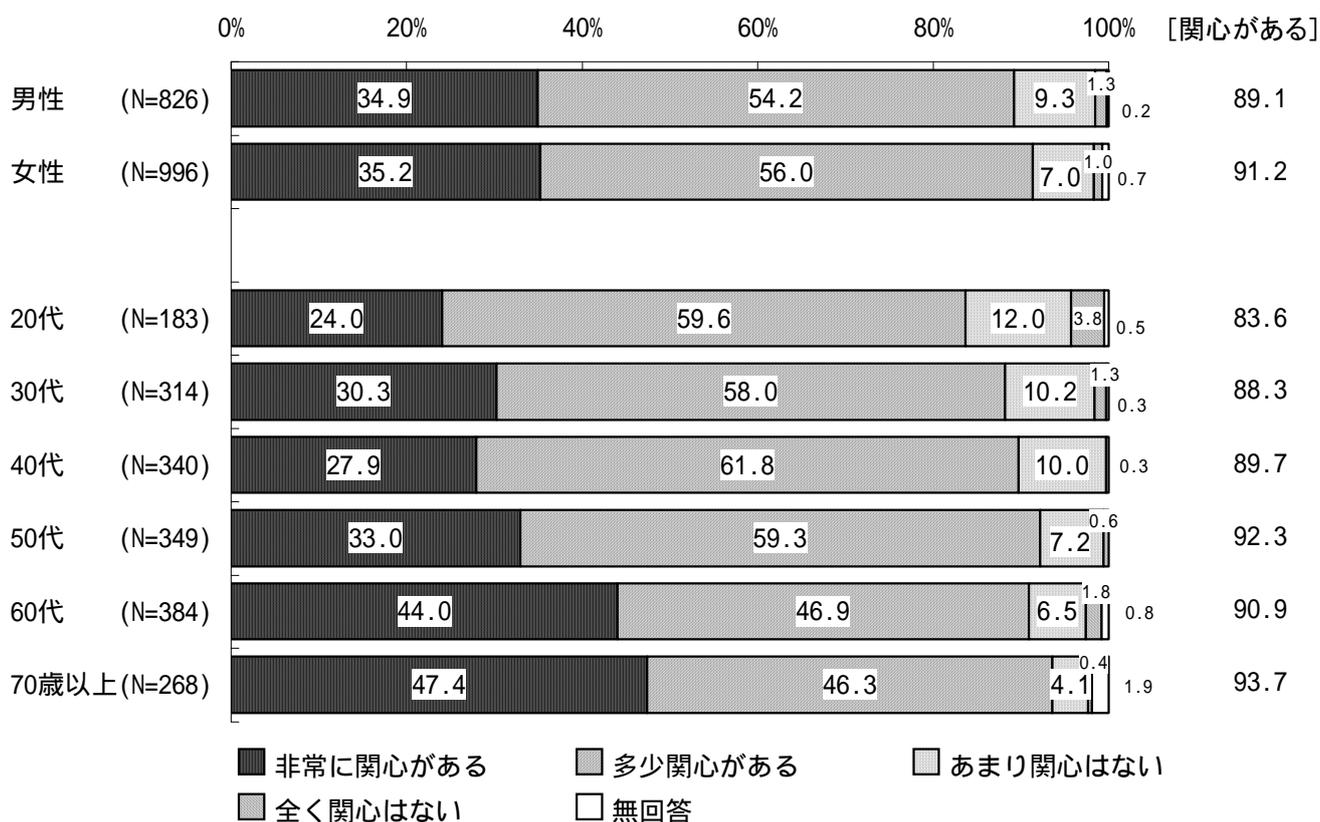
問1 あなたは現在、『東海地震』にどの程度の関心を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。



東海地震にどの程度関心を持っているか尋ねたところ、「非常に興味がある」は 35.1%、「多少興味がある」は 55.0%で、2つを合わせると 9 割の人は関心があるとされた。

年代別に見ると、年齢が高くなるにつれ、関心がある人の割合が高くなり、50 代以上で 9 割を超える人が関心があるとされた。

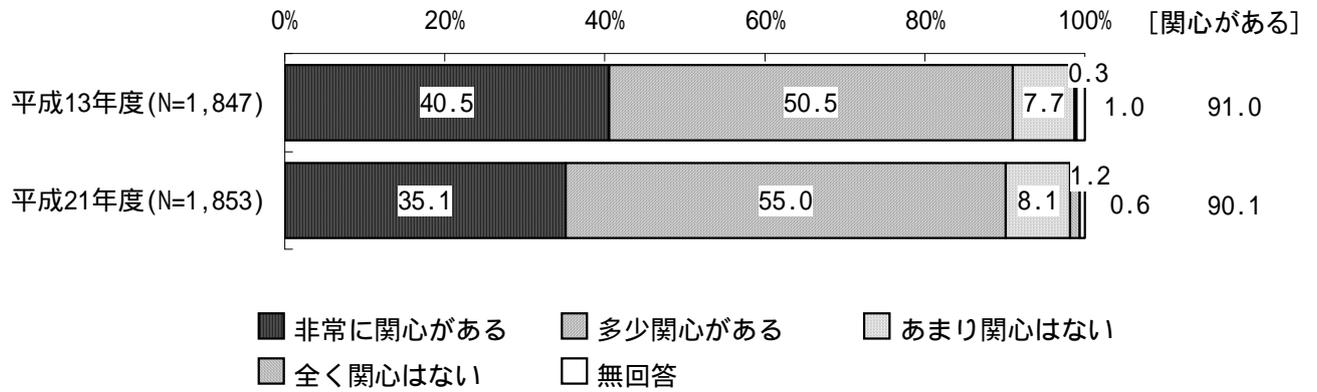
【性別・年代別】



調査結果

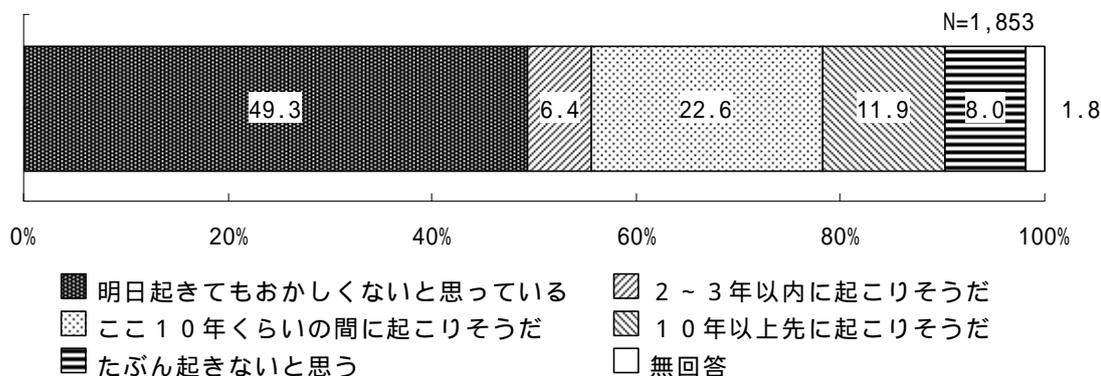
平成13年度の調査結果と比較すると、東海地震に「非常に関心がある」は40.5%から35.1%に減少し、「多少関心がある」は50.5%から55.0%と増加していて、2つを合わせると、91.0%から90.1%に若干減少している。

【調査結果の経年比較】



(2) 東海地震の起こる可能性

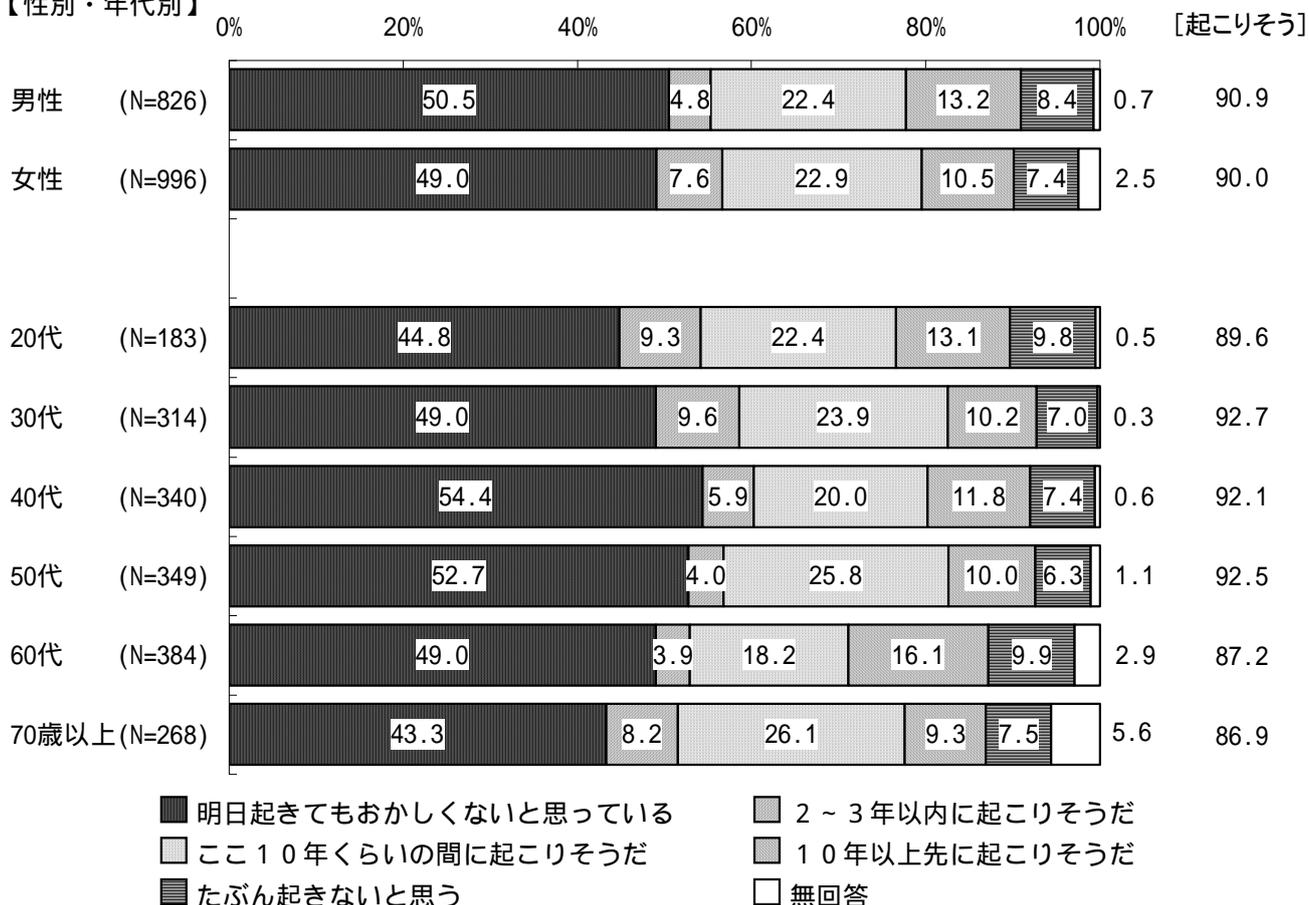
問2 あなたは『東海地震』の起こる可能性について、どのように思っていますか。次の中から1つだけを選んでください。



東海地震の起こる可能性を尋ねたところ、「明日起きてもおかしくないと思っている」が49.3%で最も多く、次いで「ここ10年くらいの間に起こりそう」が22.6%となった。「2～3年以内に起こりそう」の6.4%、「10年以上先に起こりそう」の11.9%と合わせると、東海地震は起こりそうと思っている人は、90.2%で9割を超えている。

年代別に見ると、「明日起きてもおかしくないと思っている」と答えた人の割合が最も高い年代は40代の54.4%、次いで50代の52.7%となっている。今後、東海地震が起こりそうと思っている人の割合が最も高い年代は、30代の92.7%、次いで50代92.5%、40代92.1%となっている。

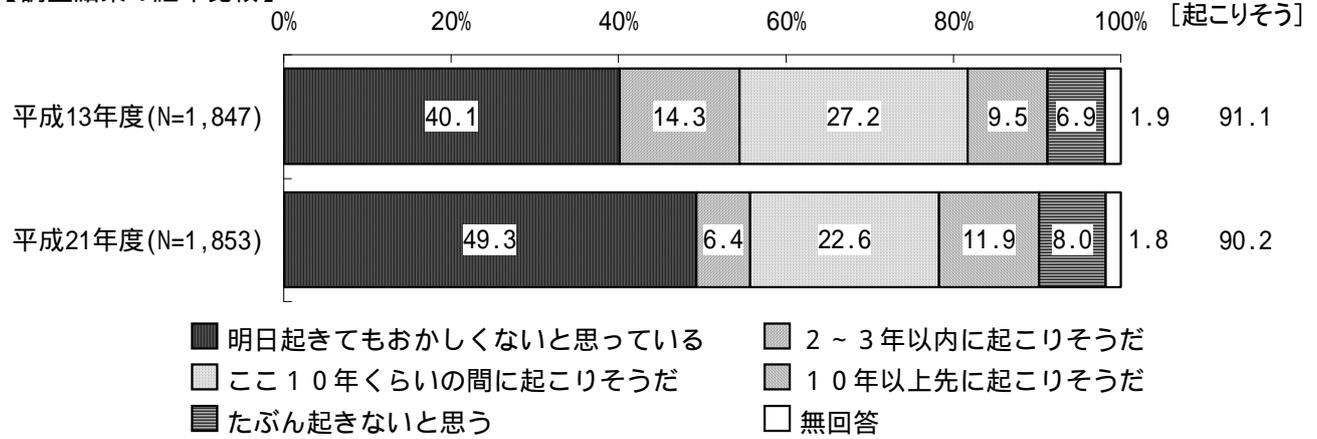
【性別・年代別】



調査結果

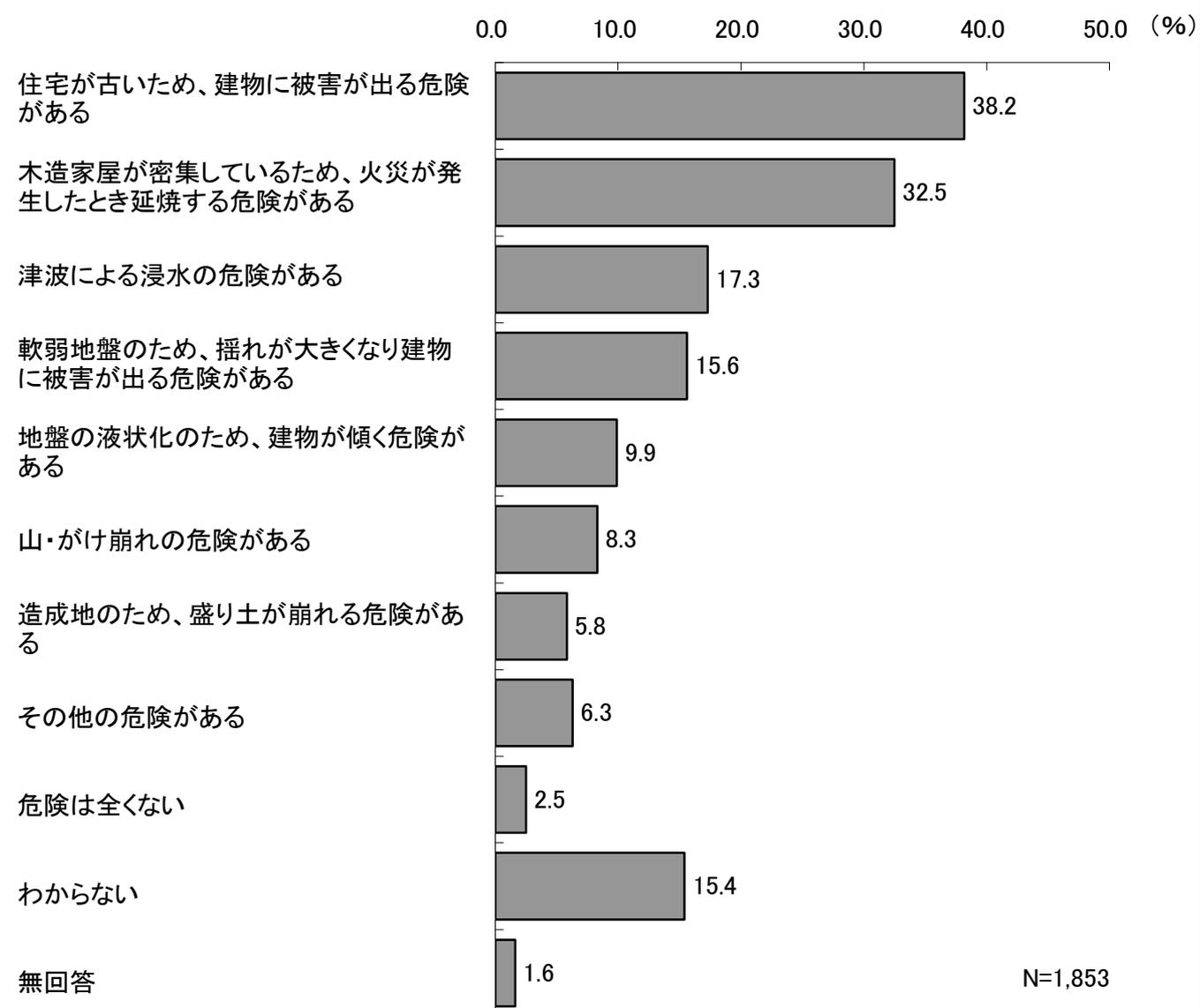
平成13年度の調査結果と比較すると、「明日起きてもおかしくないと思っている」が40.1%から49.3%に増加、「2～3年以内に起こりそう」が14.3%から6.4%に減少、「ここ10年くらいの間に起こりそう」が27.2%から22.6%に減少し、東海地震が起こる時期が近くなってきていると思っている人がふえていることがわかる。

【調査結果の経年比較】



(3) 大地震発生時の危険

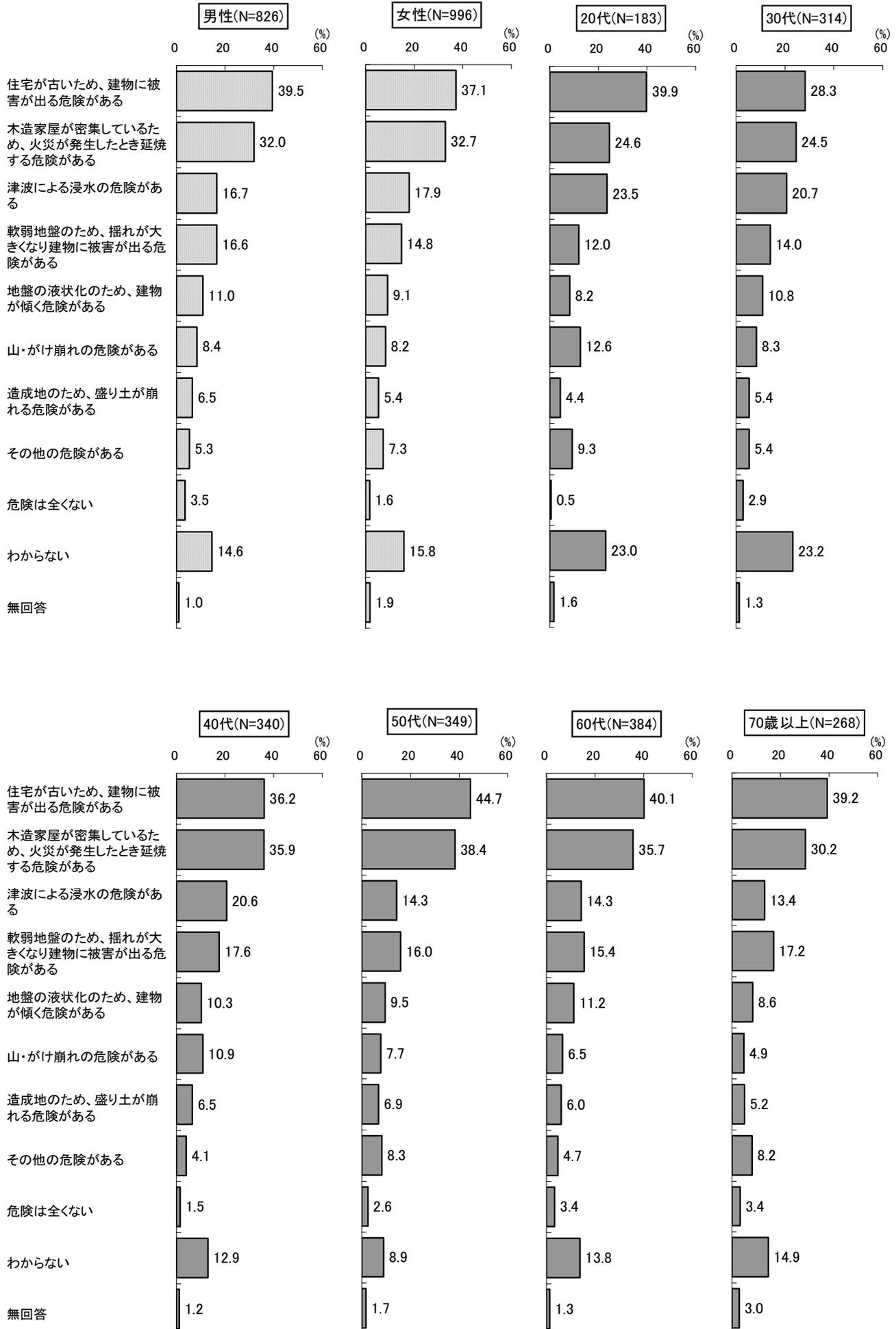
問3 『東海地震』などの大地震が起きた場合、あなたの住んでいる家では、どのような危険が予想されますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。



大地震が起きたとき、どのような危険が予想されるのか尋ねたところ、最も多かったのは、「住宅が古いため、建物に被害が出る危険がある」で 38.2%となった。次いで「木造家屋が密集しているため、火災が発生したとき延焼する危険がある」が 32.5%、「津波による浸水の危険がある」が 17.3%、「軟弱地盤のため、揺れが大きくなり建物に被害が出る危険がある」が 15.6%となっている。

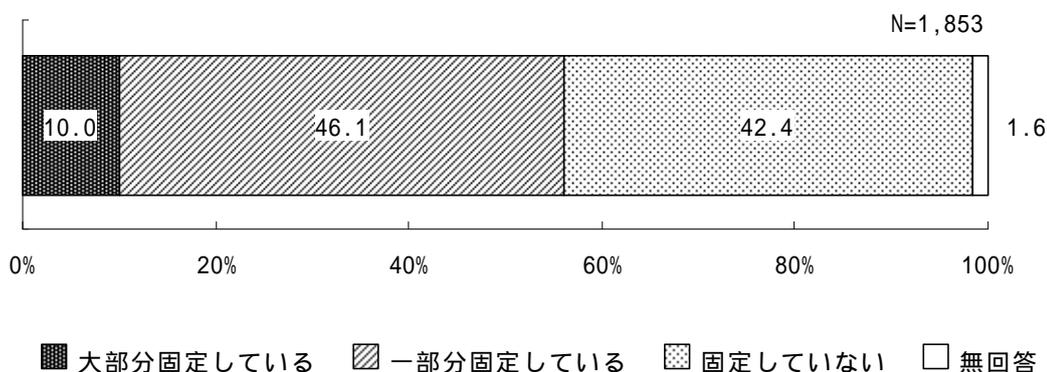
調査結果

【性別・年代別】



(4) 家具類固定の実施

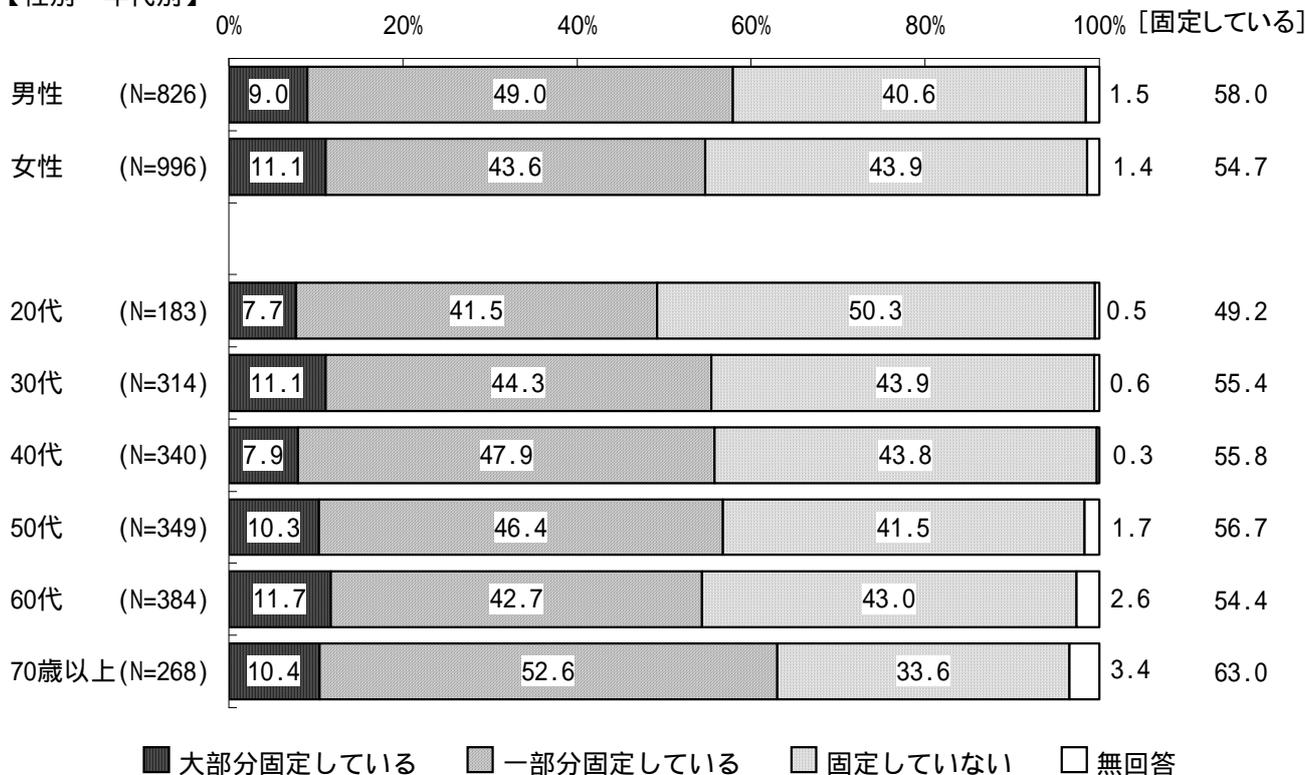
問4 あなたのお宅では『東海地震』などの大地震に備えて「家具類の固定」をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。



東海地震などの大地震に備えて「家具類の固定」をしているか尋ねたところ、「大部分固定している」が10.0%、「一部分固定している」が46.1%で、2つを合わせると56.1%となり半数以上が固定していることがわかった。逆に42.4%の世帯が固定していないことがわかった。

年代別に見ると、年齢が高くなるほど「固定している」と答えた人の割合は高くなるが、その割合は最も高い70歳以上でも6割強となっている。

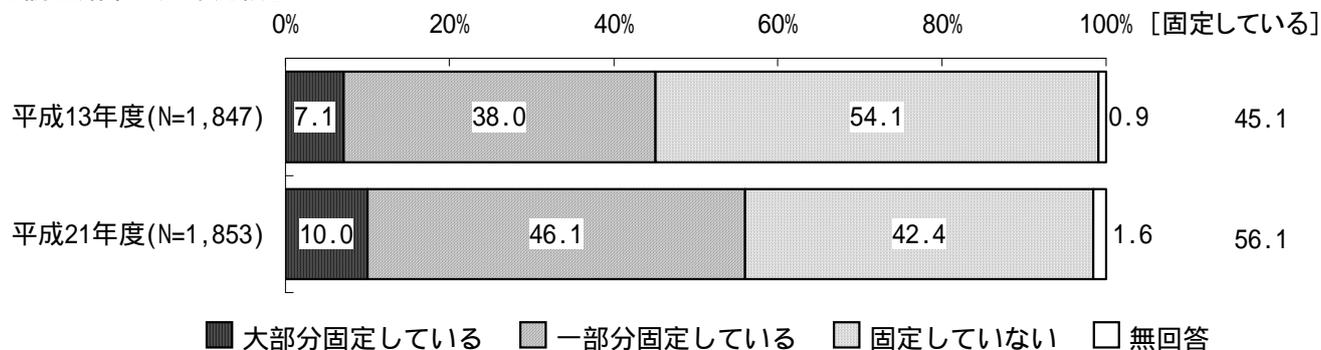
【性別・年代別】



調査結果

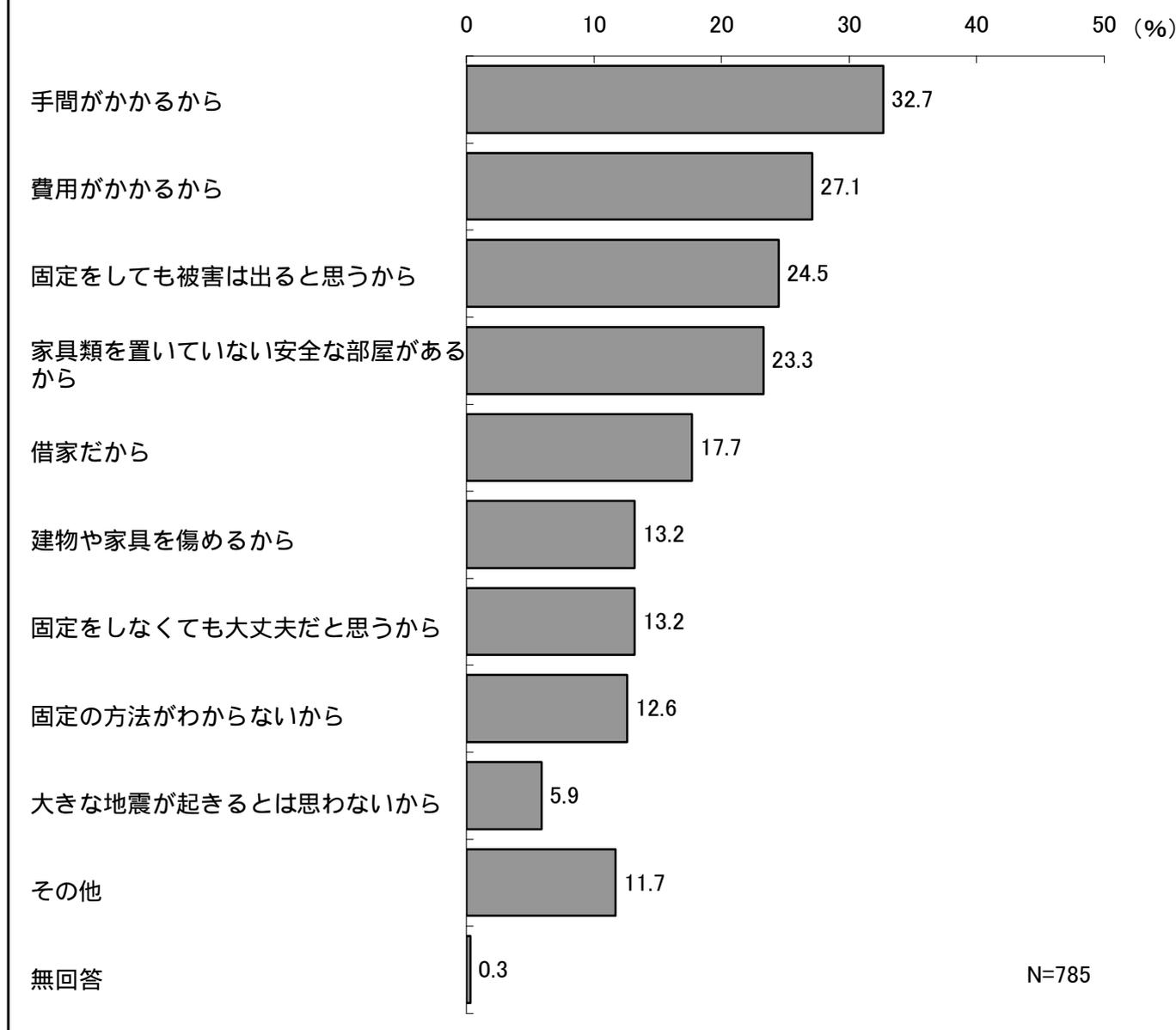
平成 13 年度の調査結果と比較すると、「大部分固定している」が 7.1%から 10.0%に増加、「一部固定している」が 38.0%から 46.1%に増加しており、2 つを合わせると固定していると答えた人が 45.1%から 56.1%と 11 ポイント増加していることがわかった。

【調査結果の経年比較】



(5) 「家具類の固定」をしていない理由

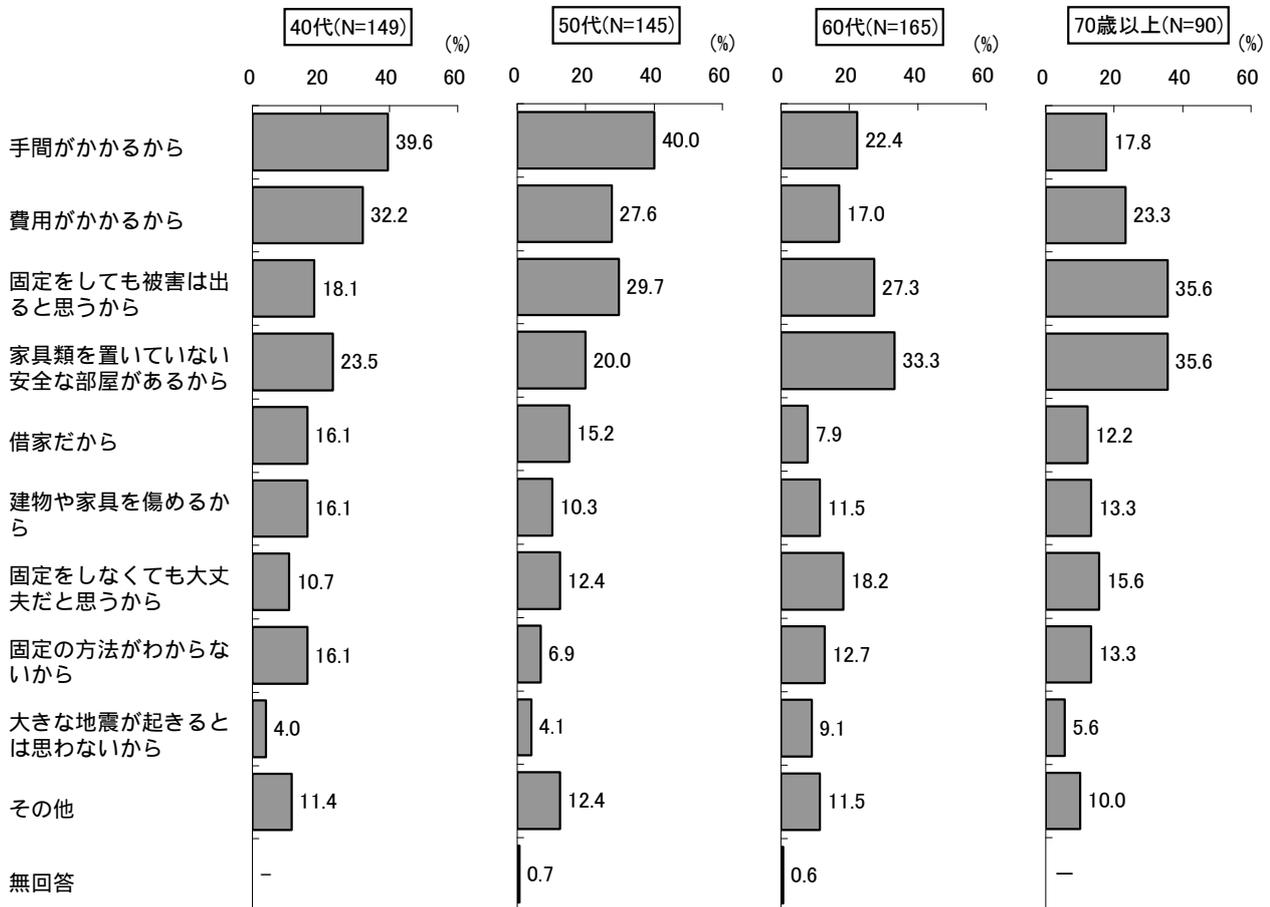
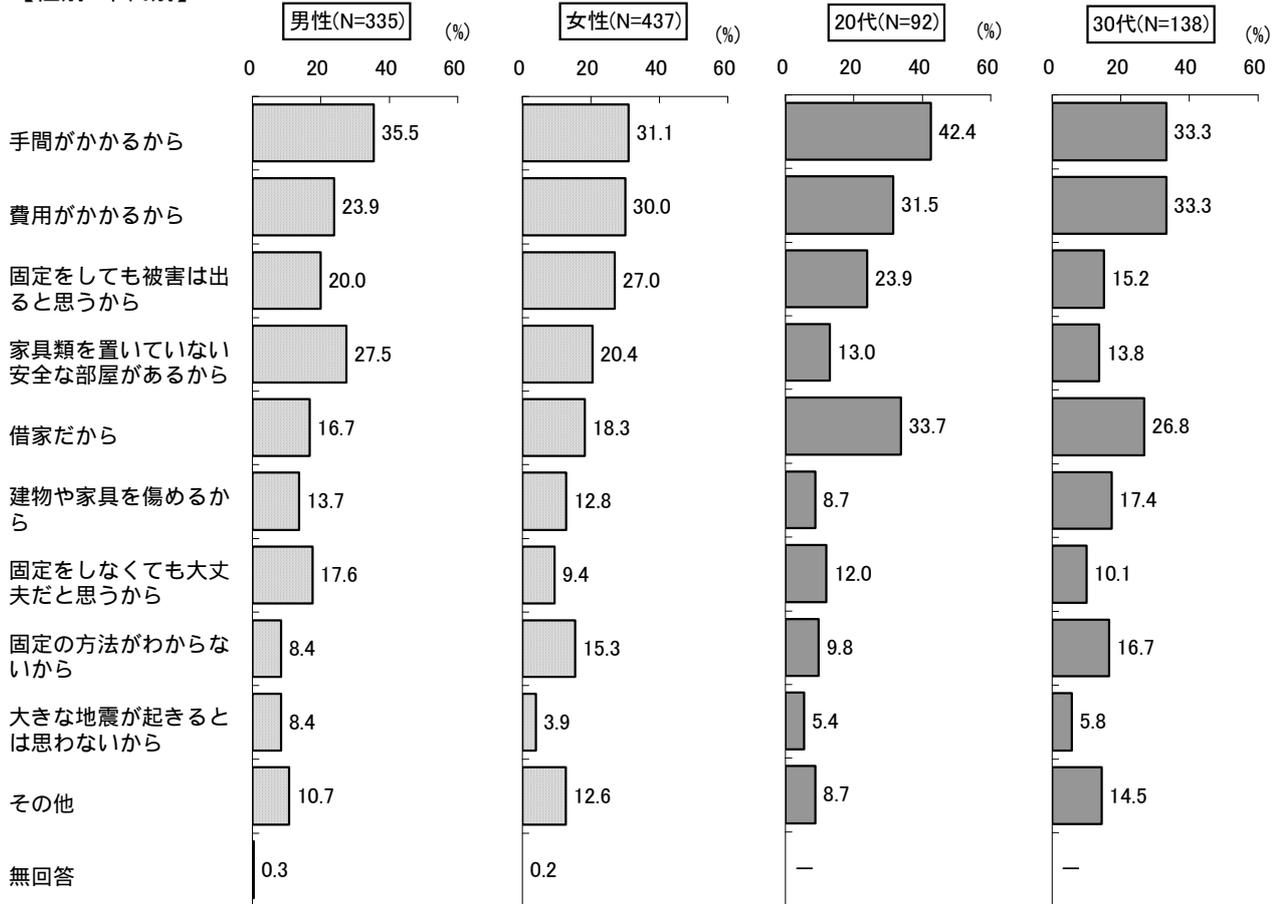
問4 - 1 「家具類の固定」をしていないのはどのような理由からですか。次の中から主なものを3つ以内で選んでください。



「家具類の固定」をしていない理由を尋ねたところ、最も多かったのは、「手間がかかるから」で32.7%となった。次いで「費用がかかるから」が27.1%、「固定をしても被害は出ると思うから」が24.5%、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が23.3%となっている。

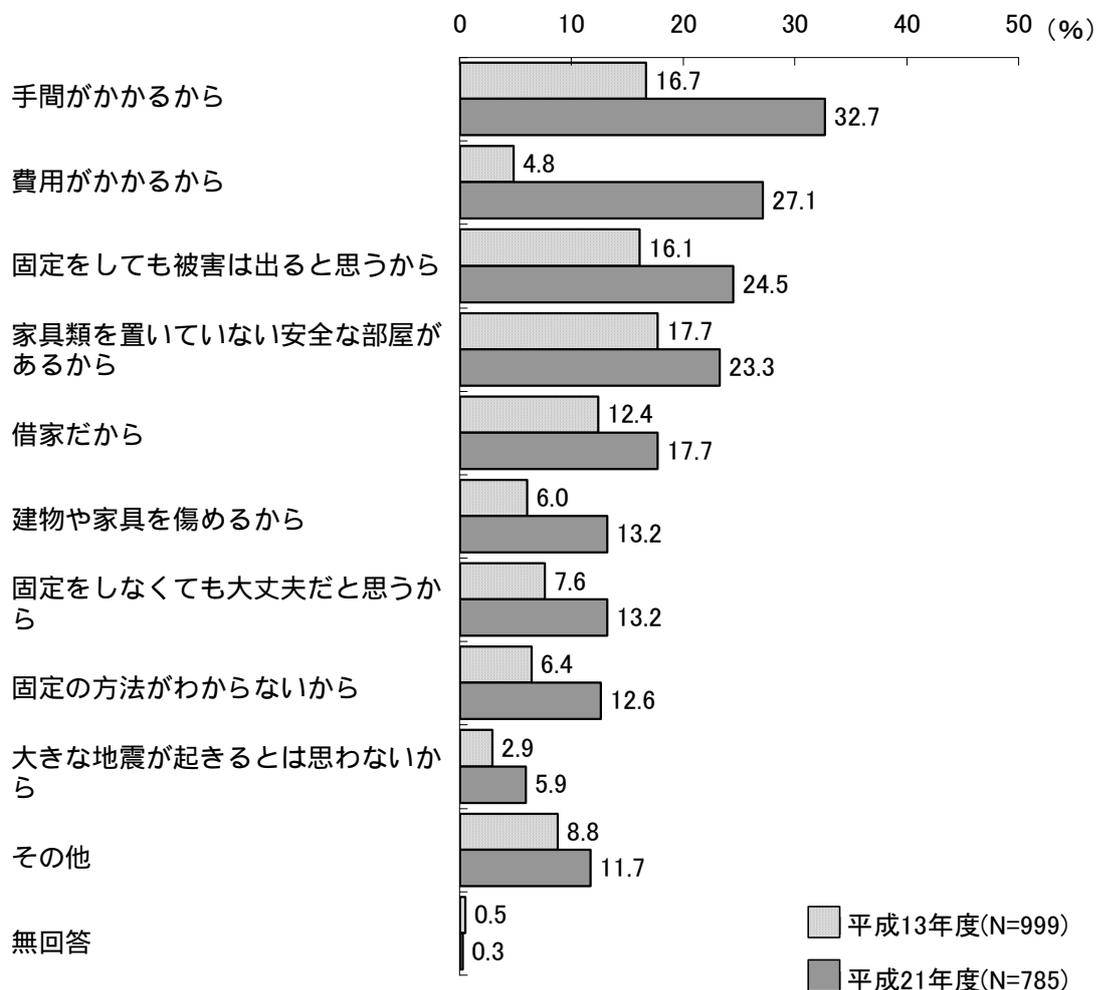
調査結果

【性別・年代別】



平成13年度の調査結果と比較すると、選択できる数がふえたため各項目とも増加しているが、その中でも「費用がかかるから」が4.8%から27.1%と22.3ポイント増加し、「手間がかかるから」が16.7%から32.7%と16ポイント増加している。

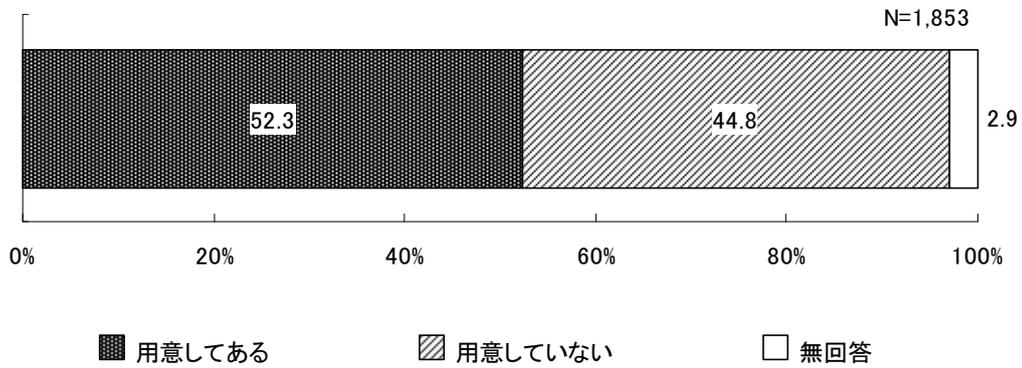
【調査結果の経年比較】



* 平成13年度は1つだけ、今回は3つまでの選択が可能

(6) 「非常持ち出し品」用意

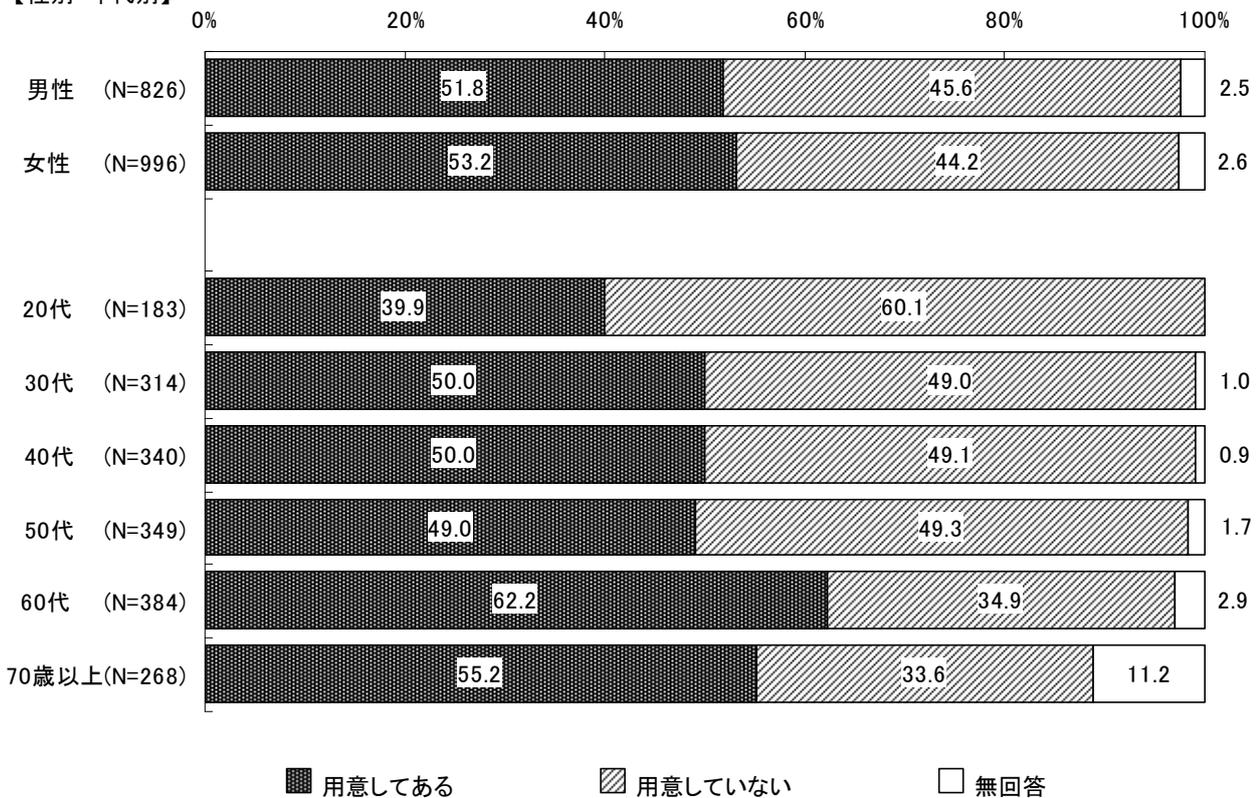
問5 あなたのお宅では『東海地震』などの災害に備えて「非常持ち出し品」の用意をしていますか。



東海地震などの災害に備えて「非常持ち出し品」の用意をしてあるか尋ねたところ、「用意してある」が52.3%、「用意していない」が44.8%となっている。

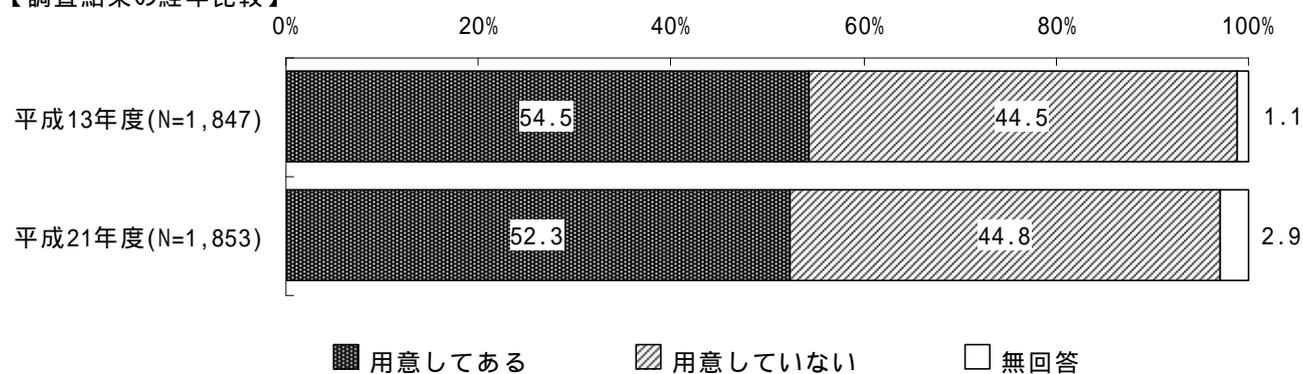
年代別に見ると、「用意してある」と答えた人の割合は60代が最も高く62.2%となり、逆に「用意していない」と答えた人の割合が最も高い年代は20代となっている。

【性別・年代別】



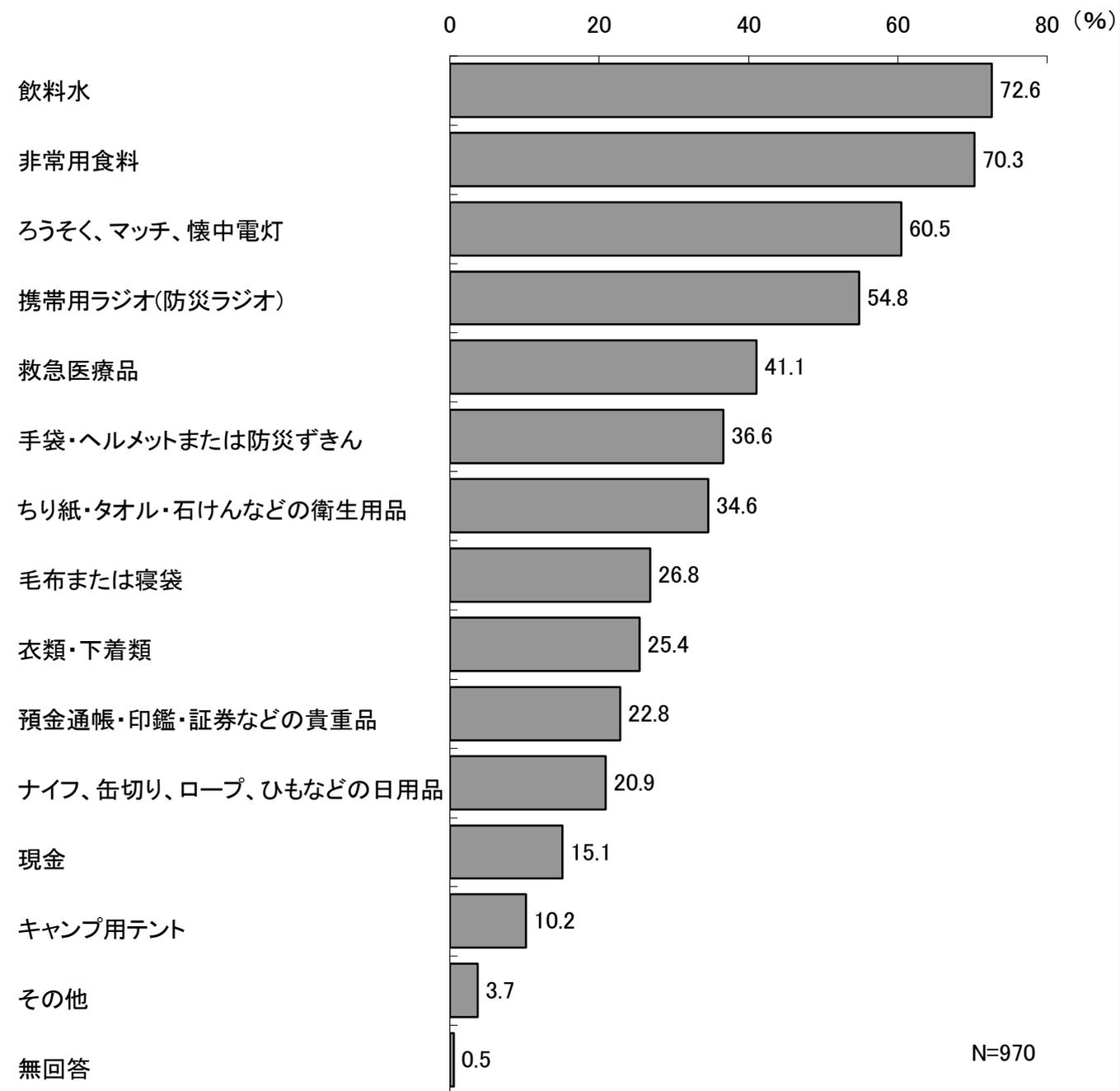
平成 13 年度の調査結果と比較すると、「用意してある」が 54.5%から 52.3%に若干減少しているが、「用意していない」は 44.5%から 44.8%でほぼ同じである。

【調査結果の経年比較】



(7) 「非常持ち出し品」として用意してあるもの

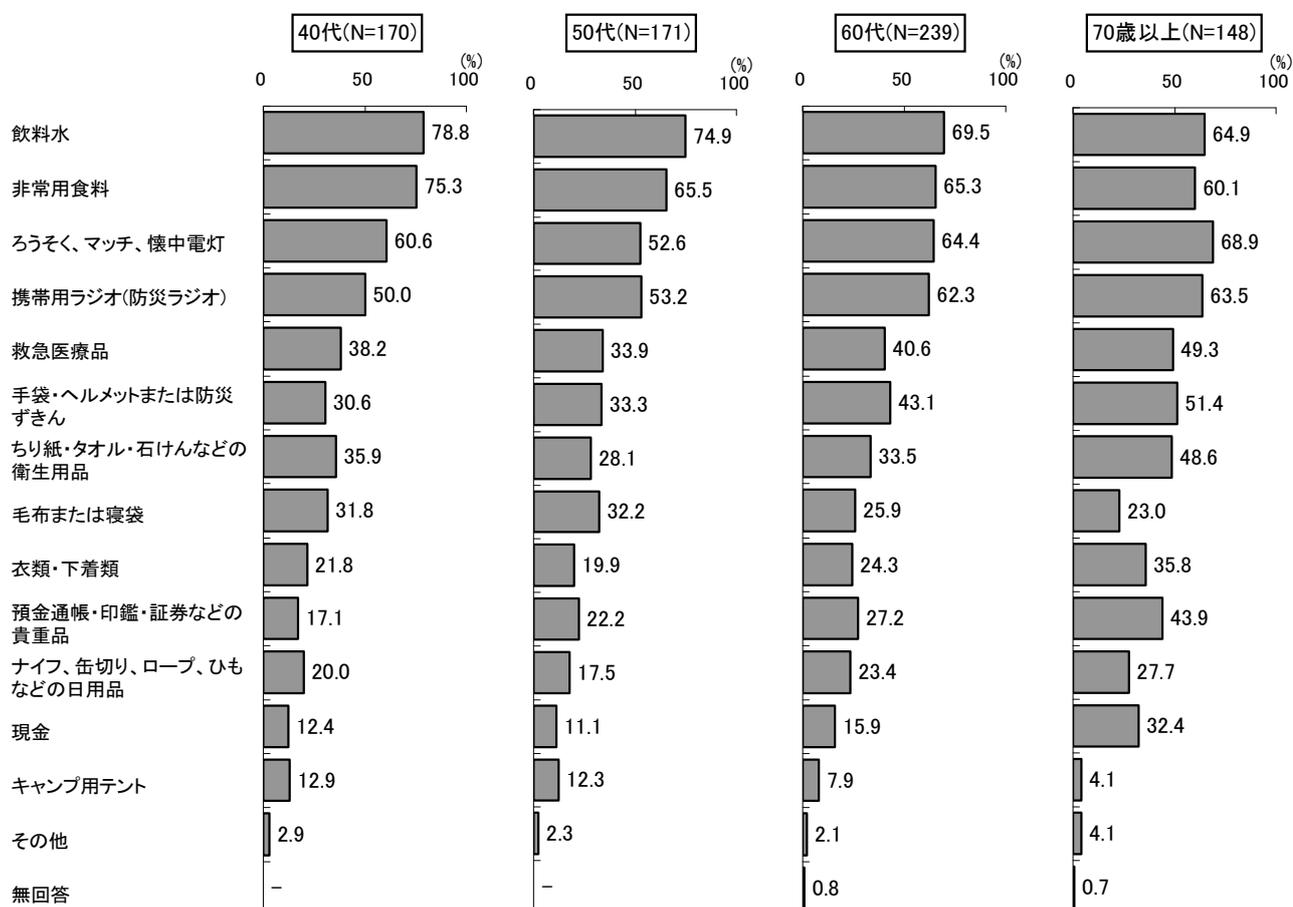
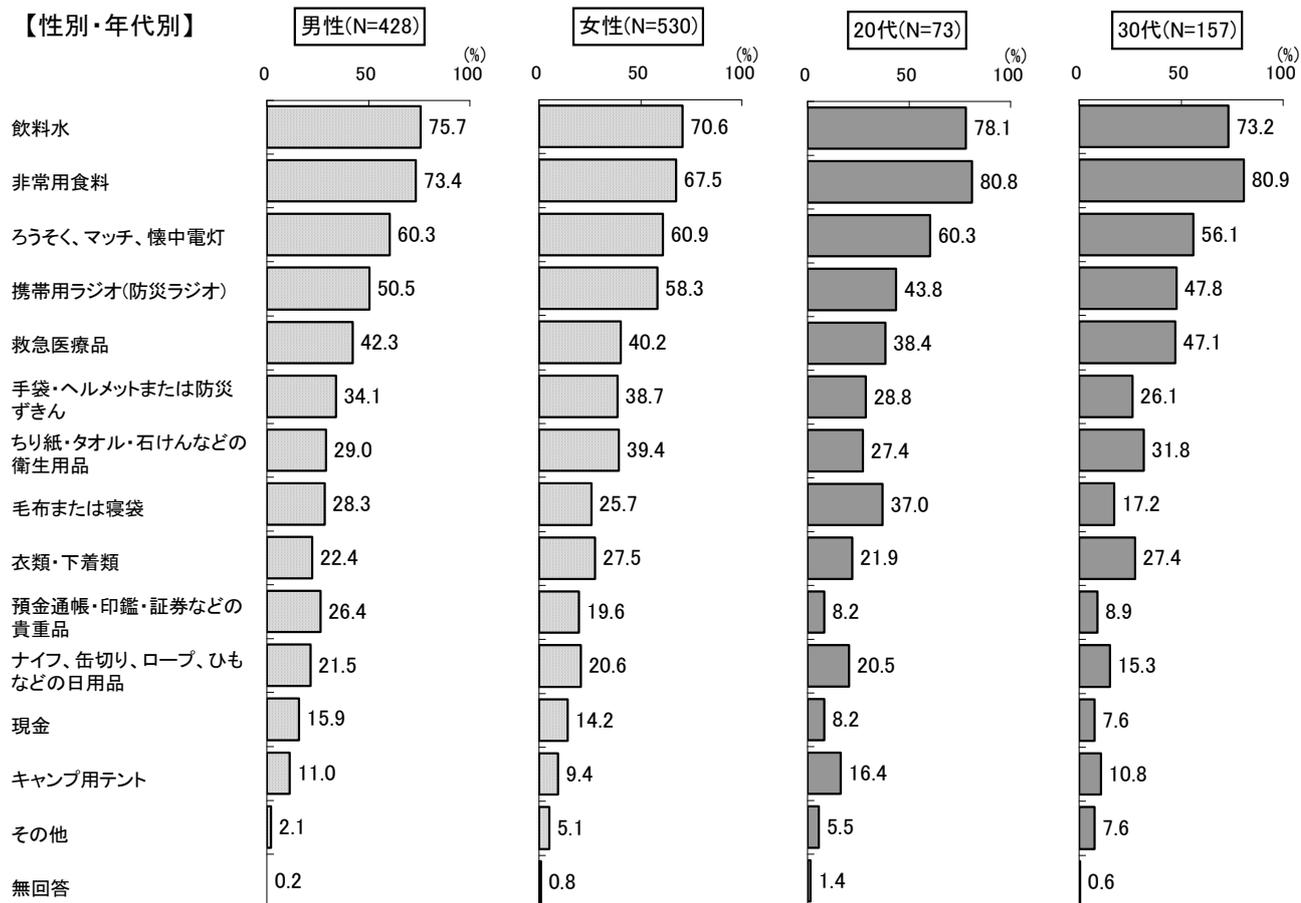
問5 - 1 「非常持ち出し品」としてどのようなものを用意してありますか。次の中から用意してあるものをすべて選んでください。



「非常持ち出し品」の用意をしてある人に、「非常持ち出し品」として用意してあるものを尋ねたところ、最も多かったものは、「飲料水」で72.6%となった。次いで「非常用食料」が70.3%、「ろうそく、マッチ、懐中電灯」が60.5%、「携帯用ラジオ（防災ラジオ）」が54.8%となっている。

年代別に見ると、20代から60代までは「飲料水」または「非常用食料」が1位、2位となっているが、70歳以上だけ、最も多いものが「ろうそく、マッチ、懐中電灯」となっている。

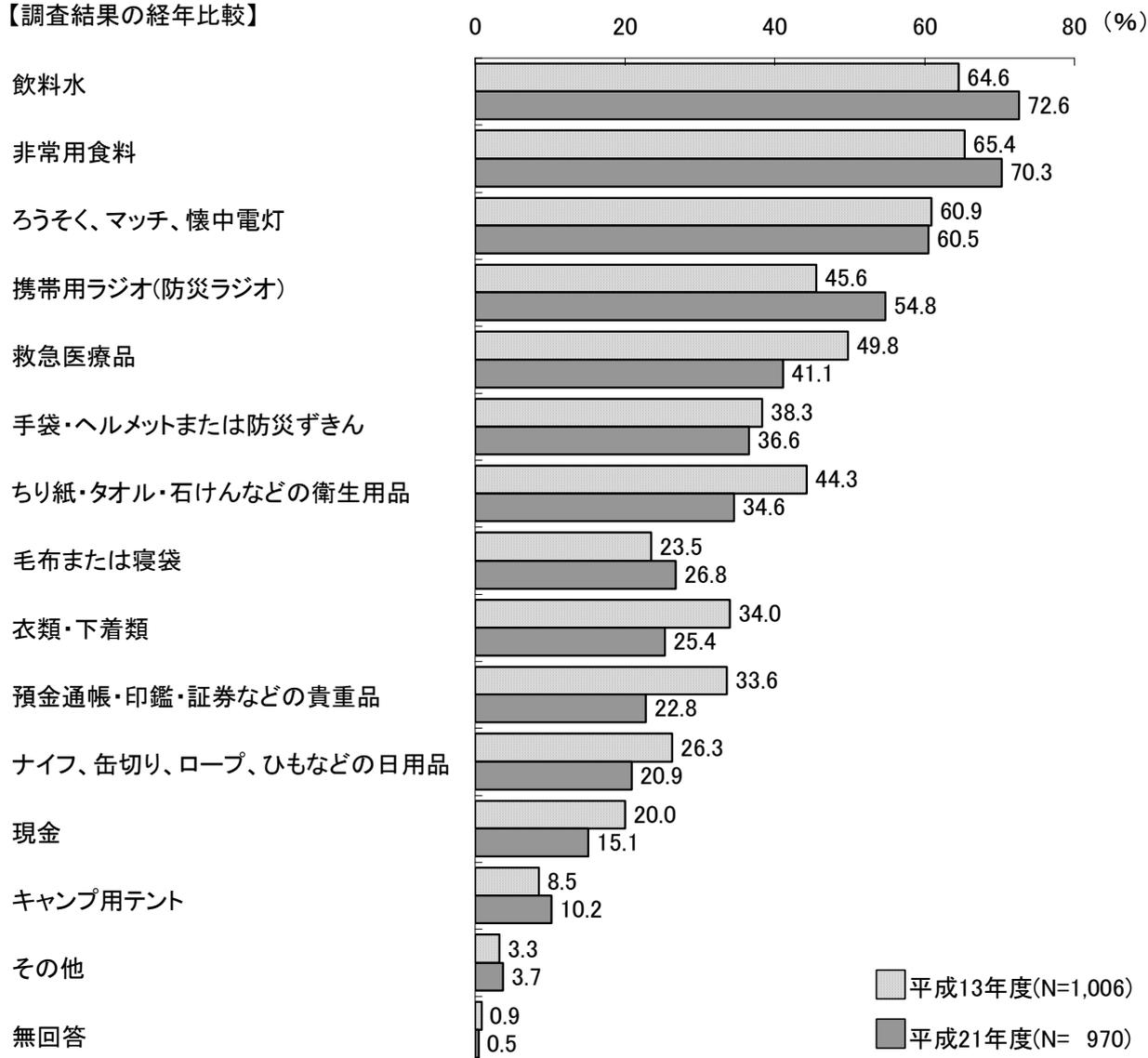
【性別・年代別】



調査結果

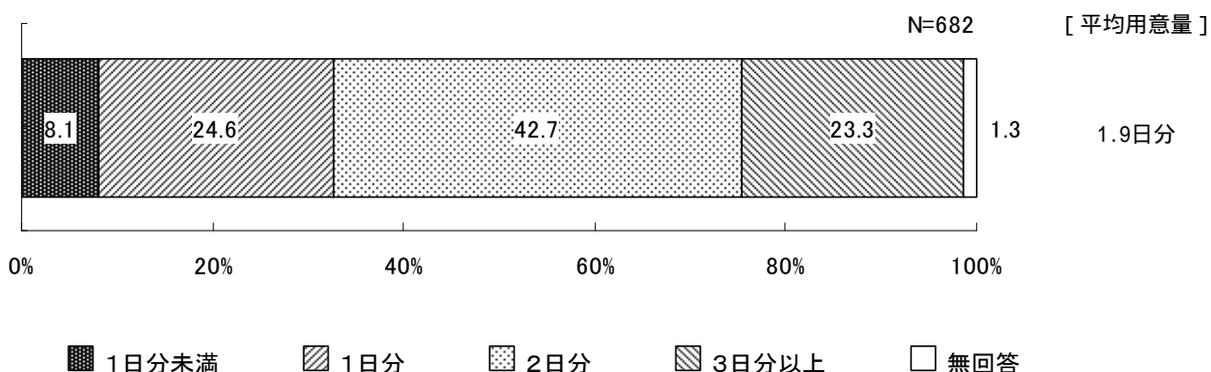
平成 13 年度の調査結果と比較すると、増加しているものは「携帯用ラジオ（防災ラジオ）」が 45.6% から 54.8%、「飲料水」が 64.6% から 72.6%、「非常用食料」が 65.4% から 70.3% となっている。逆に減少しているものは、「預金通帳・印鑑・証券などの貴重品」が 33.6% から 22.8%、「ちり紙・タオル・石けんなどの衛生用品」が 44.3% から 34.6%、「救急医療品」が 49.8% から 41.1%、「衣類・下着類」が 34.0% から 25.4% となっている。

【調査結果の経年比較】



(8) 「非常用食料」用意量

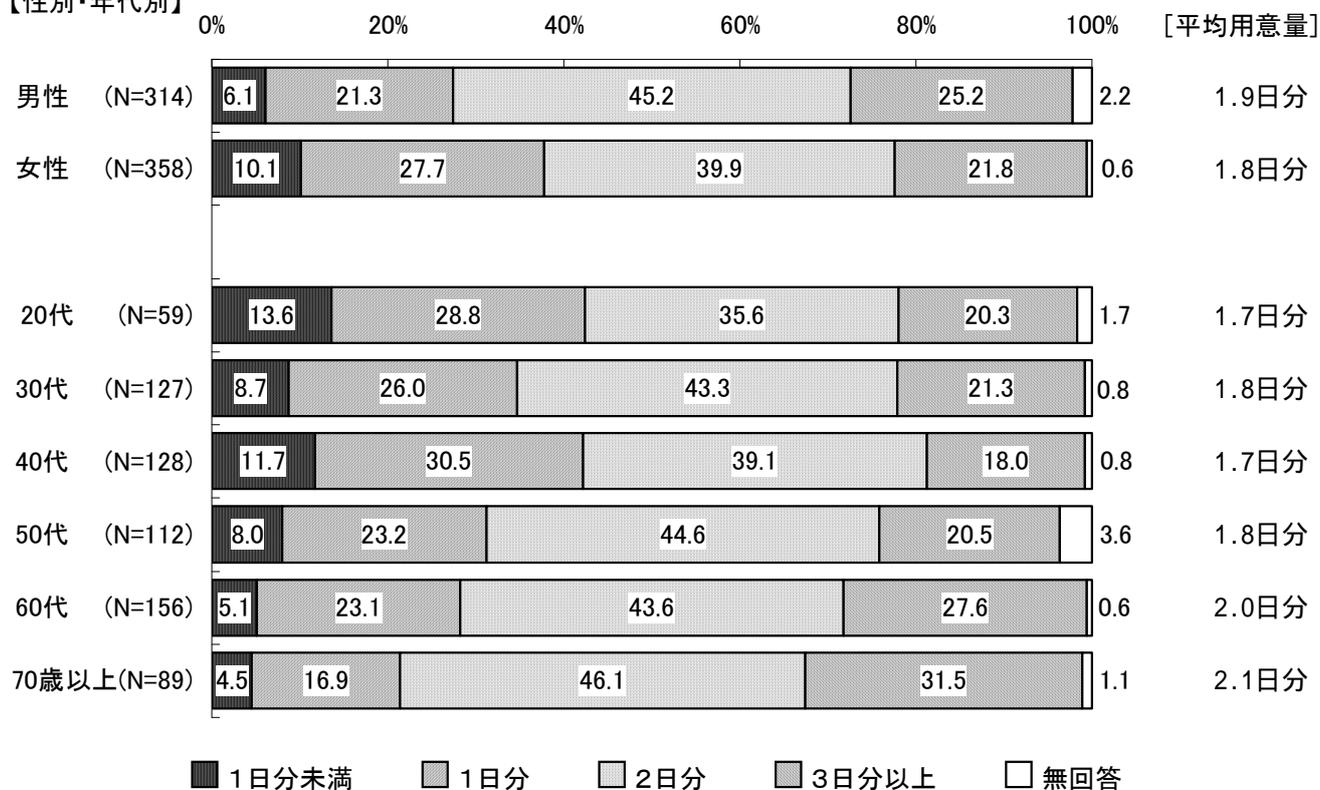
問5 - 1 - 1 「非常用食料」はどのくらい用意してありますか。次の中から1つだけ選んでください。



非常用食料を用意してある人に、用意してある量を尋ねたところ、必要となる「3日分以上」は23.3%で、「2日分」が最も多く42.7%となった。平均用意量は、1.9日分となった。

年代別に見ると、平均用意量が最も多い年代は、70歳以上が2.1日分、次いで60代が2.0日分となった。

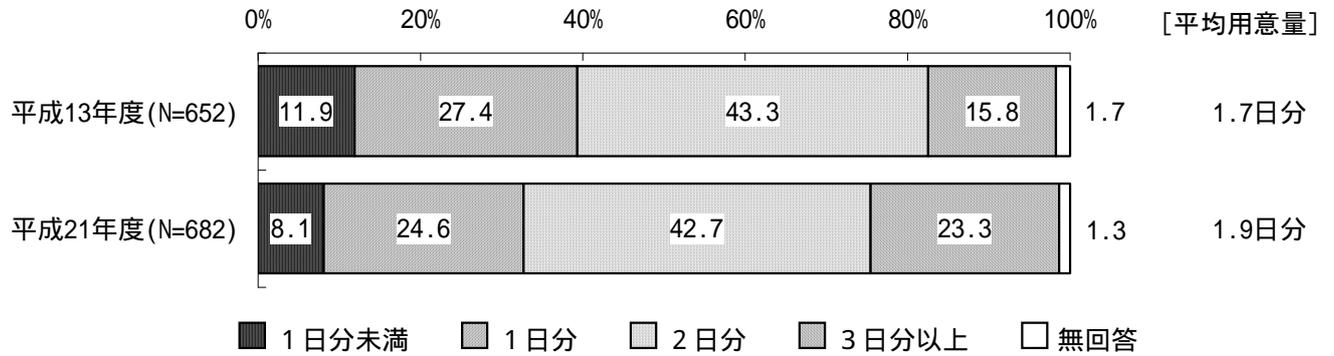
【性別・年代別】



調査結果

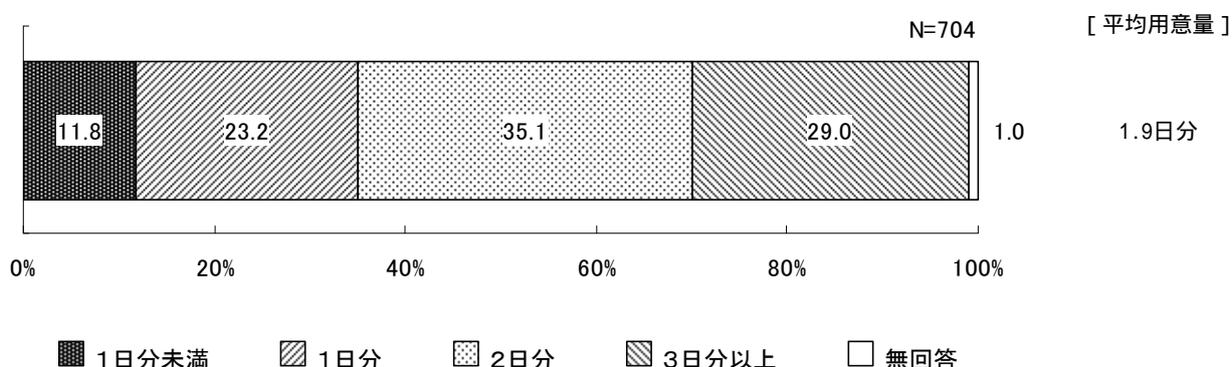
平成 13 年度の調査結果と比較すると、「3 日分以上」用意してあると答えた人が 15.8%から 23.3%に増加しているため、平均用意量が 1.7 日分から 1.9 日分に増加している。

【調査結果の経年比較】



(9) 「飲料水」用意量

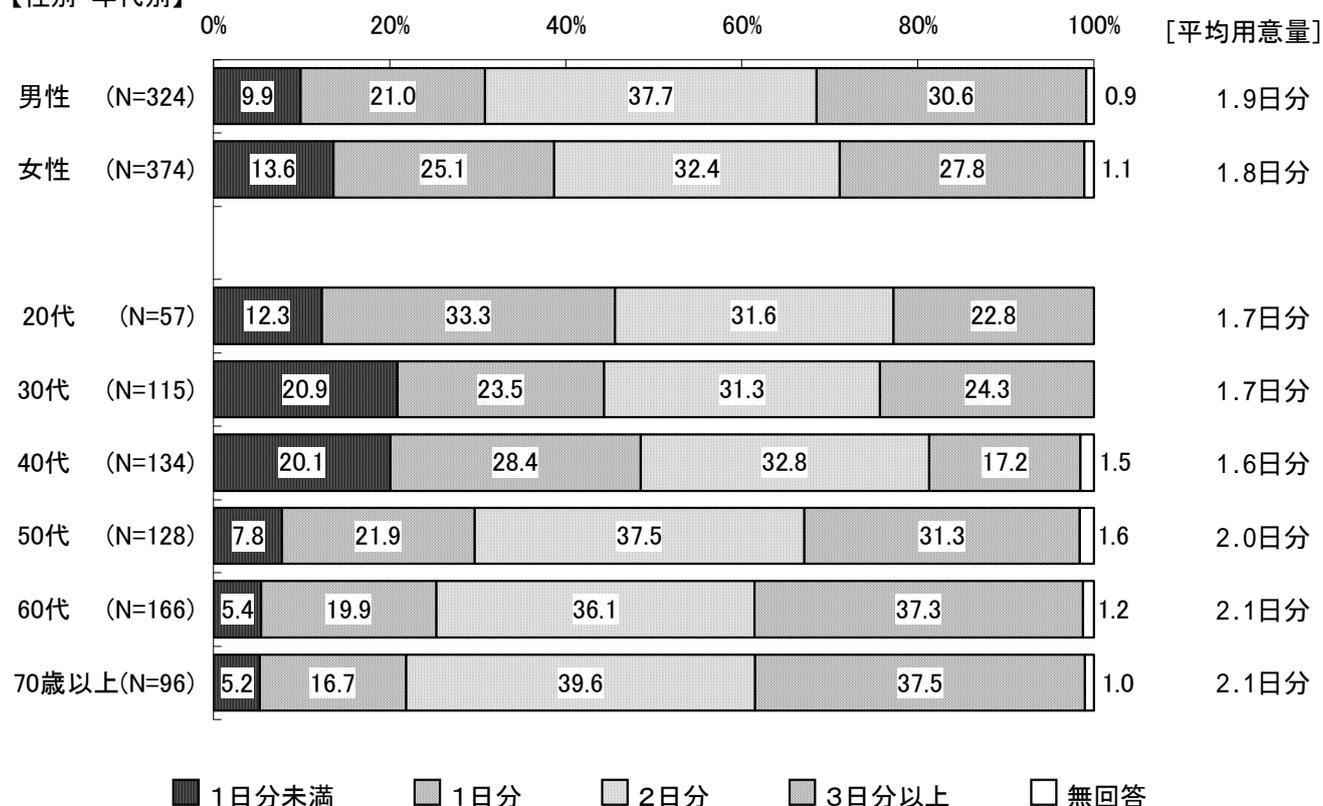
問5 - 1 - 2 「飲料水(1人1日3リットル必要)」はどのくらい用意してありますか。次の中から1つだけ選んでください。



飲料水を用意してある人に、用意してある量を尋ねたところ、必要となる「3日分以上」は29.0%で、「2日分」が最も多く35.1%となった。平均用意量は1.9日分となった。

年代別に見ると、平均用意量が最も多い年代は、60代と70歳以上の2.1日分、次いで50代が2.0日分となった。

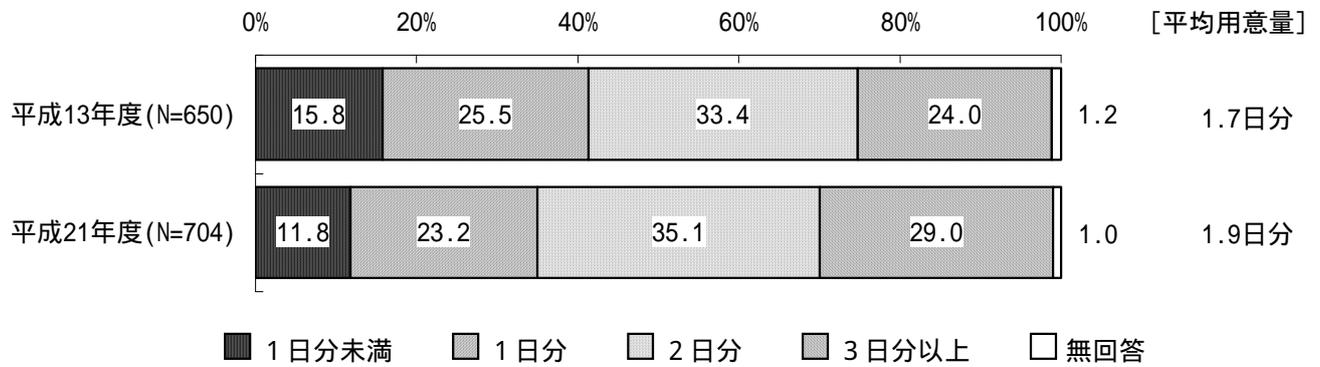
【性別・年代別】



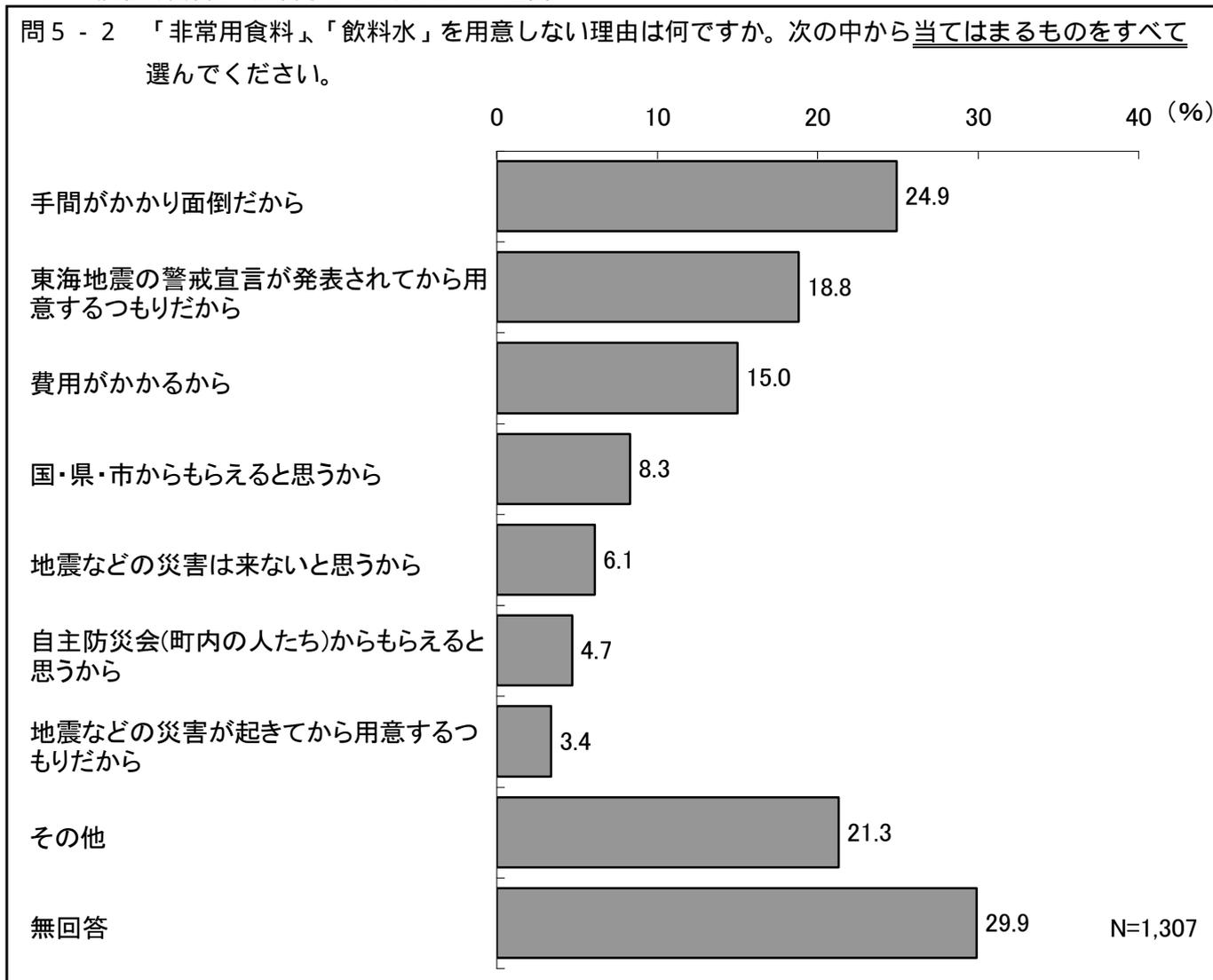
調査結果

平成 13 年度の調査結果と比較すると、「3 日分以上」用意してあると答えた人が 24.0%から 29.0%に増加しているため、平均用意量が 1.7 日分から 1.9 日分へ増加している。

【調査結果の経年比較】



(10) 「非常用食料」「飲料水」を用意しない理由

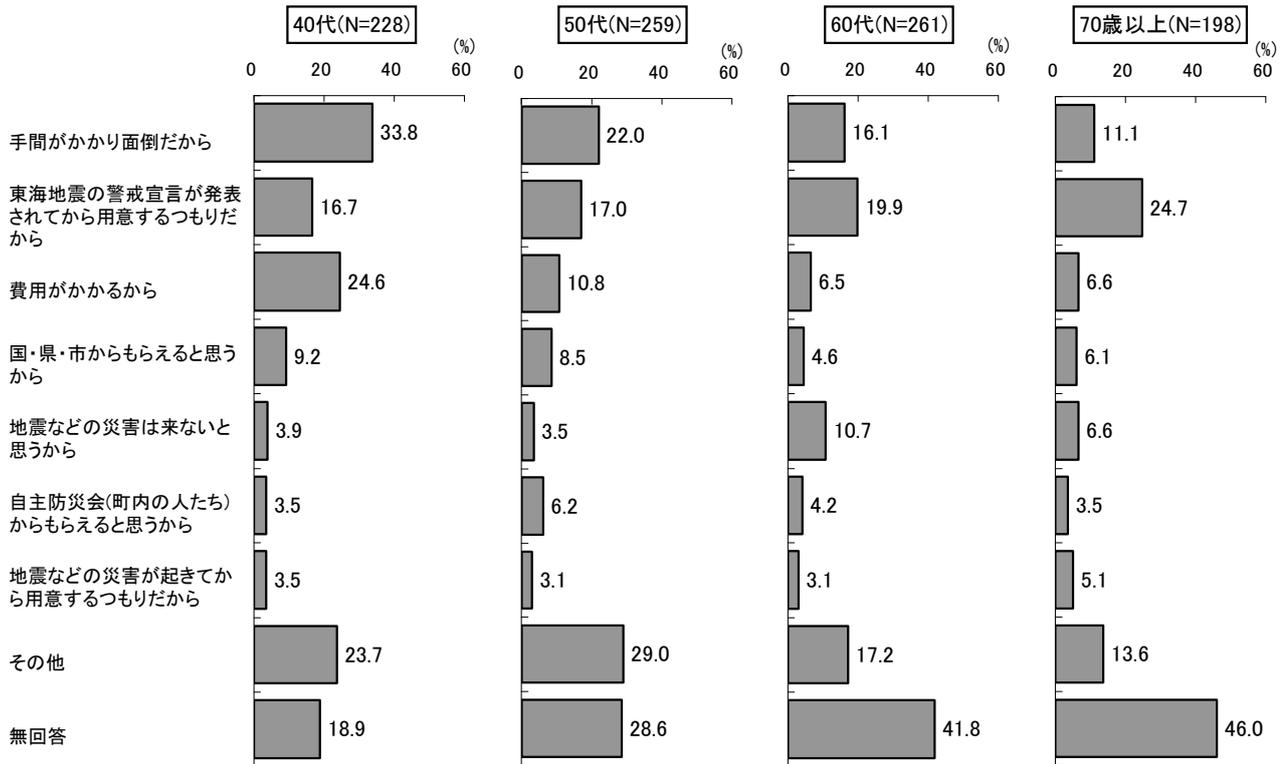
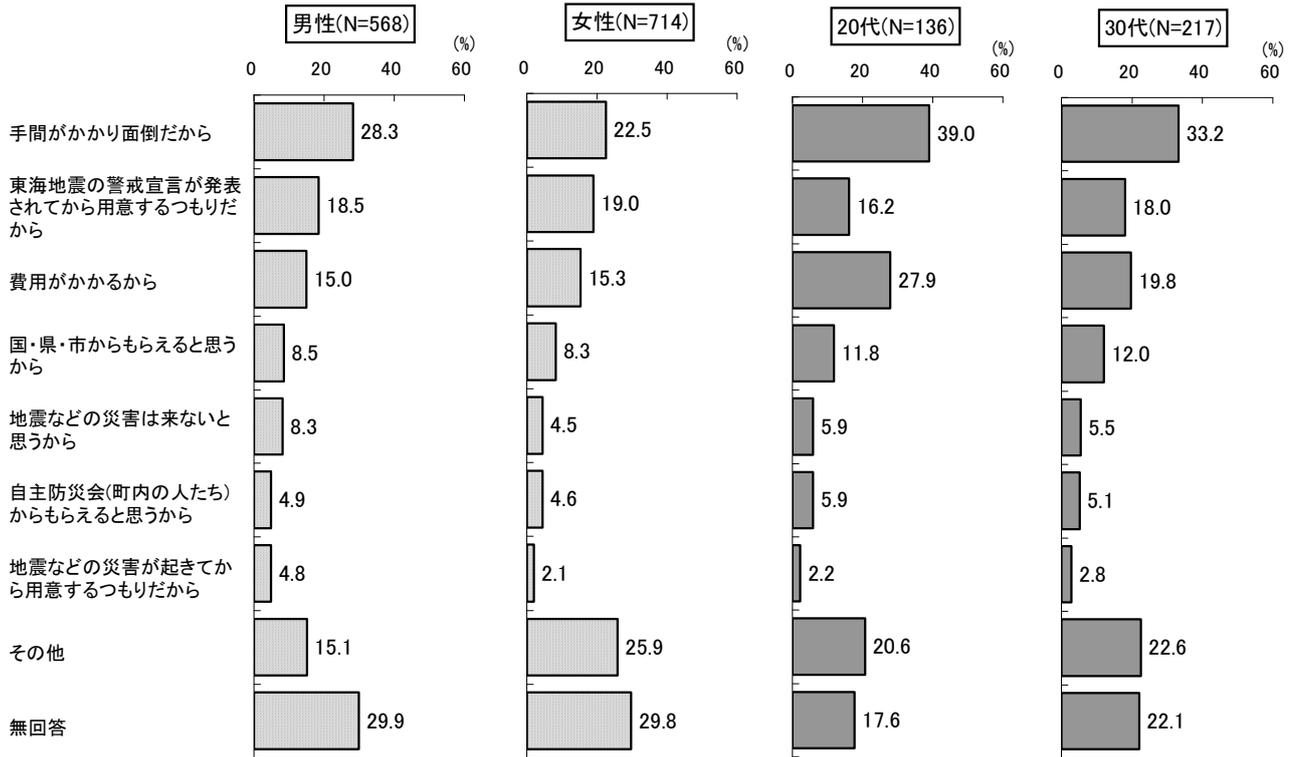


非常用食料、飲料水を用意していない人に、その理由を尋ねたところ、最も多かったものは、「手間がかかり面倒だから」が 24.9%となっている。次いで「東海地震の警戒宣言が発表されてから用意するつもりだから」が 18.8%、「費用がかかるから」が 15.0%となっている。

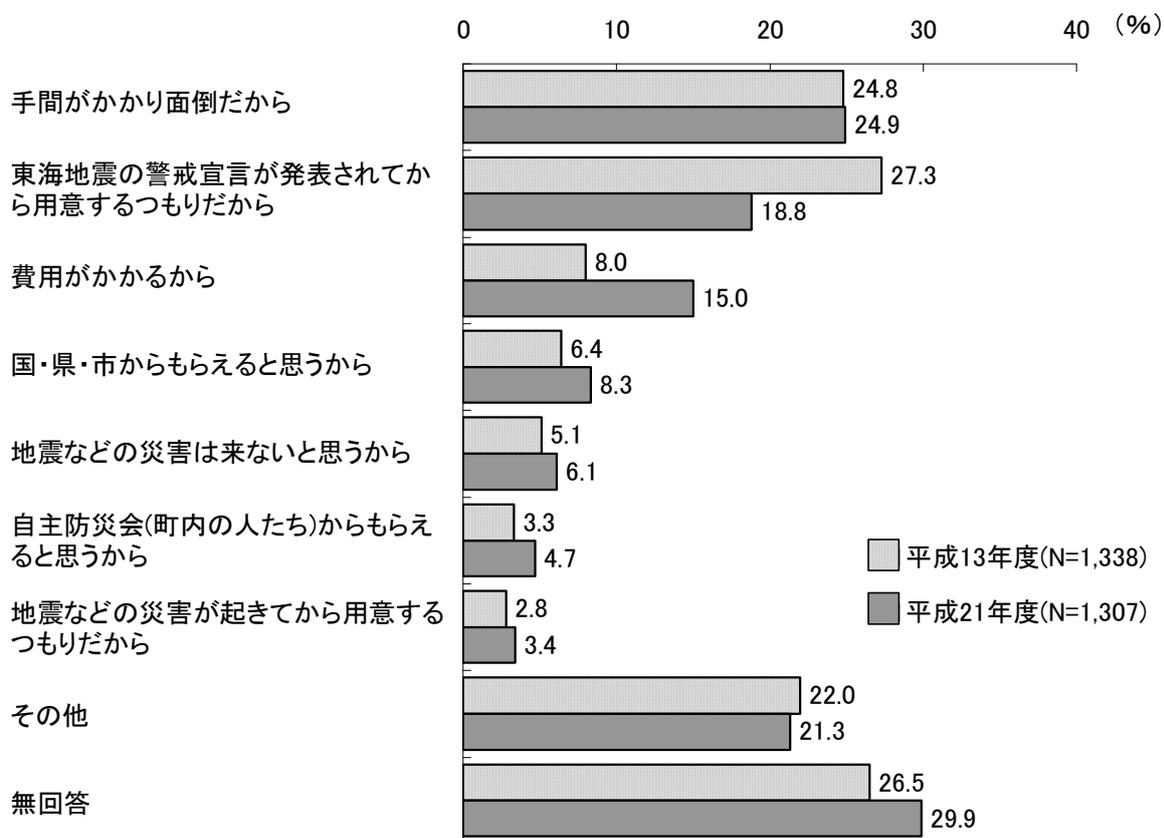
年代別に見ると、「手間がかかり面倒だから」が 20代から 50代で最も多くなっているが、60代、70歳以上では、「東海地震の警戒宣言が発表されてから用意するつもりだから」が最も多くなっている。

調査結果

【性別・年代別】

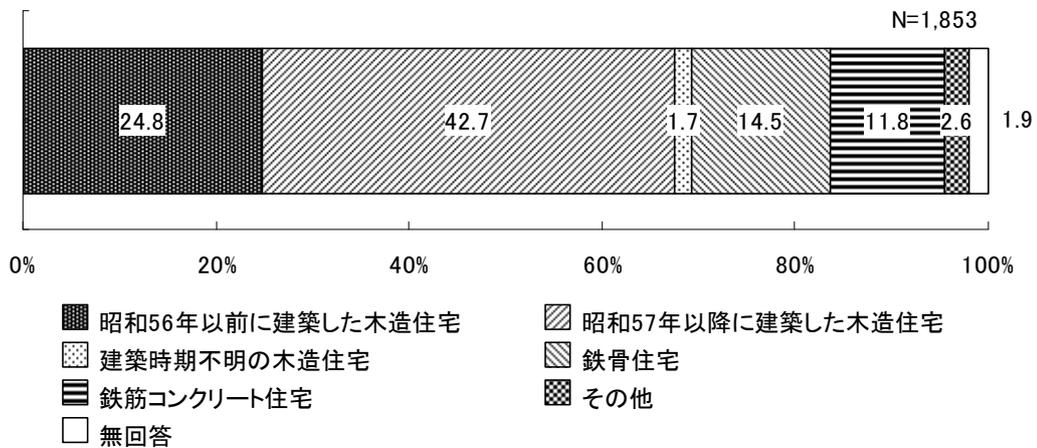


平成13年度の調査結果と比較すると、「費用がかかるから」という理由は8.0%から15.0%に増加している。逆に「東海地震の警戒宣言が発表されてから用意するつもりだから」という理由は、27.3%から18.8%に減少している。



(11) 居住住宅

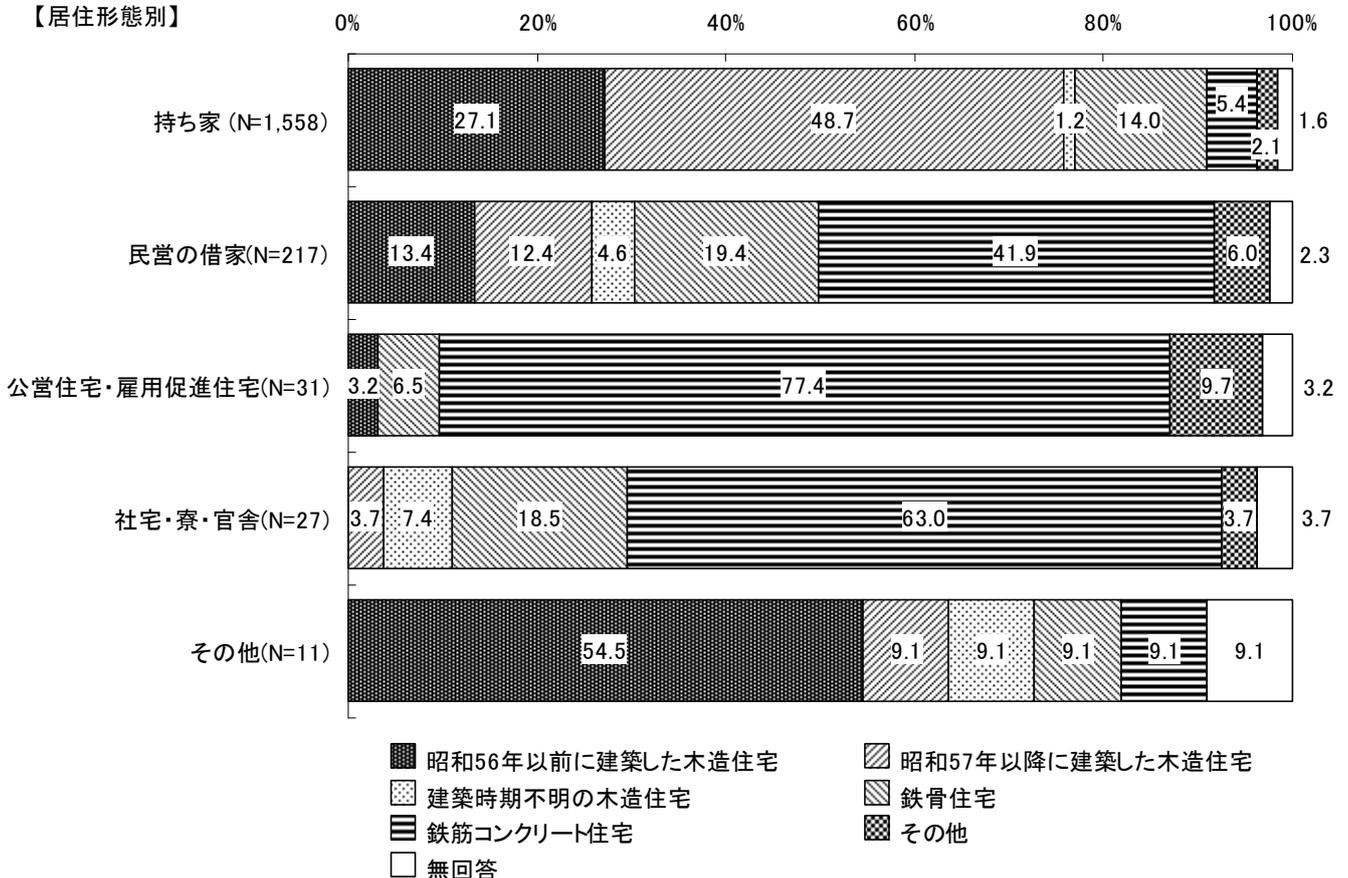
問6 あなたの住んでいる家は、どれに当たりますか。次の中から1つだけ選んでください。



居住住宅について尋ねたところ、「昭和56年以前に建築した木造住宅」は24.8%で、「昭和57年以降に建築した木造住宅」は42.7%、「建築時期不明の木造住宅」は1.7%で、合わせると木造住宅に住んでいる人は69.2%となった。

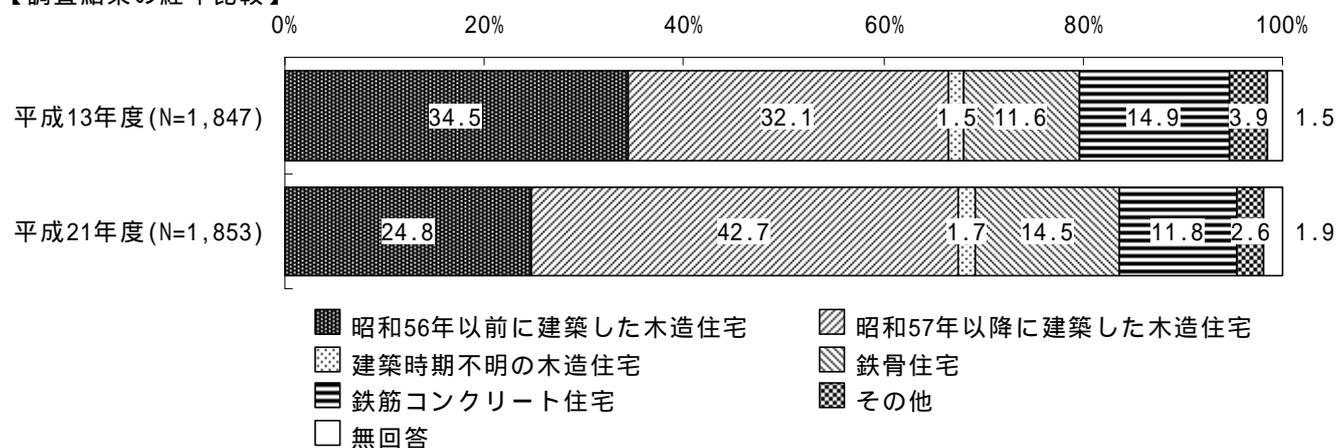
居住形態別に見ると、持ち家の内訳は、「昭和56年以前に建築した木造住宅」が27.1%、「昭和57年以降に建築した木造住宅」が48.7%、「建築時期不明の木造住宅」が1.7%となった。民営の借家は、「木造」が30.4%、「鉄骨住宅」が19.4%、「鉄筋コンクリート」が41.9%となった。公営住宅・雇用促進住宅、社宅・寮・官舎の大半は、鉄筋コンクリート住宅であることがわかった。

【居住形態別】



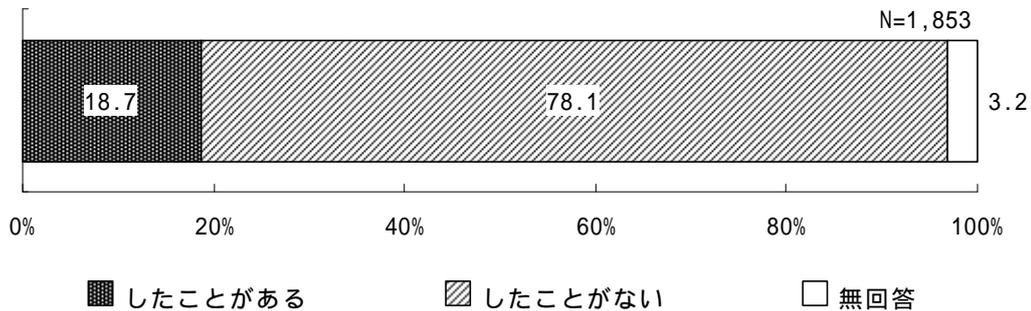
平成13年度の調査結果と比較すると、「昭和56年以前に建築した木造住宅」は34.5%から24.8%に減り、逆に「昭和57年以降に建築した木造住宅」は、32.1%から42.7%へ増加した。また、「鉄骨住宅」も11.6%から14.5%に増加した。

【調査結果の経年比較】



(12) 「家屋の耐震診断」経験

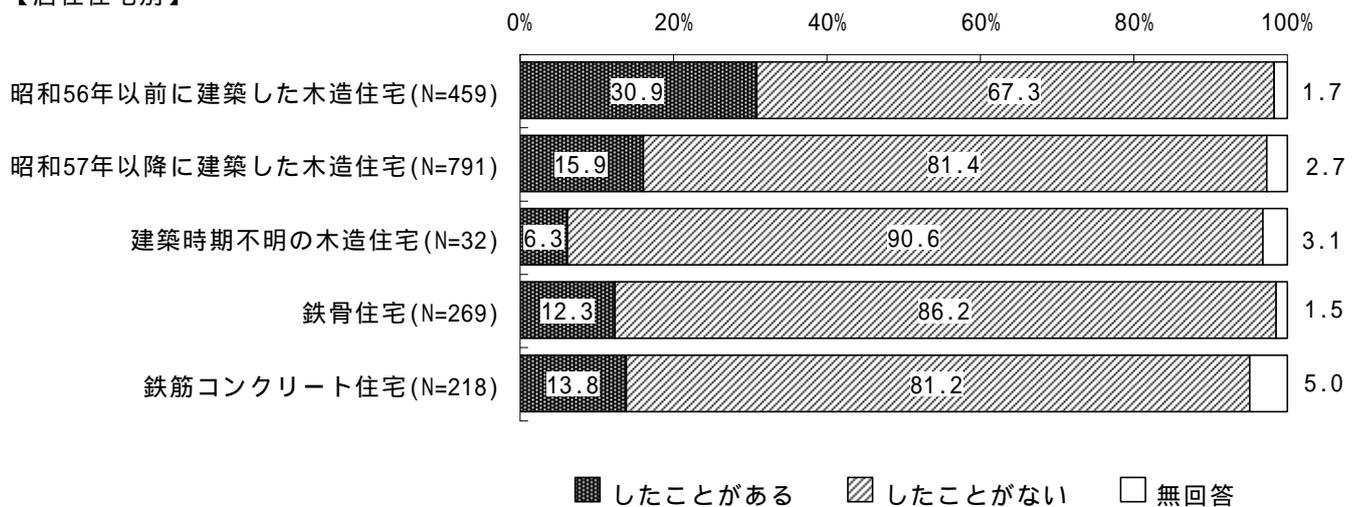
問7 あなたのお宅では、これまでに自分が住んでいる家屋の耐震診断をしたことがありますか。



家屋の耐震診断をしたことがあるか尋ねたところ、「したことがある」は18.7%で、「したことがない」は78.1%となった。

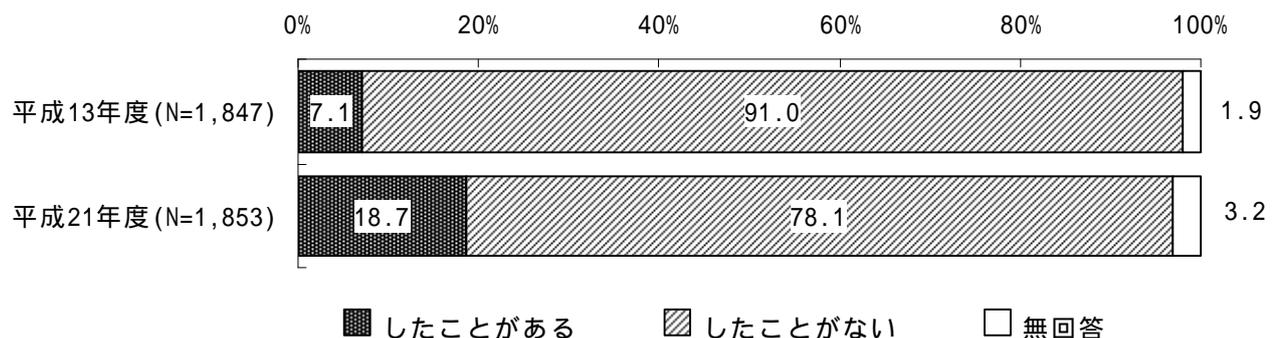
これを居住形態別に見ると、昭和56年以前に建築した木造住宅の世帯で、耐震診断をしたと答えた人は30.9%にとどまり、7割弱の世帯では実施していないことがわかった。

【居住住宅別】

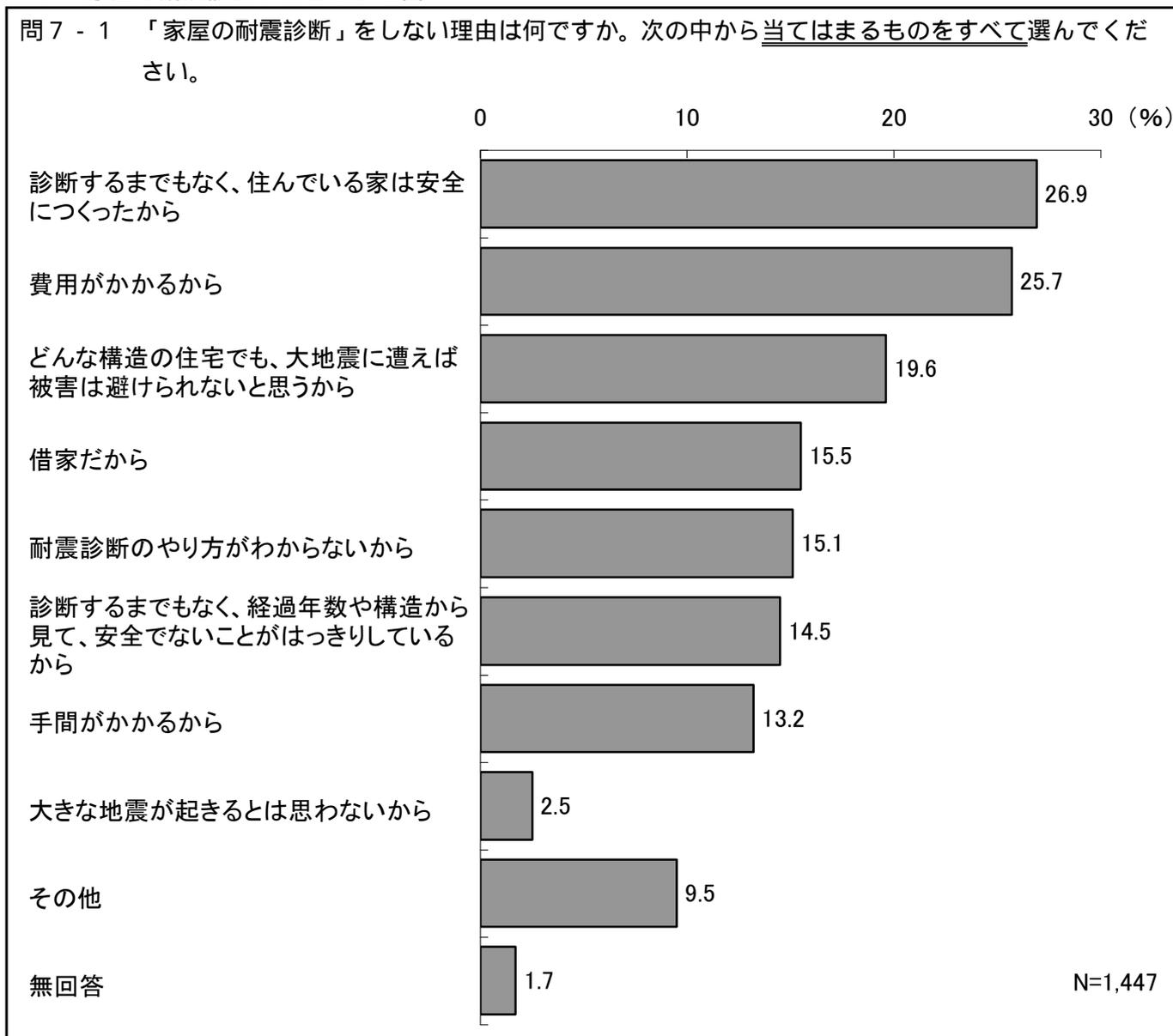


平成13年度の調査結果と比較すると、「したことがある」と答えた人は7.1%から18.7%に増加し、耐震診断をしたことがある人はふえていることがわかった。

【調査結果の経年比較】



(13) 「家屋の耐震診断」をしない理由



「家屋の耐震診断」をしない理由を尋ねたところ、最も多かった理由は、「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから」で26.9%となっている。次いで「費用がかかるから」が25.7%、「どんな構造の住宅でも、大地震に遭えば被害は避けられないと思うから」が19.6%となっている。

居住住宅別に耐震診断をしない理由を見ると、昭和56年以前に建築した木造住宅では、「費用がかかるから」が32.5%で最も多く、次いで「診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことがはっきりしているから」が26.8%となった。「診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから」が最も多かったのは、昭和57年以降に建築した木造住宅と鉄骨住宅で、「借家だから」が最も多かったのは、建築時期不明の木造住宅と鉄筋コンクリート住宅となった。

調査結果

《居住住宅別》

【昭和56年以前に建築した木造住宅(N=459)】

順位	項目	%
1	費用がかかるから	32.5
2	診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことがはっきりしているから	26.8
3	どんな構造の住宅でも、大地震に遭えば被害は避けられないと思うから	19.4

【昭和57年以降に建築した木造住宅(N=791)】

順位	項目	%
1	診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから	29.5
2	費用がかかるから	19.7
3	どんな構造の住宅でも、大地震に遭えば被害は避けられないと思うから	17.8

【建築時期不明の木造住宅(N=32)】

順位	項目	%
1	借家だから	40.6
2	費用がかかるから	18.8
3	診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことがはっきりしているから	15.6

【鉄骨住宅(N=269)】

順位	項目	%
1	診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから	37.2
2	借家だから	15.2
3	費用がかかるから	13.0

【鉄筋コンクリート住宅(N=218)】

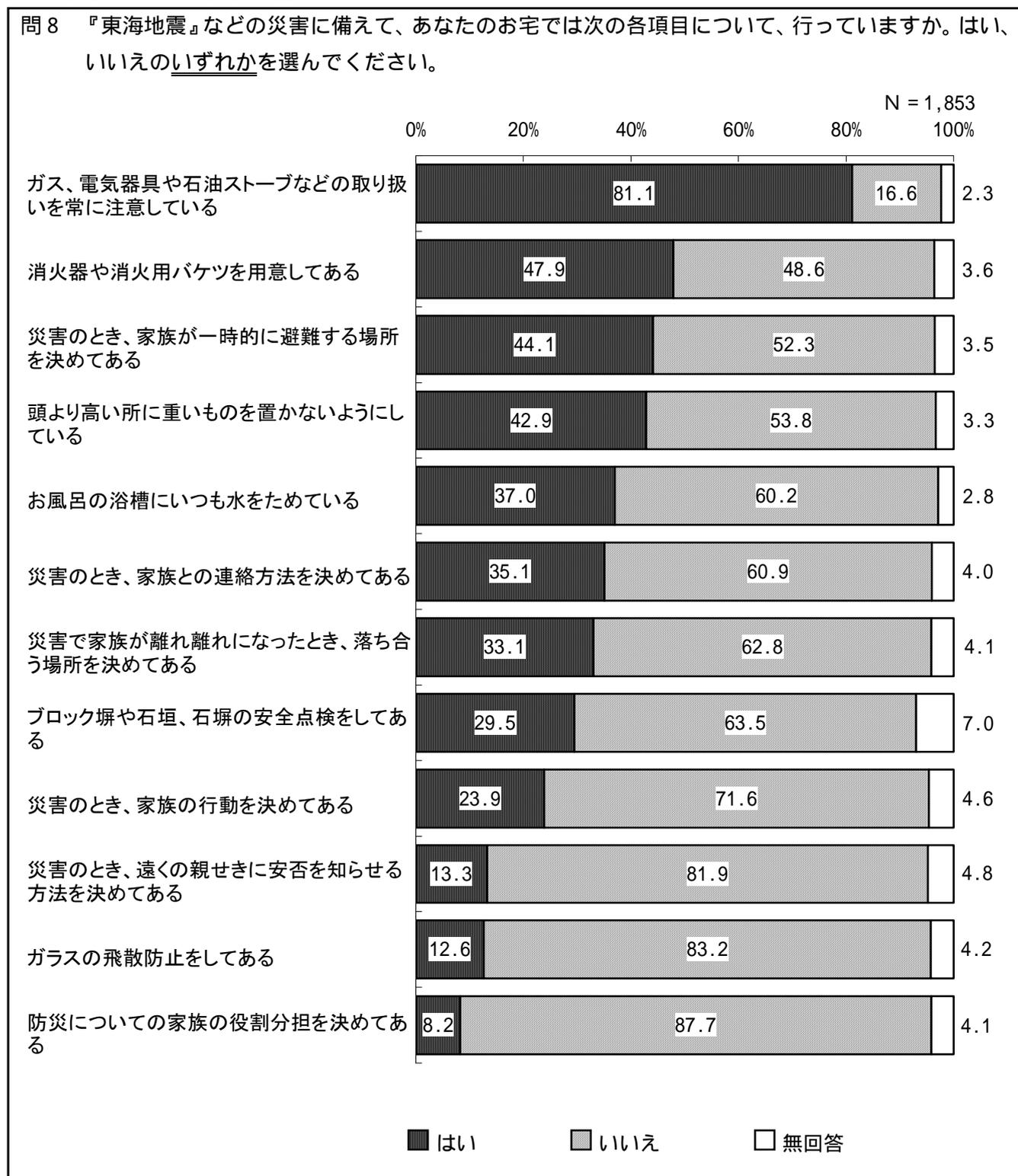
順位	項目	%
1	借家だから	48.6
2	診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから	14.2
3	費用がかかるから	7.3

平成13年度の調査結果では、理由の上位は「どんな構造の住宅でも大地震に遭えば被害は避けられないと思うから」が33.8%、「耐震診断のやり方がわからないから」が20.8%となっていた。

【調査結果の経年比較】

	(%)	
	平成13年度 (N=1,680)	平成21年度 (N=1,447)
診断するまでもなく、住んでいる家は安全につくったから	14.9	26.9
費用がかかるから	22.5	25.7
どんな構造の住宅でも、大地震に遭えば被害は避けられないと思うから	33.8	19.6
借家だから	16.8	15.5
耐震診断のやり方がわからないから	20.8	15.1
診断するまでもなく、経過年数や構造から見て、安全でないことがはっきりしているから	17.7	14.5
手間がかかるから	12.7	13.2
大きな地震が起きるとは思わないから	2.7	2.5
その他	11.7	9.5
無回答	1.0	1.7

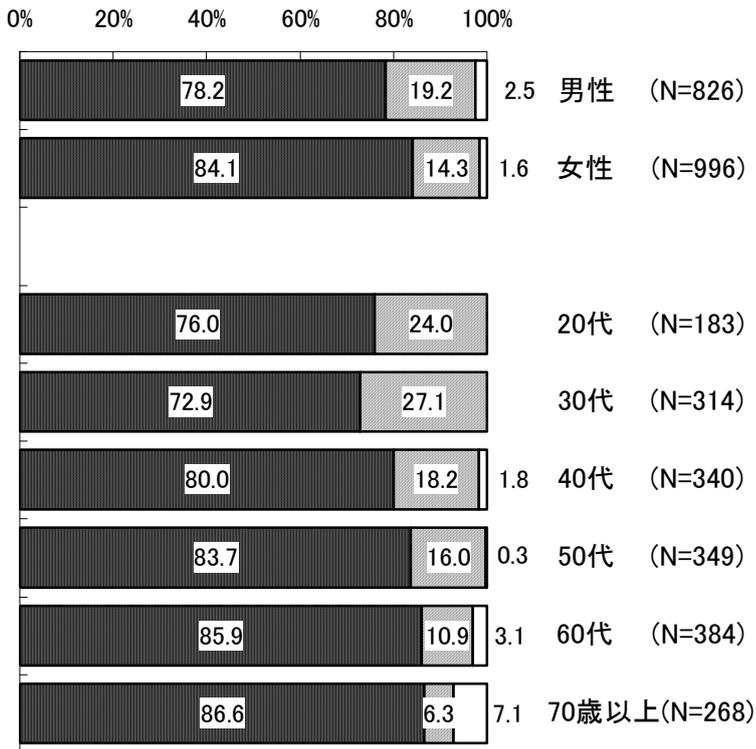
(14) 東海地震などの災害に備えて



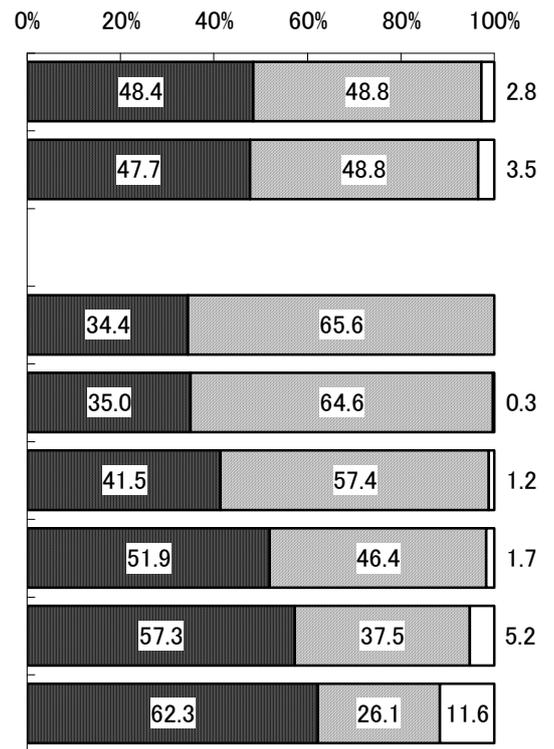
東海地震に備えて行っていることを尋ねたところ、「ガス、電気器具や石油ストーブなどの取り扱いを常に注意している」が最も多く 81.1%となっている。次いで「消火器や消火用バケツを用意してある」が 47.9%、「災害のとき、家族が一時的に避難する場所を決めてある」が 44.1%となっている。

調査結果

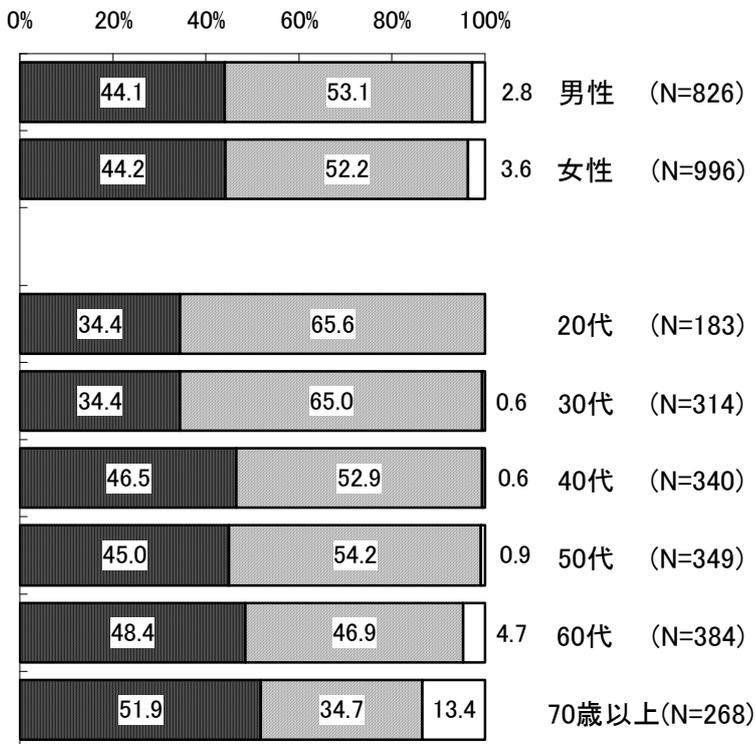
ガス、電気器具や石油ストーブなどの取り扱いを常に注意している



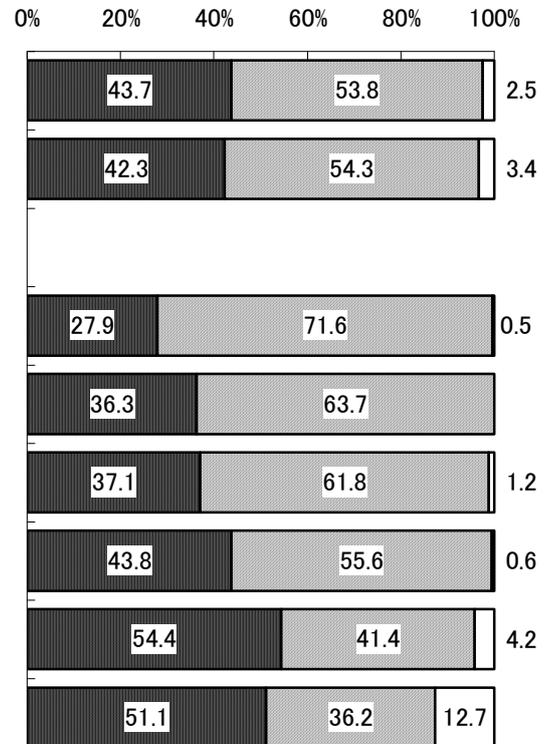
消火器や消火用バケツを用意してある



災害のとき、家族が一時的に避難する場所を決めてある

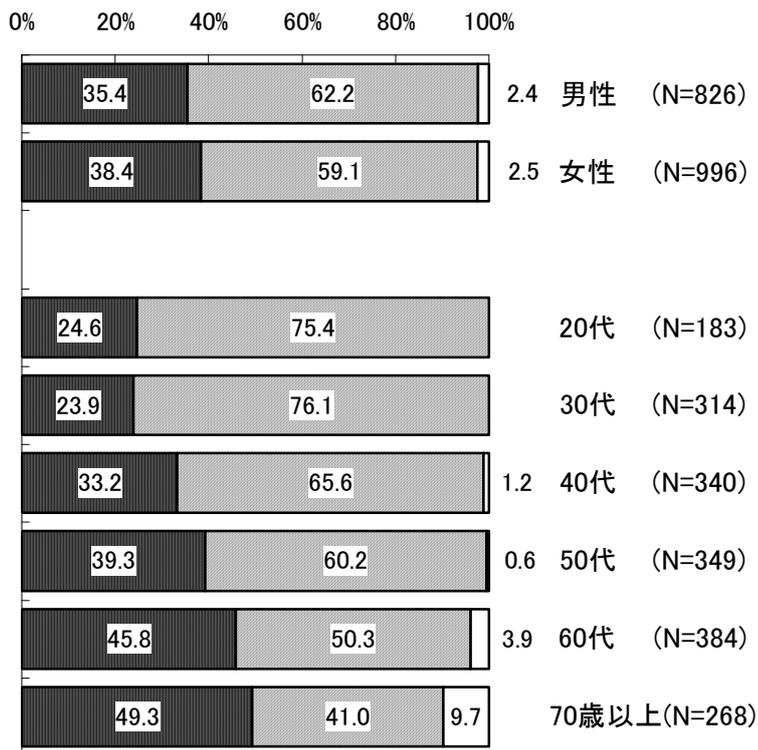


頭より高い所に重いものを置かないようにしている

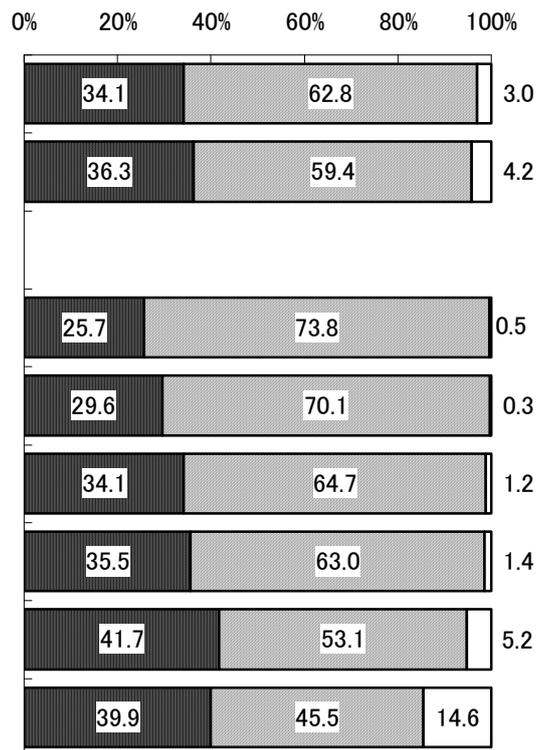


■ はい ■ いいえ □ 無回答

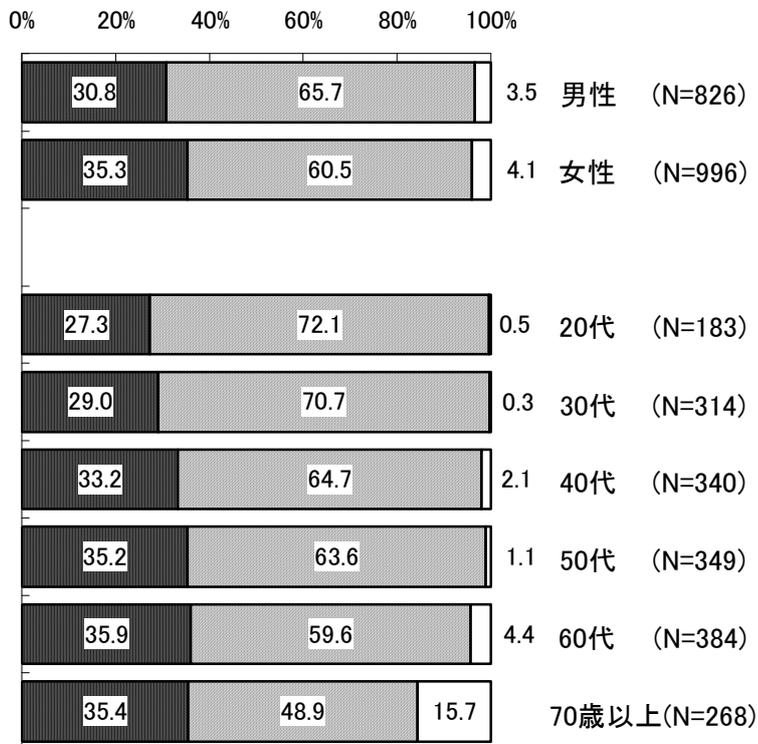
お風呂の浴槽にいつも水をためている



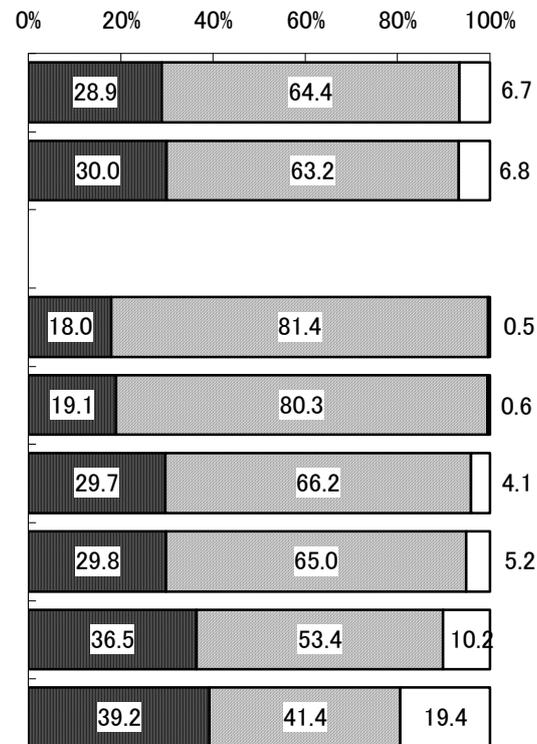
災害のとき、家族との連絡方法を決めてある



災害で家族が離れ離れになったとき、落ち合う場所を決めてある



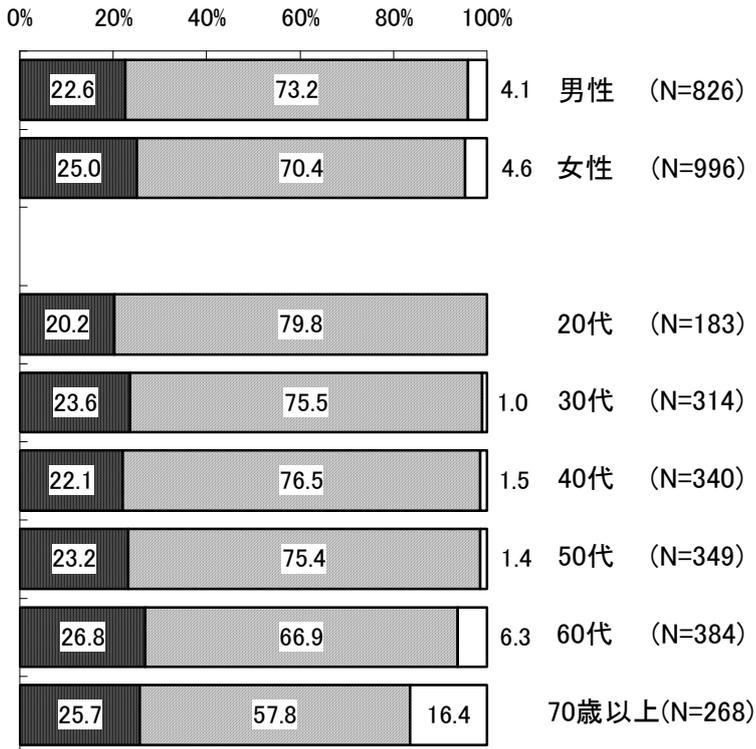
ブロック塀や石垣、石塀の安全点検をしてある



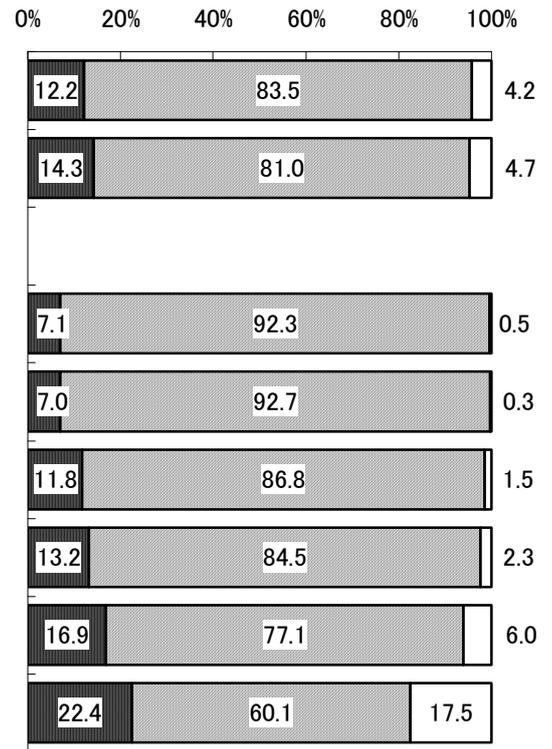
■ はい ■ いいえ □ 無回答

調査結果

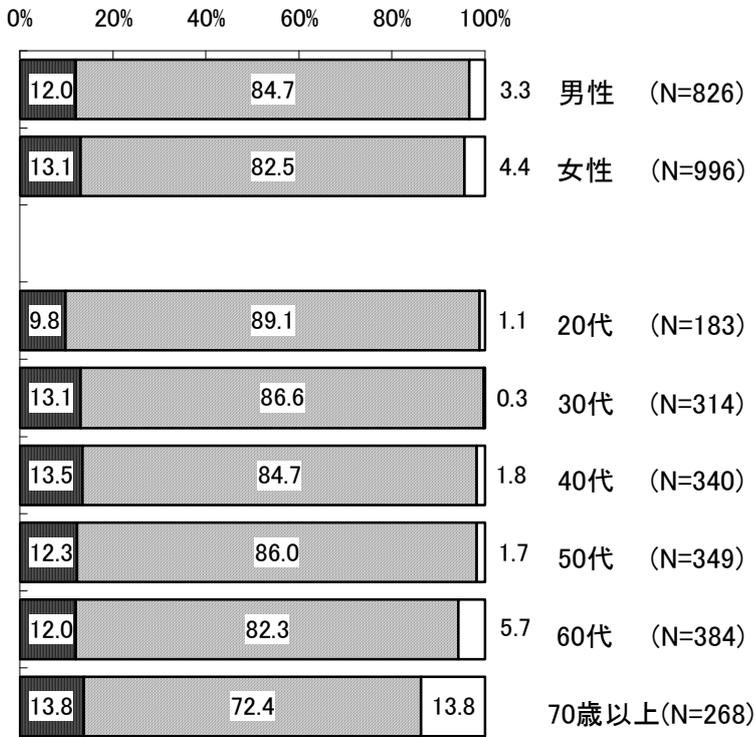
災害のとき、家族の行動を決めてある



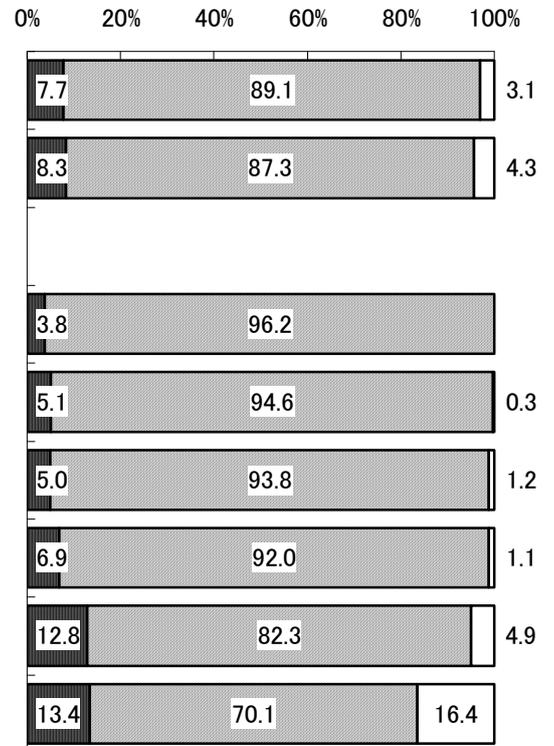
災害のとき、遠くの親せきに安否を知らせる方法を決めてある



ガラスの飛散防止をしてある



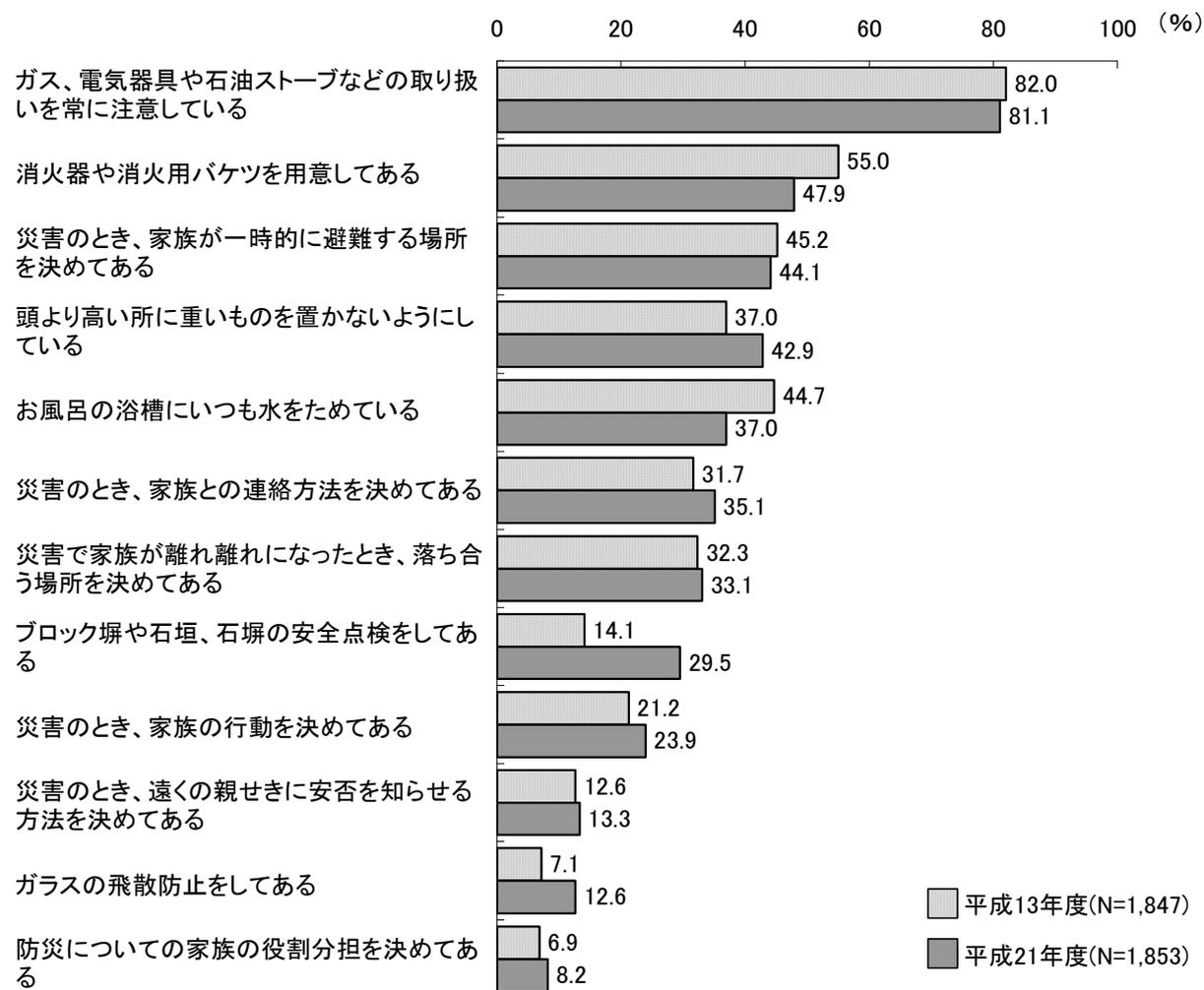
防災についての家族の役割分担を決めてある



■ はい ■ いいえ □ 無回答

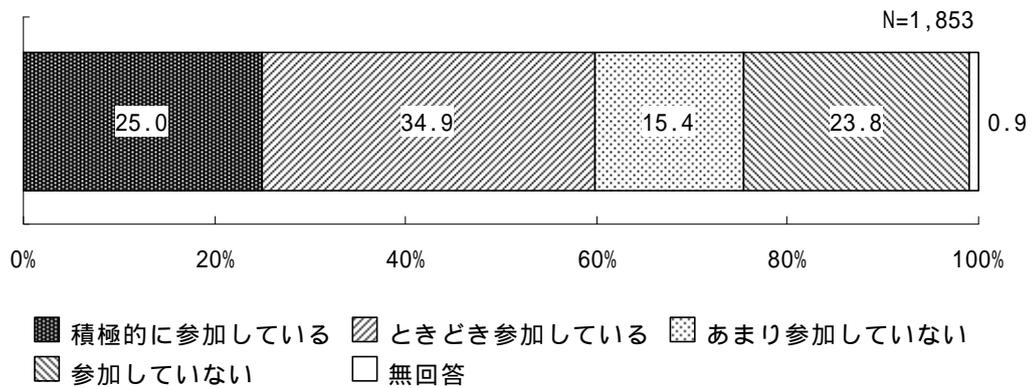
平成 13 年度の調査結果と比較すると、「ブロック塀や石垣、石塀の安全点検をしてある」が 14.1%から 29.5%、「頭より高い所に重いものを置かないようにしている」が 37.0%から 42.9%、「ガラスの飛散防止をしてある」が 7.1%から 12.6%とそれぞれ増加している。逆に減ったのは、「お風呂の浴槽にいつも水をためている」が 44.7%から 37.0%、「消火器や消火用バケツを用意してある」が 55.0%から 47.9%となっている。

【調査結果の経年比較】 「はい」の割合



(15) 自主防災会の活動への参加

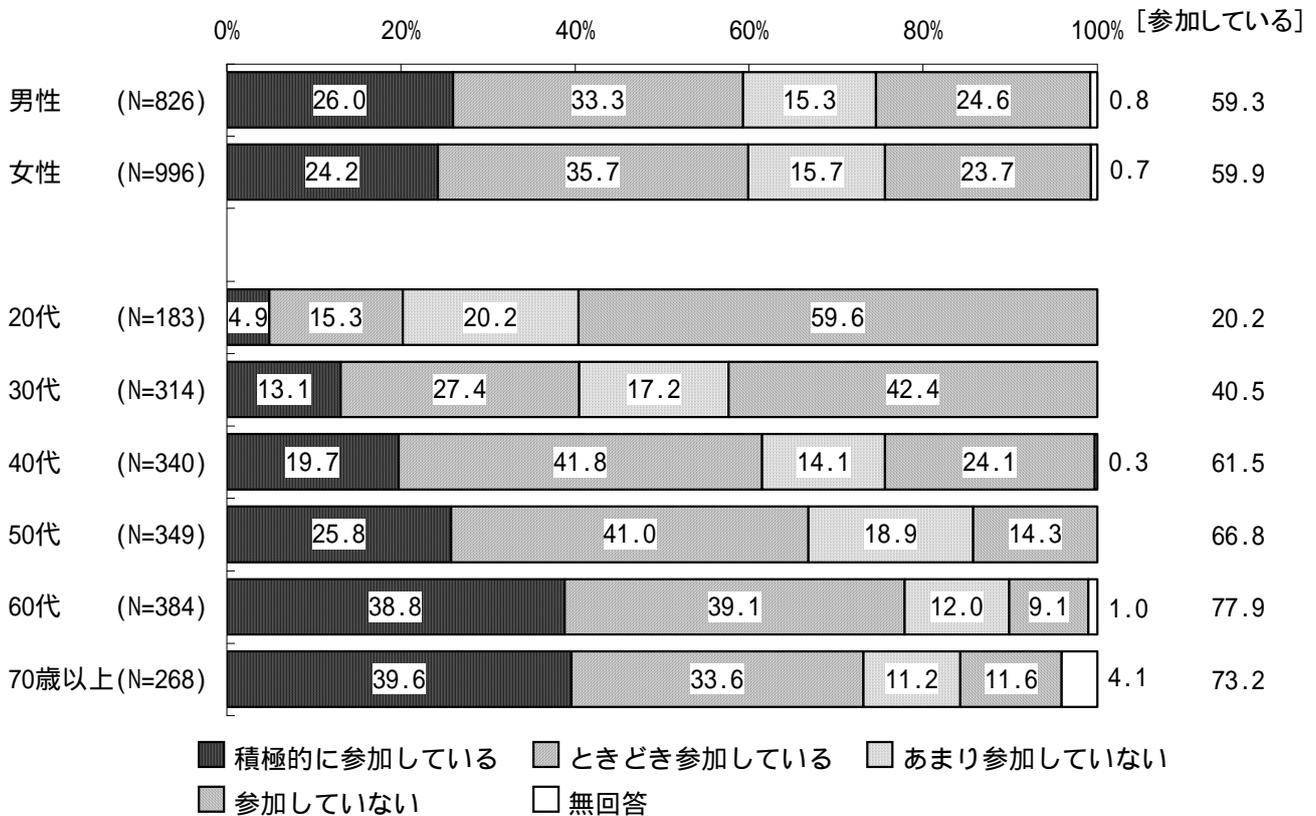
問9 あなたは地域の自主防災会の活動などに参加していますか。次の中から1つだけ選んでください。



自主防災会の活動に参加しているか尋ねたところ、「積極的に参加している」が 25.0%、「ときどき参加している」が 34.9%で、2つを合わせると6割の人が参加していることがわかった。

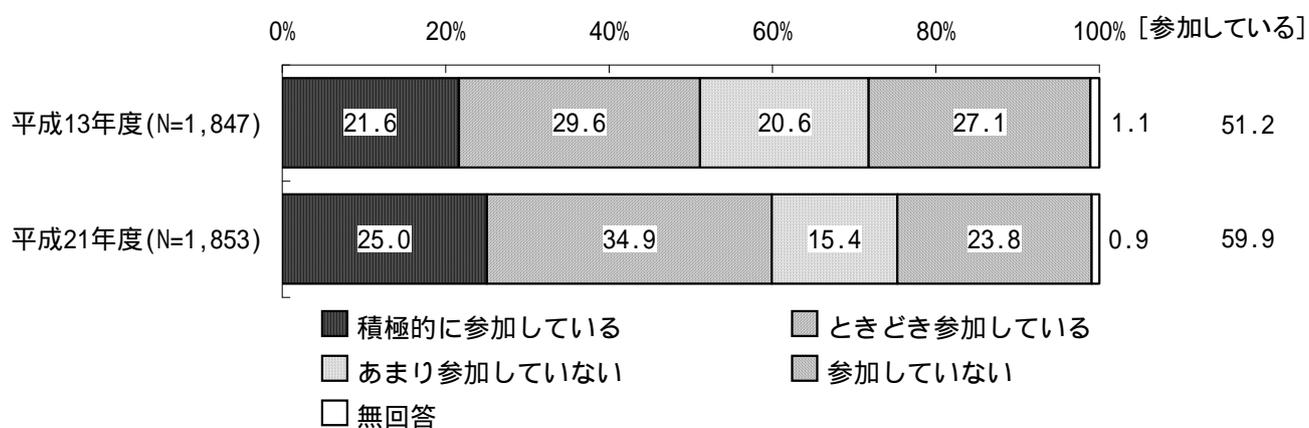
年代別に見ると、年齢が高くなるほど参加している割合は高くなり、20代の2割に対し、60代以上は7割と高くなっている。

【性別・年代別】

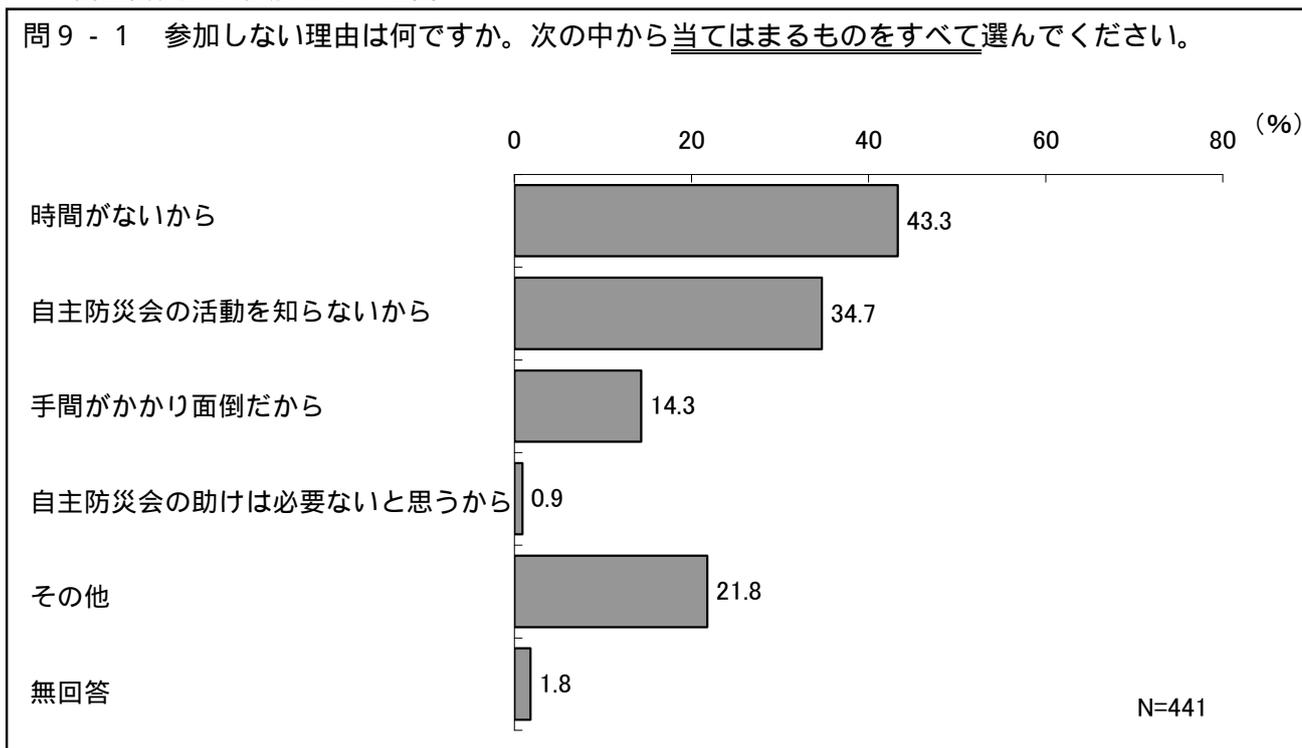


平成 13 年度の調査結果と比較すると、「積極的に参加している」「ときどき参加している」がともにふえ、2つを合わせると参加している人は 51.2%から 59.9%に増加している。

【調査結果の経年比較】



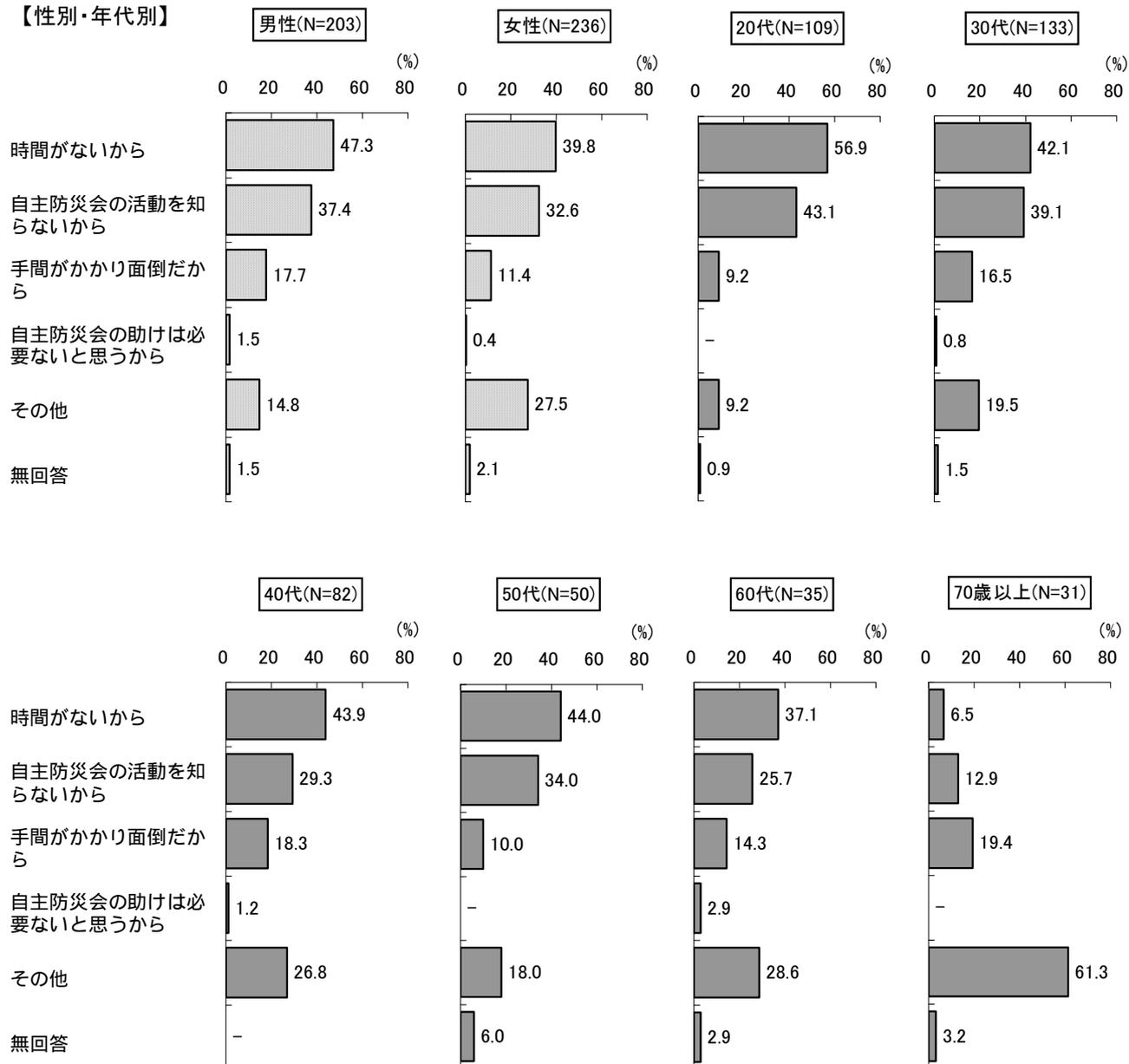
(16) 自主防災会に参加しない理由



自主防災会の活動に参加しない人にその理由を尋ねたところ、「時間がないから」という理由が最も多く 43.3%、次いで「自主防災会の活動を知らないから」が 34.7%となった。

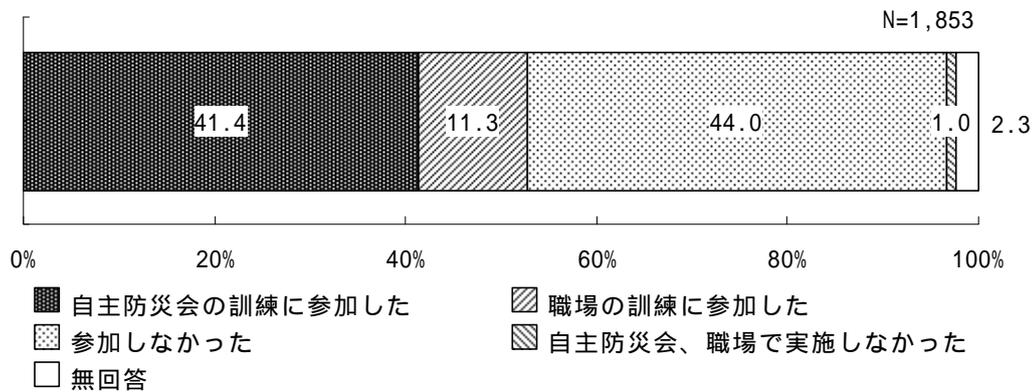
年代別に見ると、「時間がないから」という理由が最も多い年代は 20 代の 56.9%で、最も少ない年代は 70 歳以上の 6.5%となった。

【性別・年代別】



(17) 総合防災訓練・地域防災訓練への参加

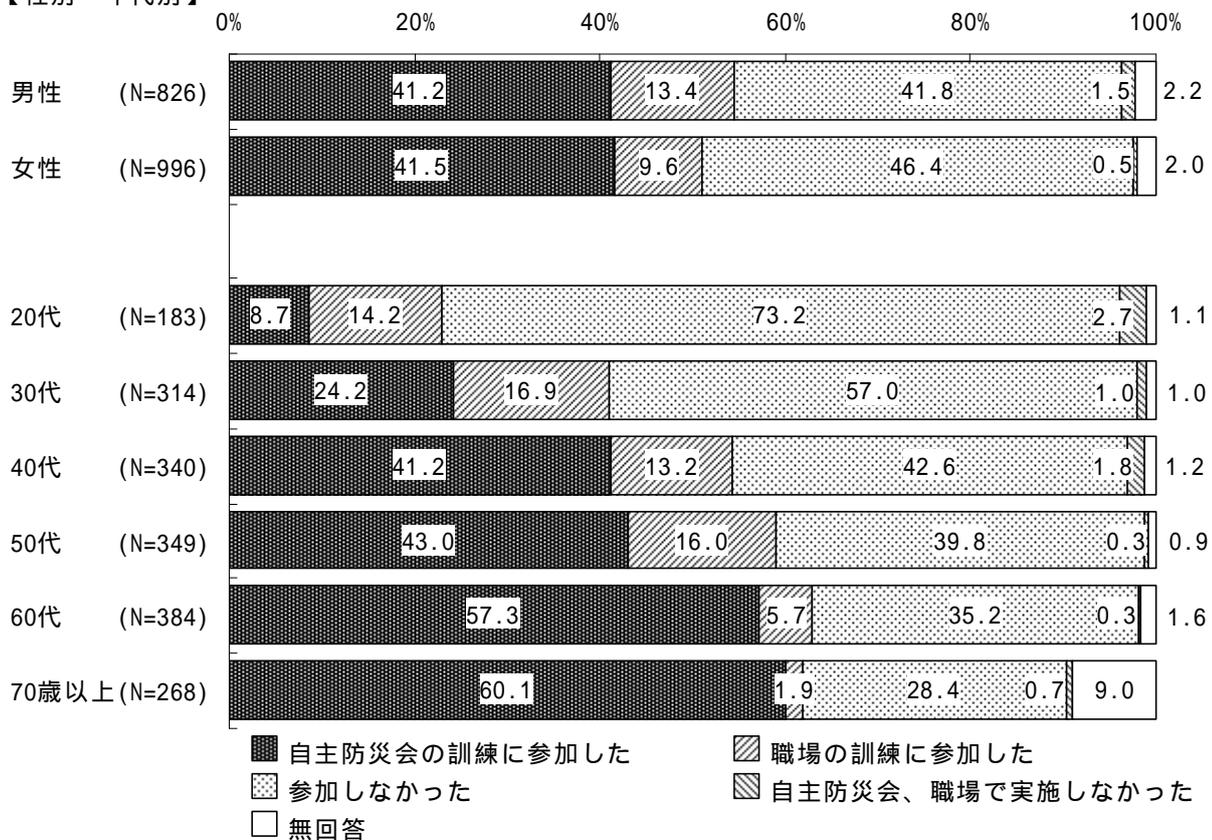
問 10 昨年の9月1日の総合防災訓練または12月第1日曜日の地域防災訓練に参加しましたか。次の中から1つだけ選んでください。



総合防災訓練・地域防災訓練に参加したか尋ねたところ、「自主防災会の訓練に参加した」が41.4%、「職場の訓練に参加した」が11.3%となった。「参加しなかった」は44.0%だった。

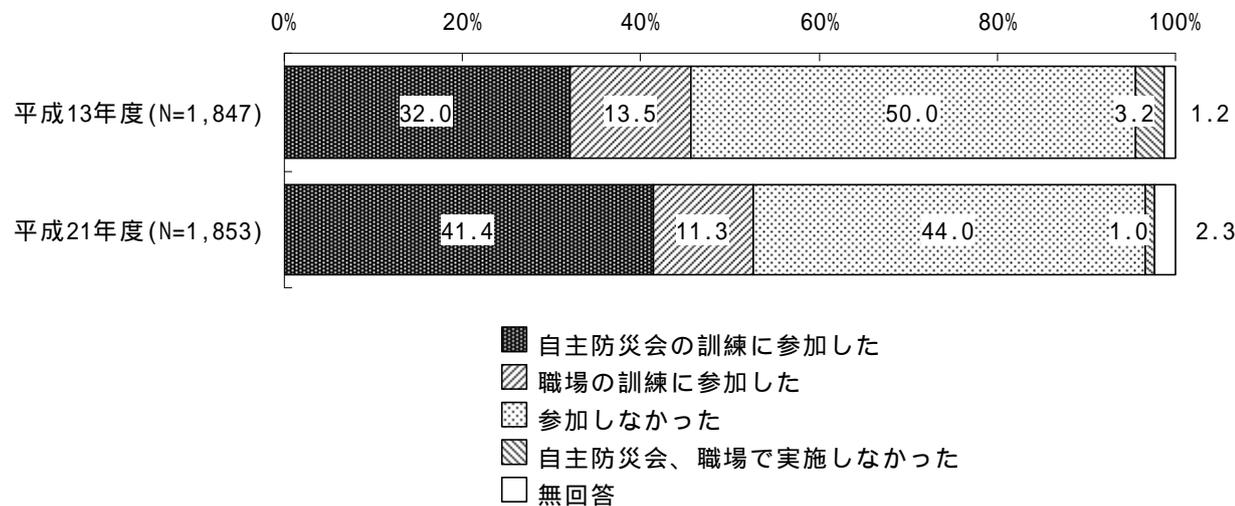
年代別に見ると、年齢が高くなるほど、自主防災会の訓練に参加している割合が高くなるのがわかる。

【性別・年代別】

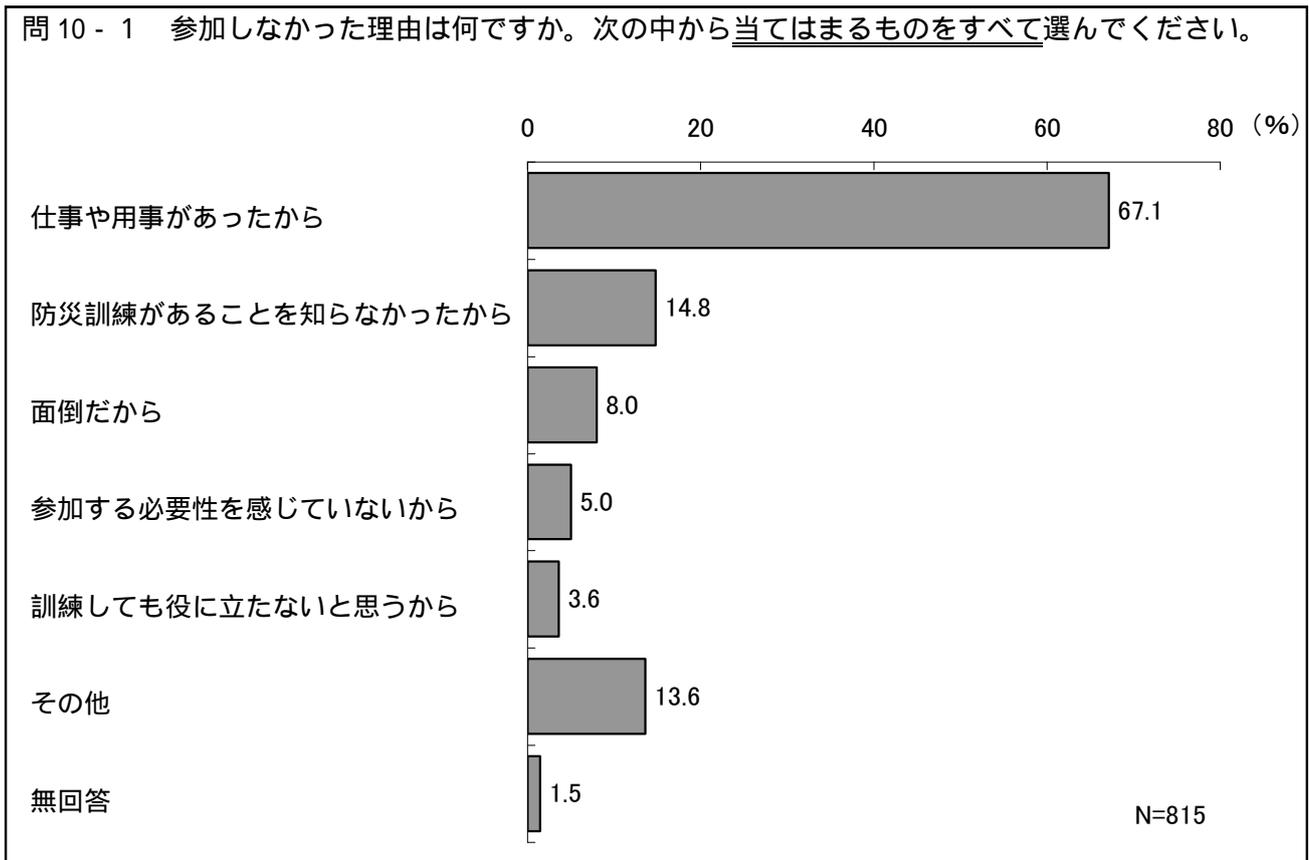


平成 13 年度の調査結果と比較すると、「自主防災会の訓練に参加した」は 32.0%から 41.4%に増加し、「参加しなかった」は 50.0%から 44.0%に減少した。

【調査結果の経年比較】



(18) 総合防災訓練・地域防災訓練に参加しなかった理由

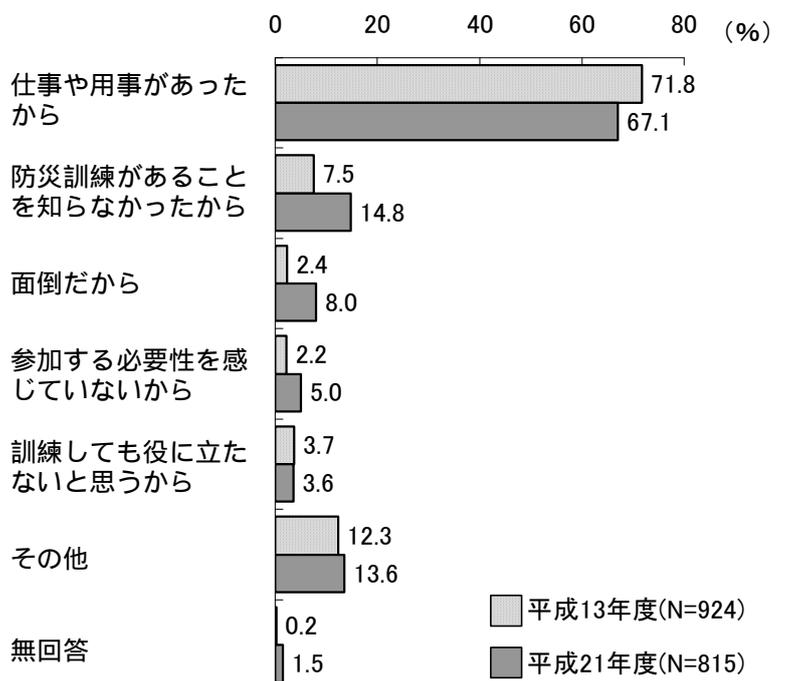


総合防災訓練・地域防災訓練に参加しなかった人に、その理由を尋ねたところ、「仕事や用事があったから」という理由が最も多く 67.1%、次いで「防災訓練があることを知らなかったから」が 14.8%となった。

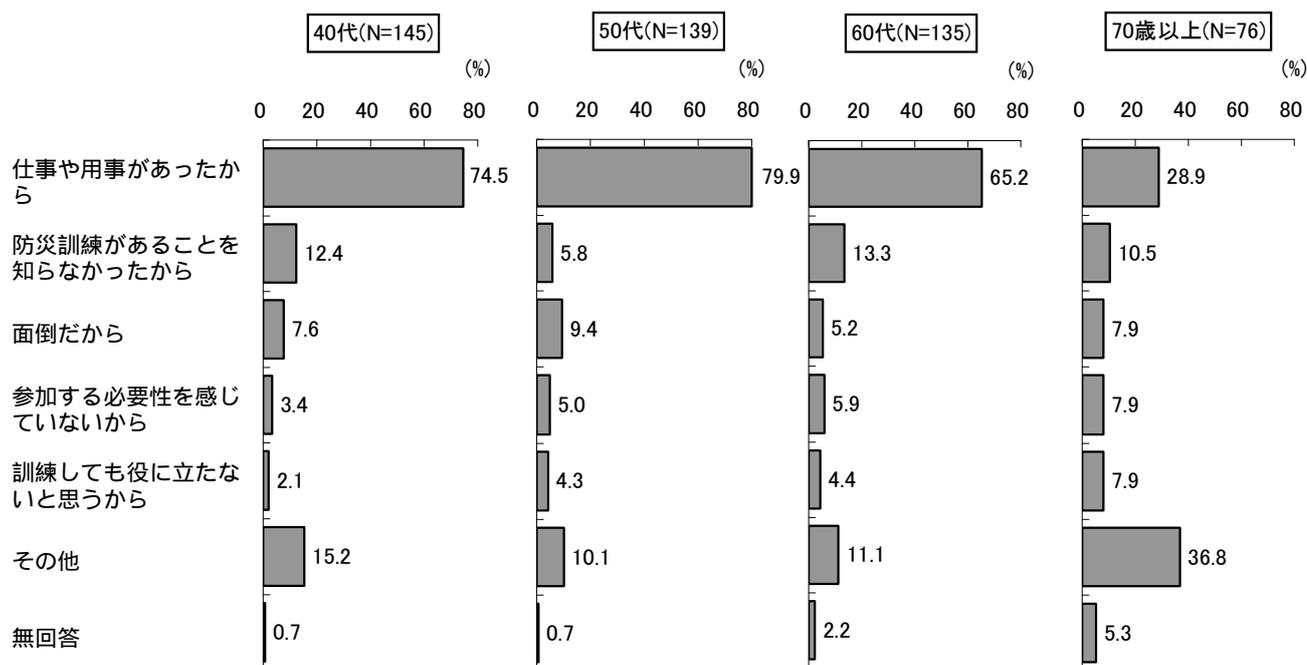
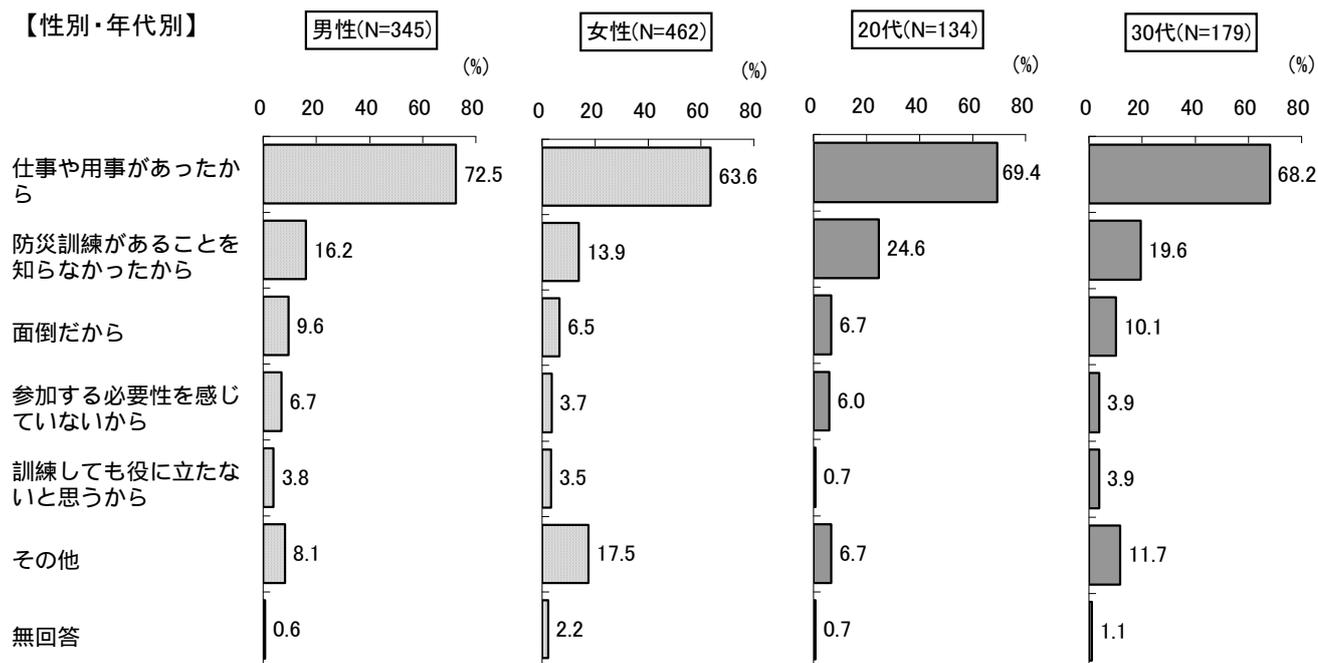
年代別に見ると、50 代以下の年代は「仕事や用事があったから」がほぼ 7 割を占めている。

平成 13 年度の調査結果と比較すると、「仕事や用事があったから」が、71.8%から 67.1%に減少し、「防災訓練があることを知らなかったから」が 7.5%から 14.8%に増加した。

【調査結果の経年比較】



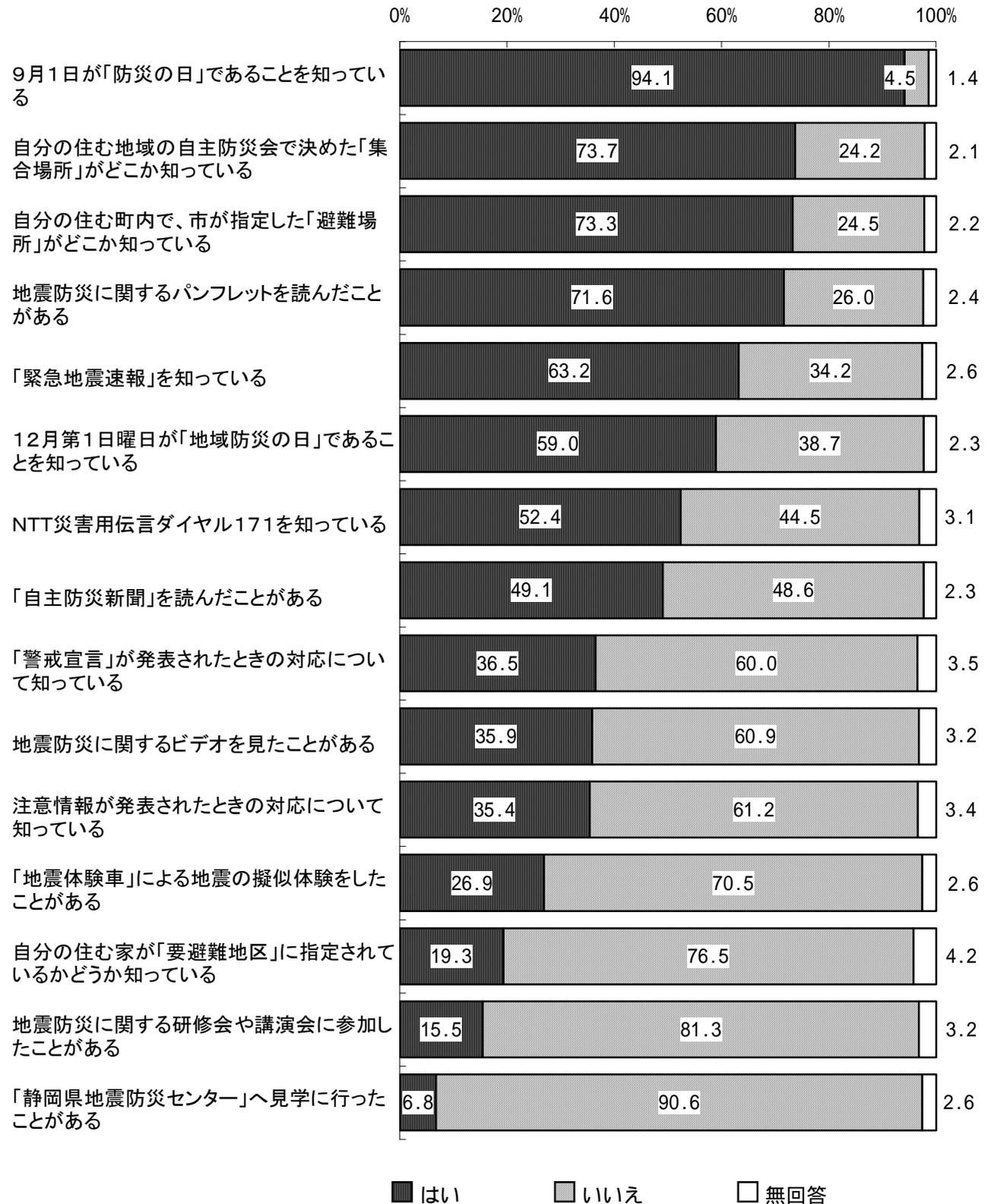
【性別・年代別】



(19) 防災に関する知識や体験の有無

問 11 次の各項目について はい、いいえのいずれかを選んでください。

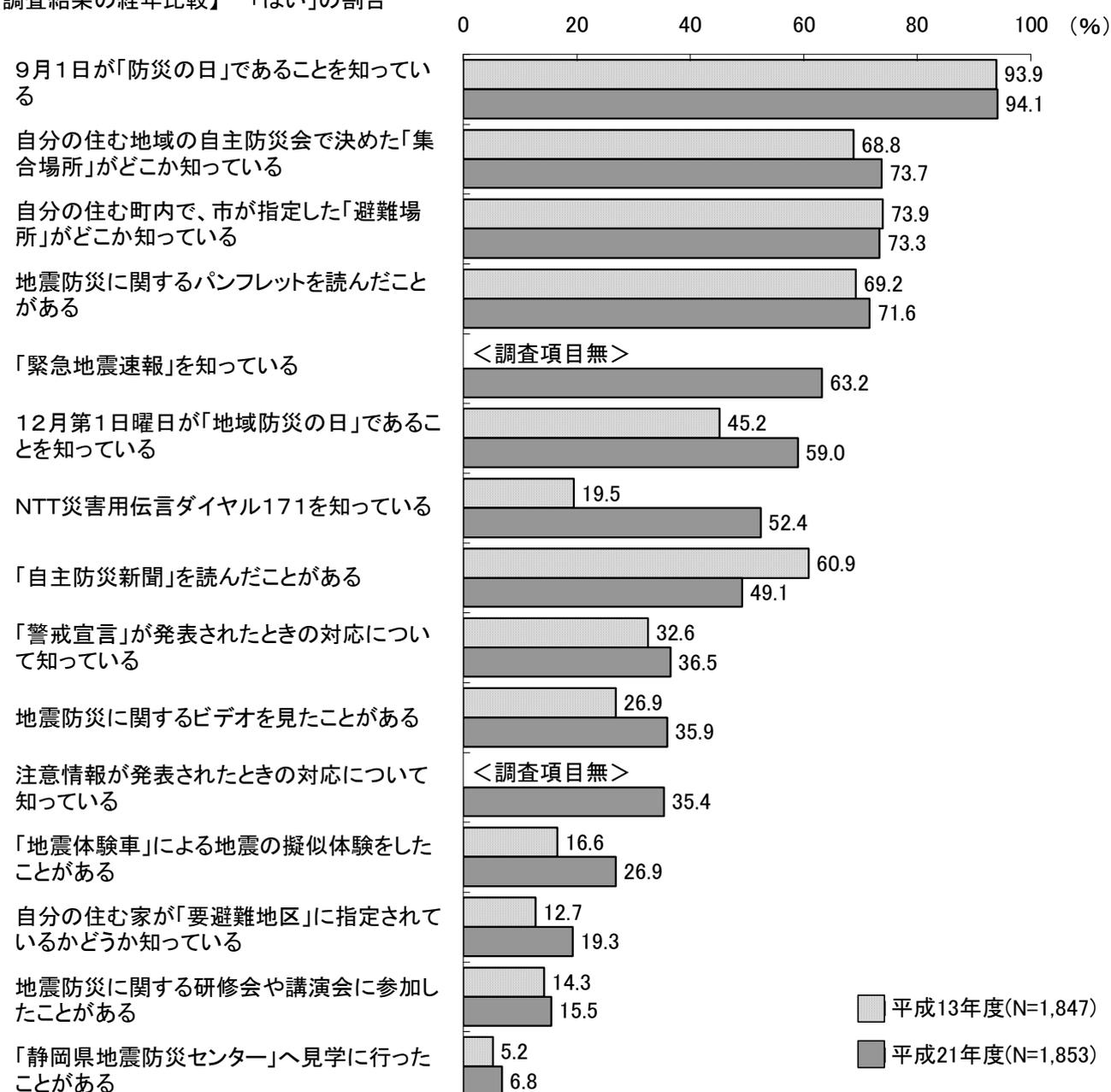
N=1,853



防災に関する知識や体験の有無について尋ねたところ、「9月1日が『防災の日』であることを知っている」が94.1%で最も多く、次いで「自分の住む地域の自主防災会で決めた『集合場所』がどこか知っている」が73.7%、「自分の住む町内で、市が指定した『避難場所』がどこか知っている」が73.3%となっている。低い順で見ると、「『静岡県地震防災センター』へ見学に行ったことがある」が6.8%、「地震防災に関する研修会や講演会に参加したことがある」が15.5%となっている。

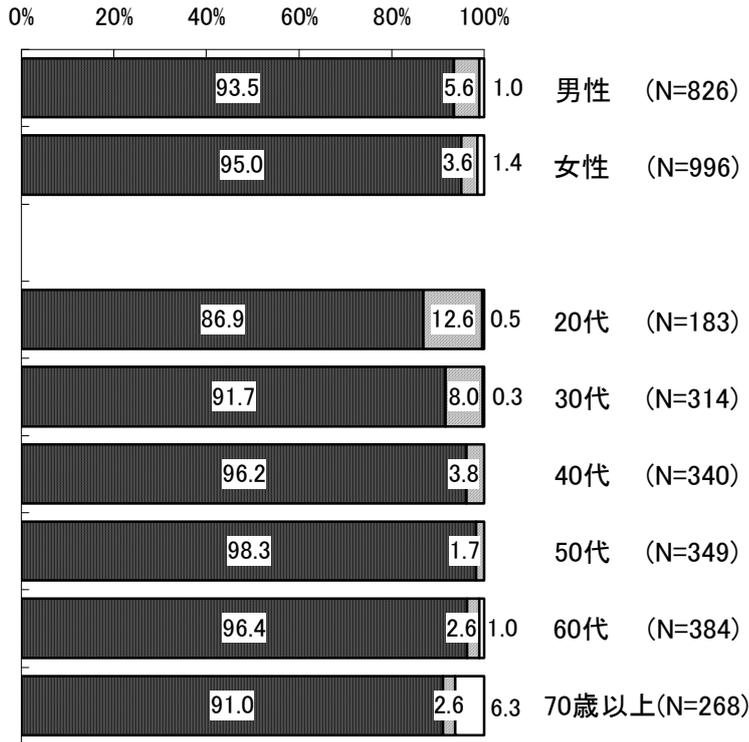
平成13年度の調査結果と比較すると、増加した項目は「NTT災害用伝言ダイヤル171を知っている」が19.5%から52.4%、「12月第1日曜日が『地域防災の日』であることを知っている」が45.2%から59.0%となった。逆に「『自主防災新聞』を読んだことがある」が60.9%から49.1%に減少している。

【調査結果の経年比較】 「はい」の割合

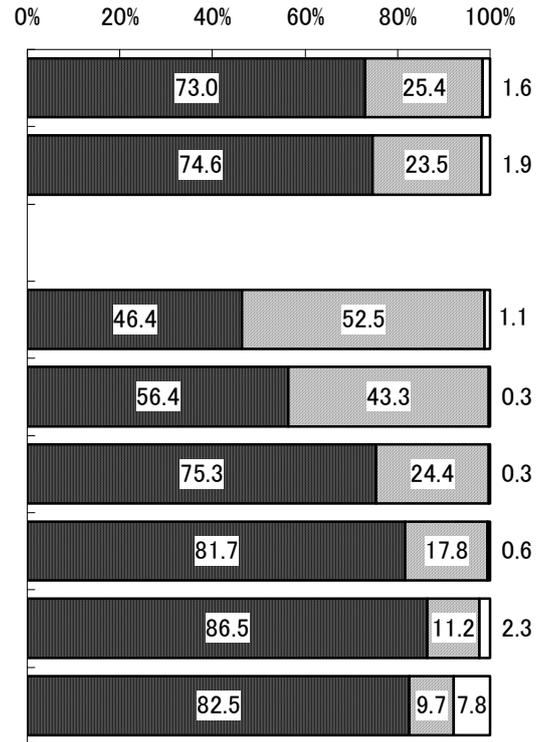


調査結果

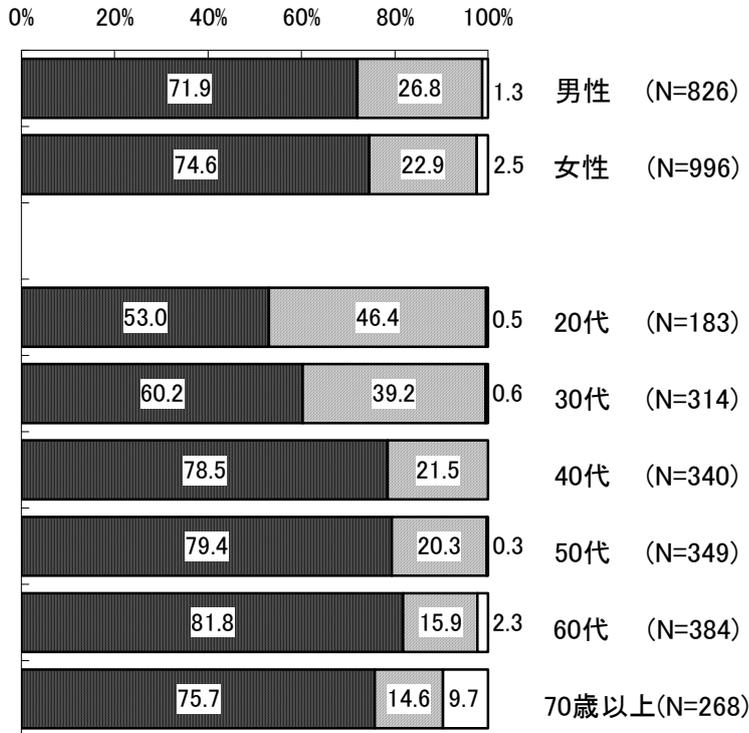
9月1日が「防災の日」であることを知っている



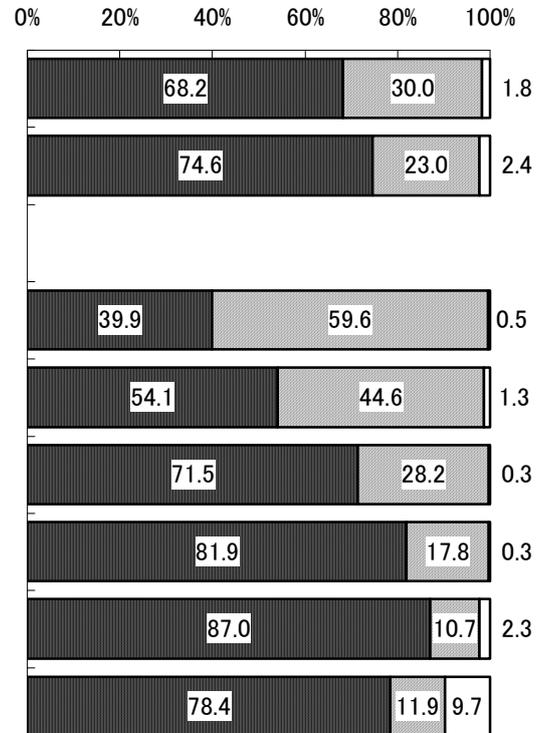
自分の住む地域の自主防災会で決めた「集合場所」がどこか知っている



自分の住む町内で、市が指定した「避難場所」がどこか知っている

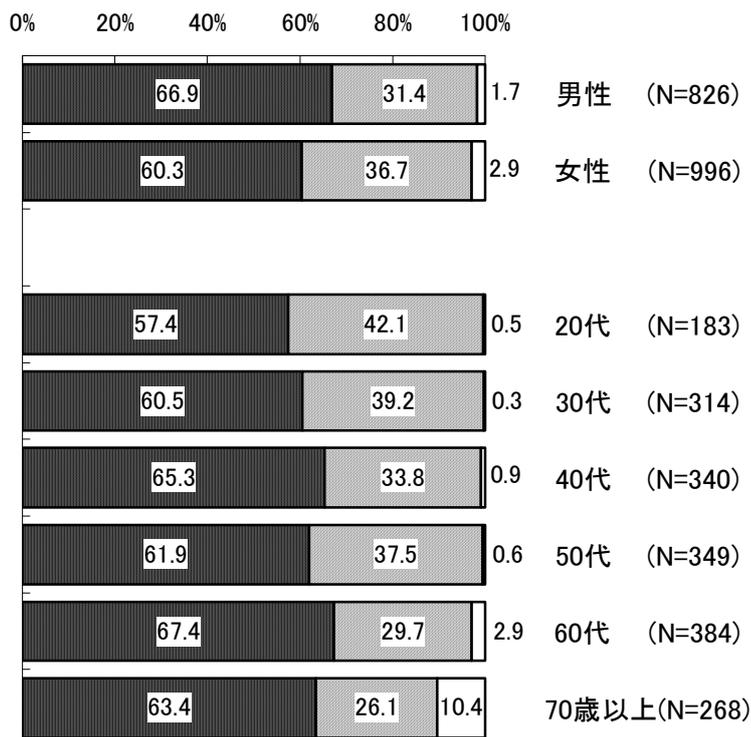


地震防災に関するパンフレットを読んだことがある

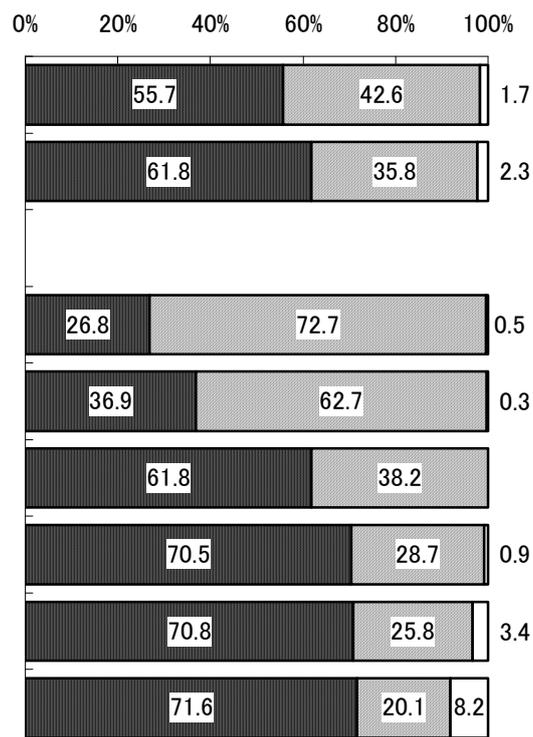


■ はい ■ いいえ □ 無回答

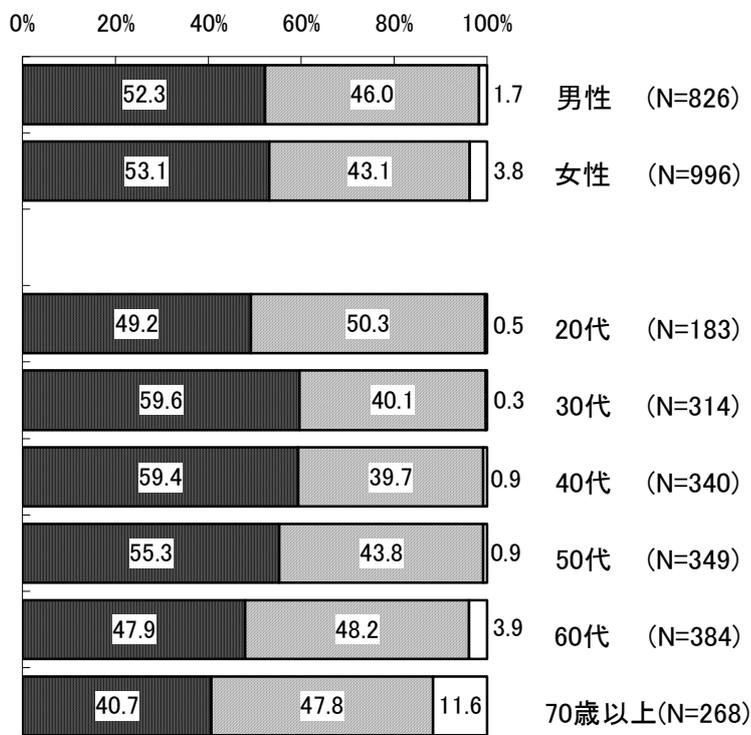
「緊急地震速報」を知っている



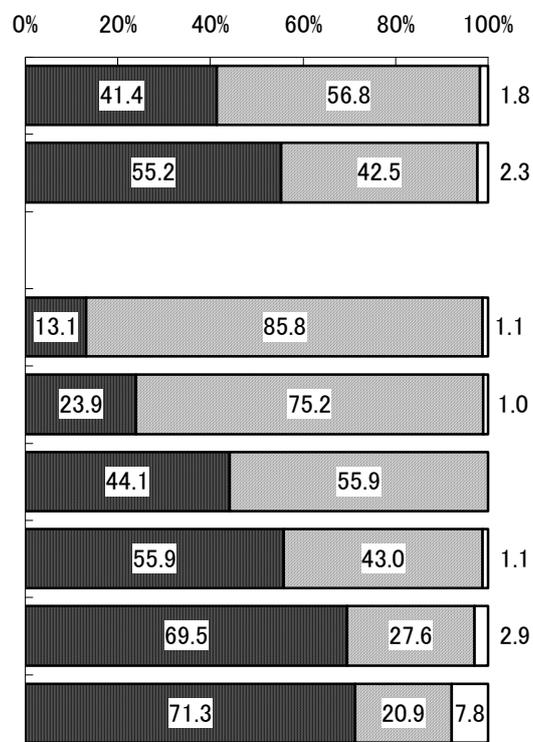
12月第1日曜日が「地域防災の日」であることを知っている



NTT災害用伝言ダイヤル171を知っている



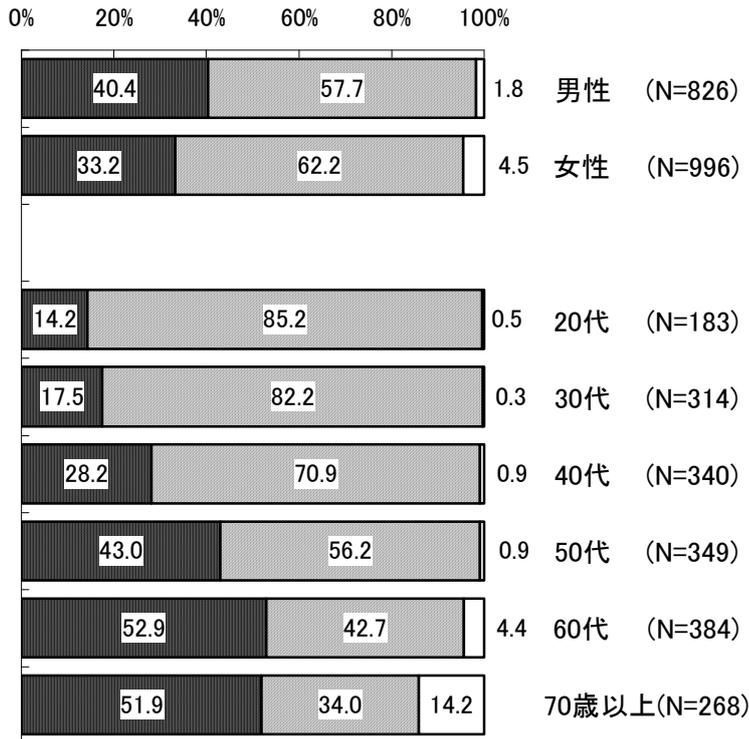
「自主防災新聞」を読んだことがある



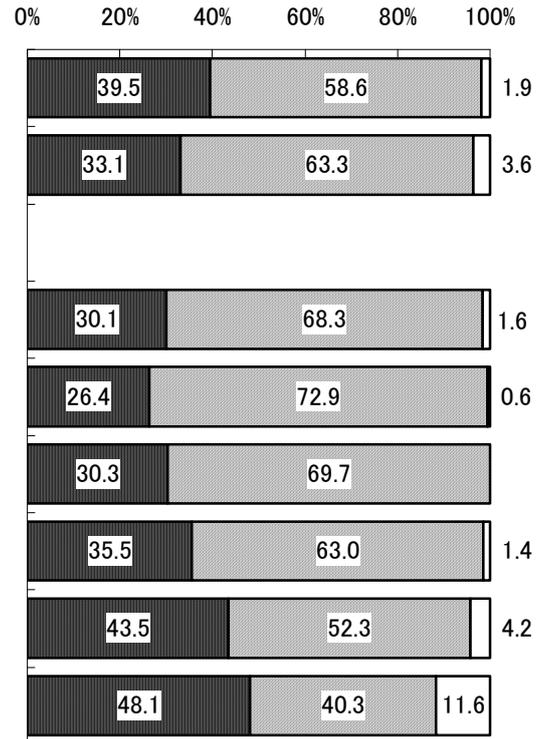
■ はい ■ いいえ □ 無回答

調査結果

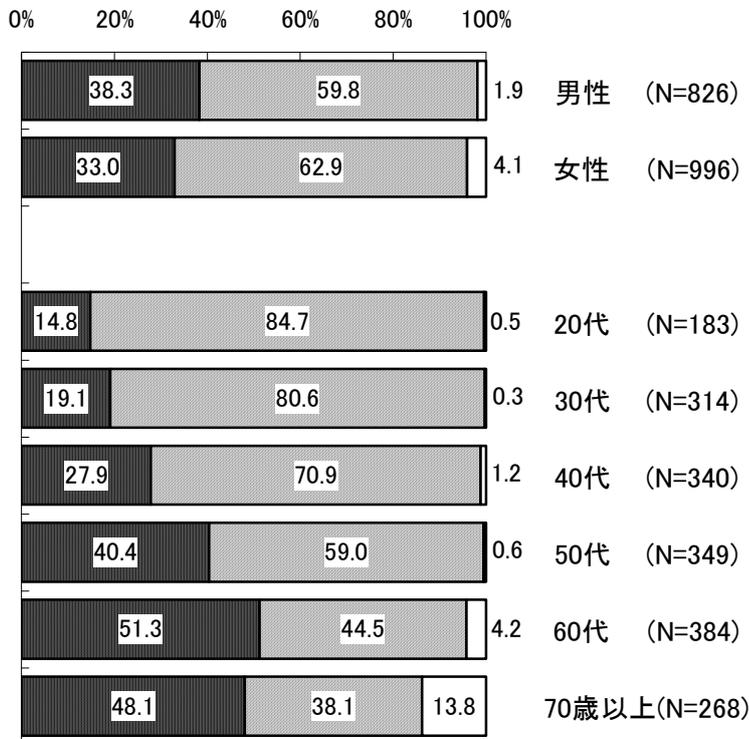
「警戒宣言」が発表されたときの
対応について知っている



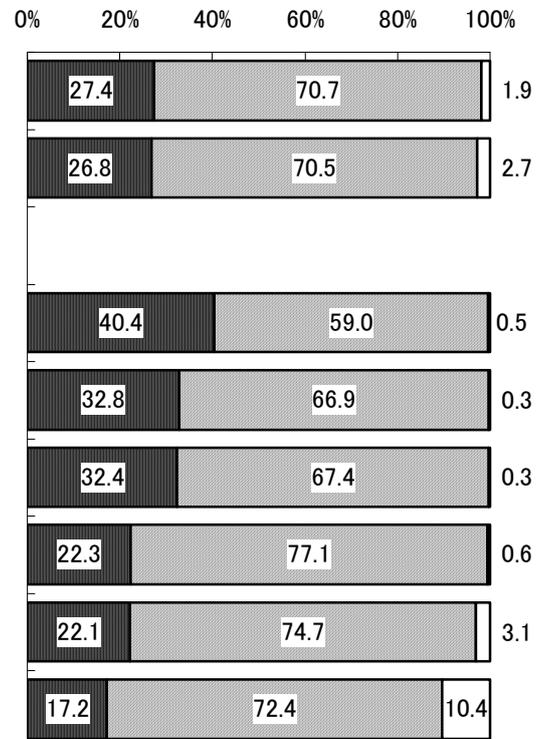
地震防災に関するビデオを見たことがある



注意情報が発表されたときの
対応について知っている

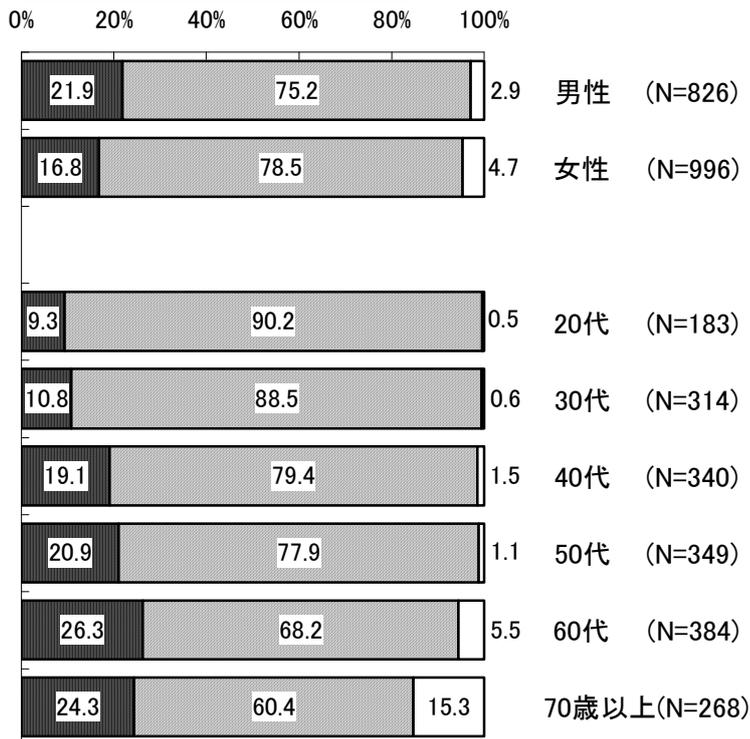


「地震体験車」による地震の
疑似体験をしたことがある

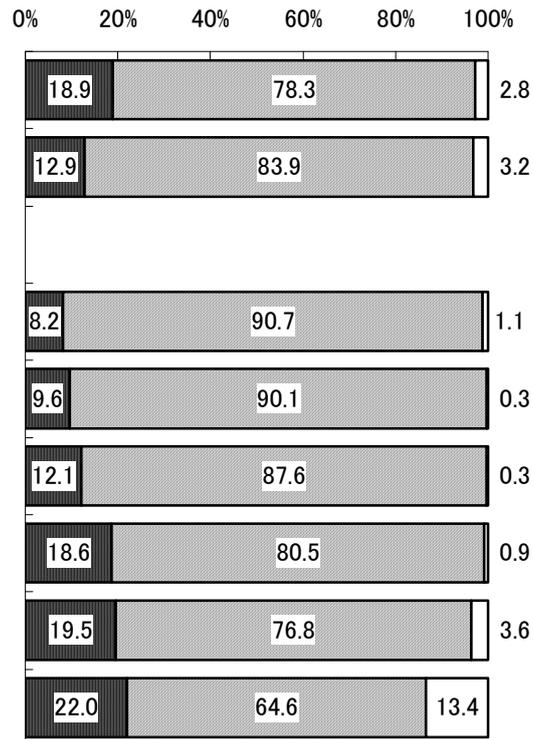


■ はい ■ いいえ □ 無回答

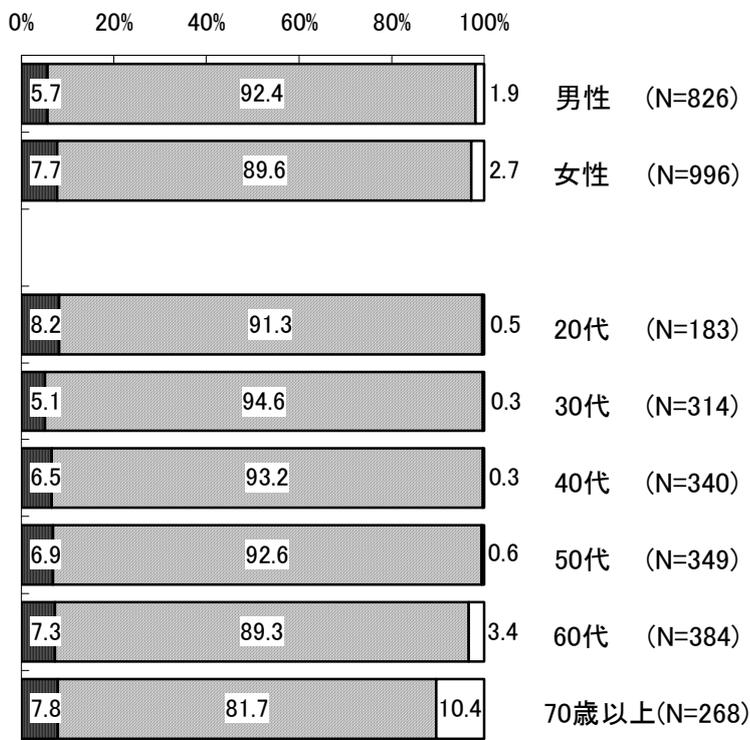
自分の住む家が「要避難地区」に指定されているかどうか知っている



地震防災に関する研修会や講演会に参加したことがある



「静岡県地震防災センター」へ見学に行ったことがある

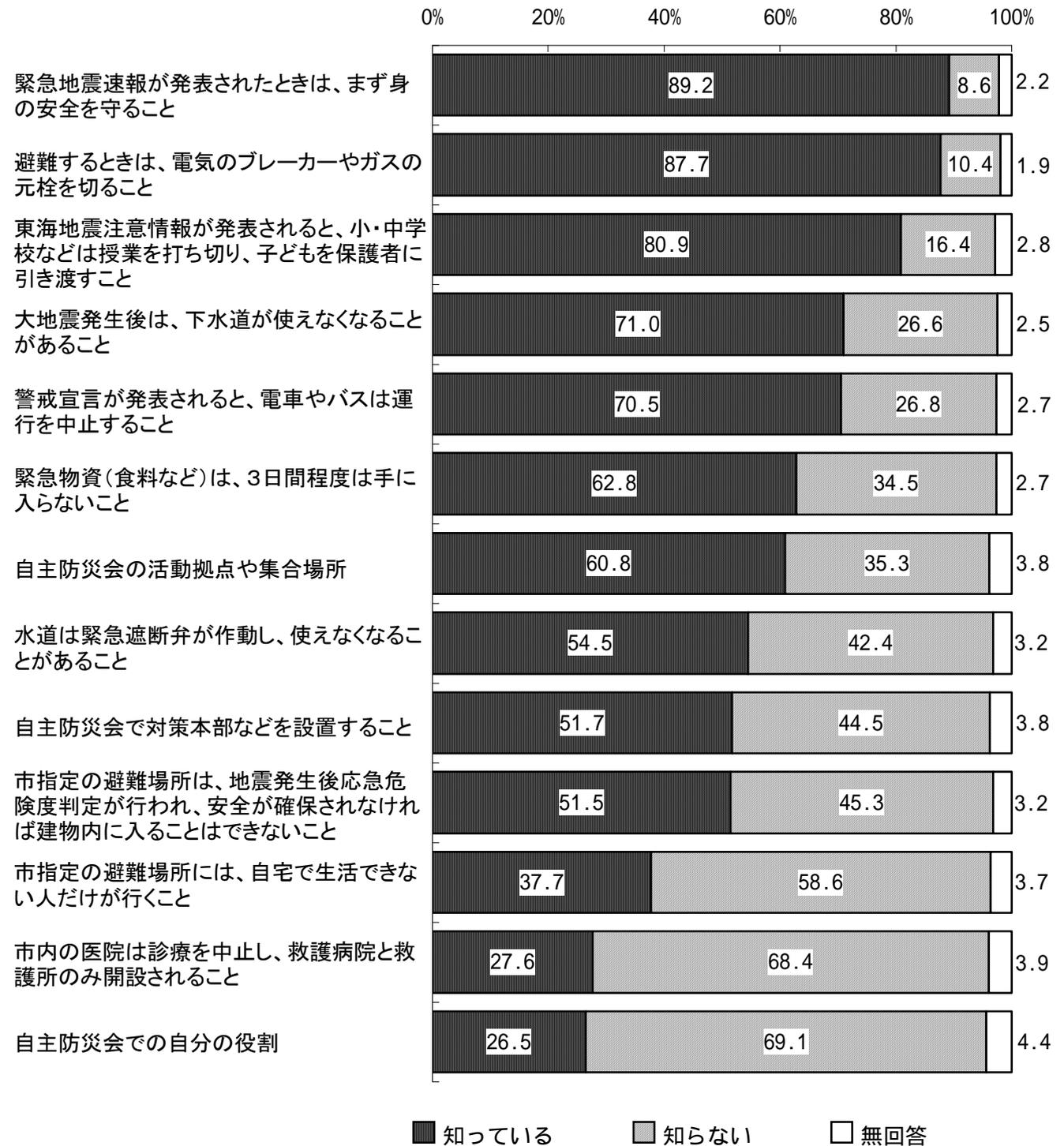


■ はい ■ いいえ □ 無回答

(20) 東海地震注意情報や警戒宣言が発表されたときの対策

問 12 あなたは、東海地震注意情報や警戒宣言が発表されたとき、または大きな地震が発生したとき、市や自主防災会、みずからが行う対策などについて知っていますか。次の各項目について、知っている、知らないのいずれかを選んでください。

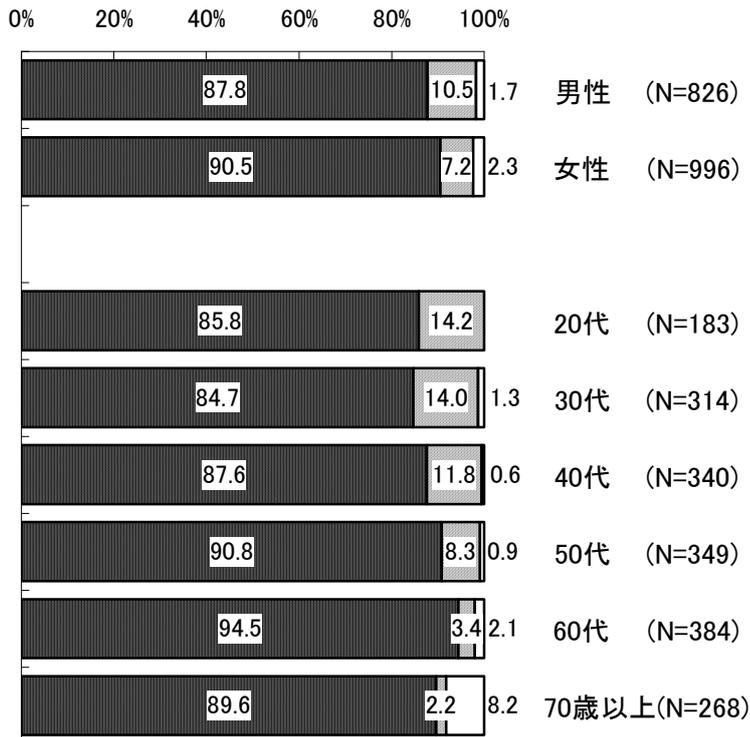
N=1,853



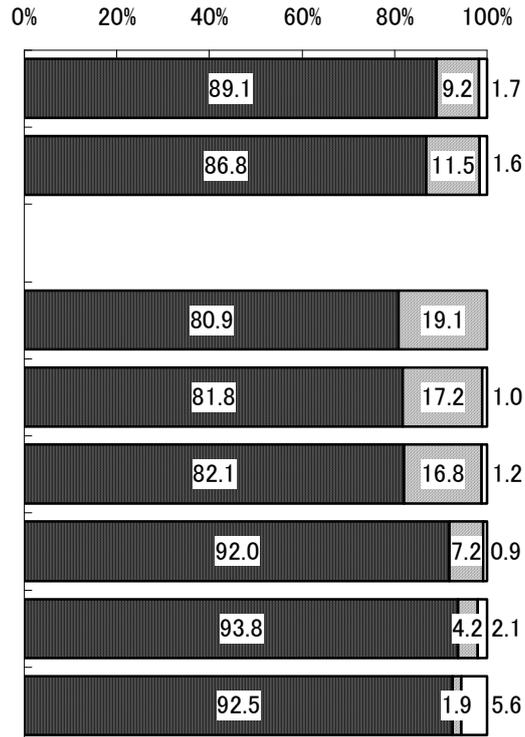
東海地震注意情報や警戒宣言が発表されたとき、または大きな地震が発生したとき、市や自主防災会、みずからが行う対策などについて知っているか尋ねたところ、「緊急地震速報が発表されたときは、まず身の安全を守ること」が 89.2%で最も多く、次いで「避難するときは、電気のブレーカーやガスの元栓を切ること」が 87.7%、「東海地震注意情報が発表されると、小・中学校などは授業を打ち切り、子どもを保護者に引き渡すこと」が 80.9%となった。

調査結果

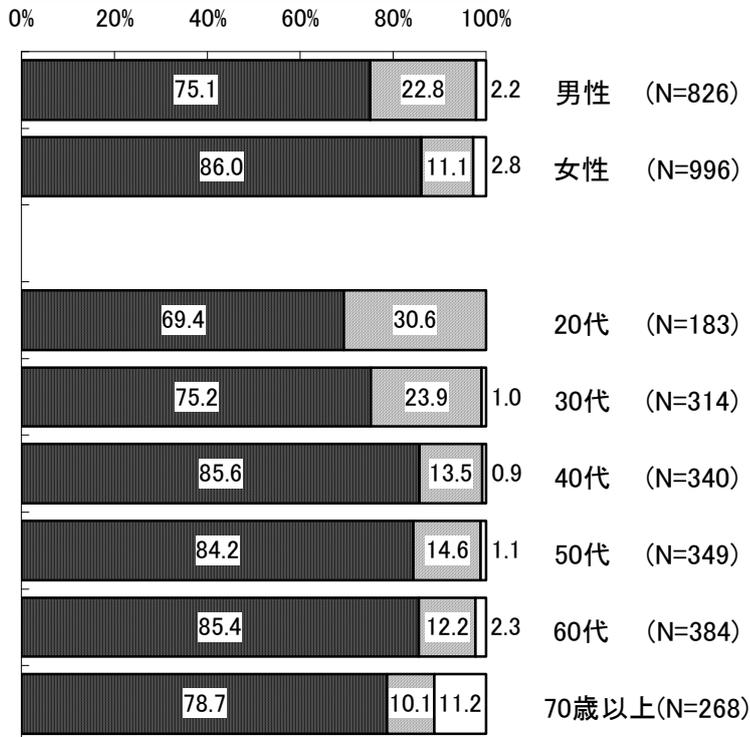
緊急地震速報が発表されたときは、まず身の安全を守ること



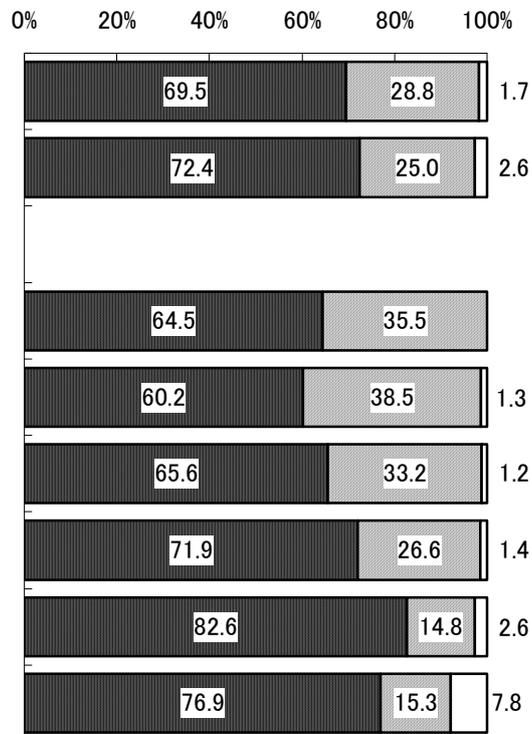
避難するときは、電気のブレーカーやガスの元栓を切ること



東海地震注意情報が発表されると、小・中学校などは授業を打ち切り、子どもを保護者に引き渡すこと

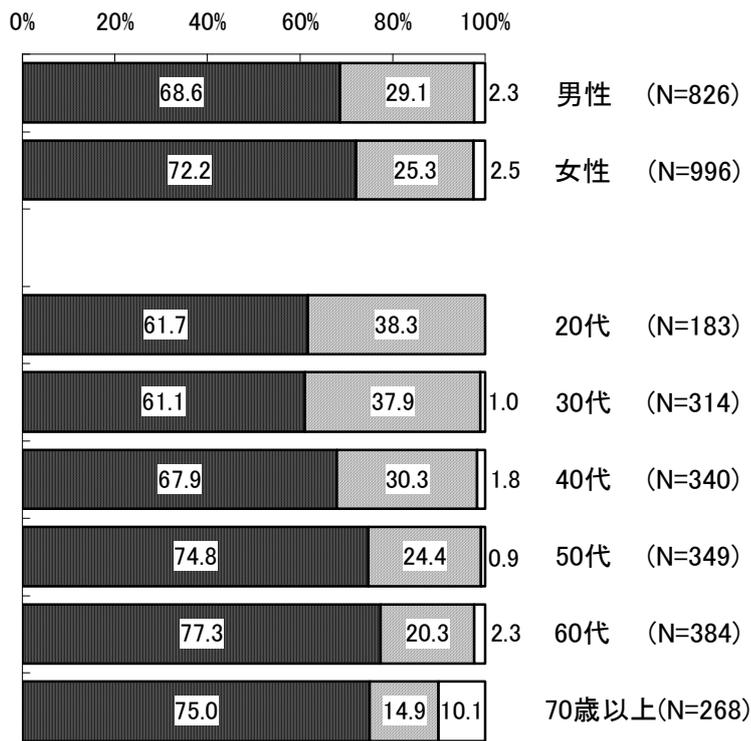


大地震発生後は、下水道が使用できなくなることがあること

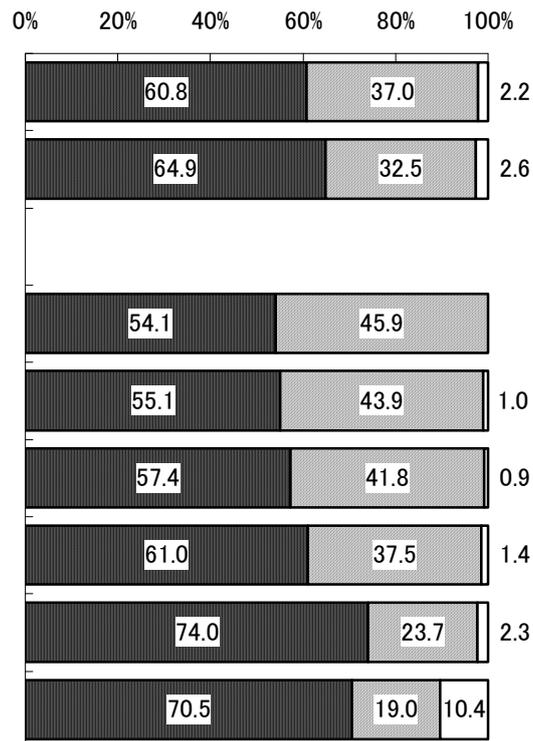


■ 知っている ■ 知らない □ 無回答

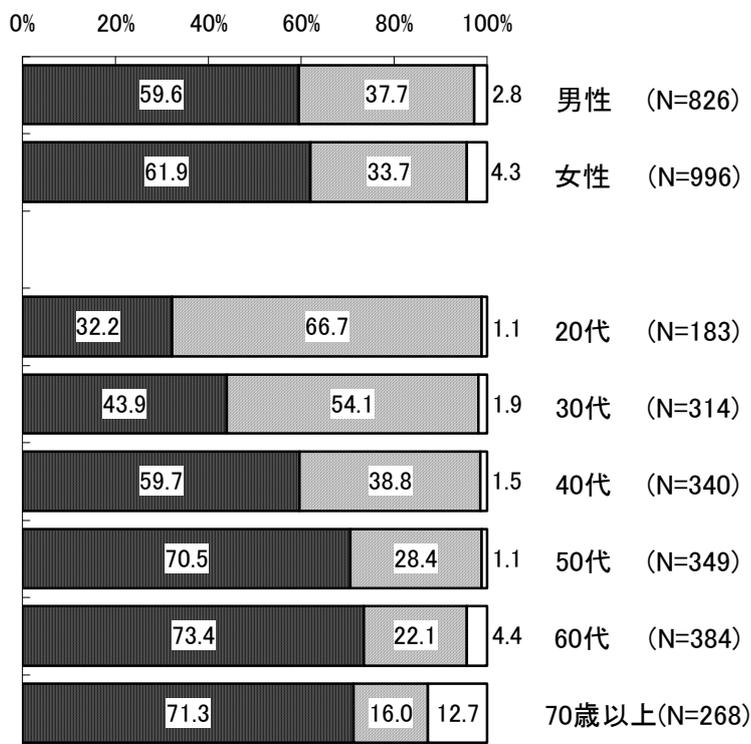
警戒宣言が発表されると、電車やバスは運行を中止すること



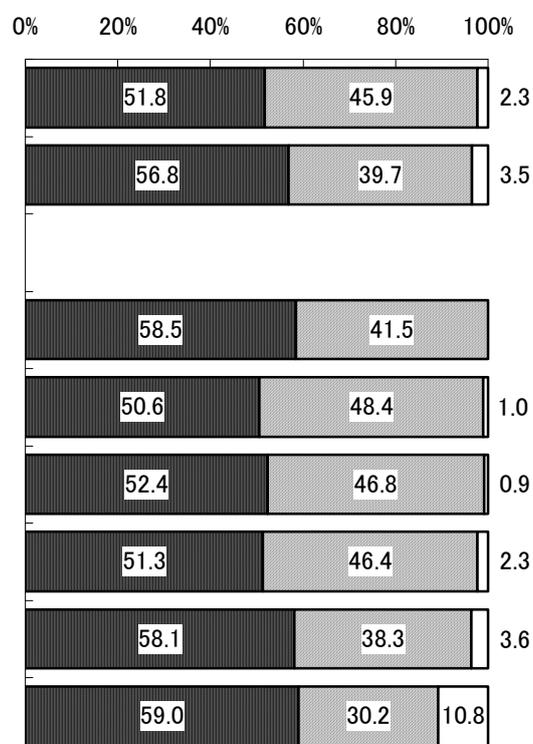
緊急物資(食料など)は、3日間程度は手に入らないこと



自主防災会の活動拠点や集合場所



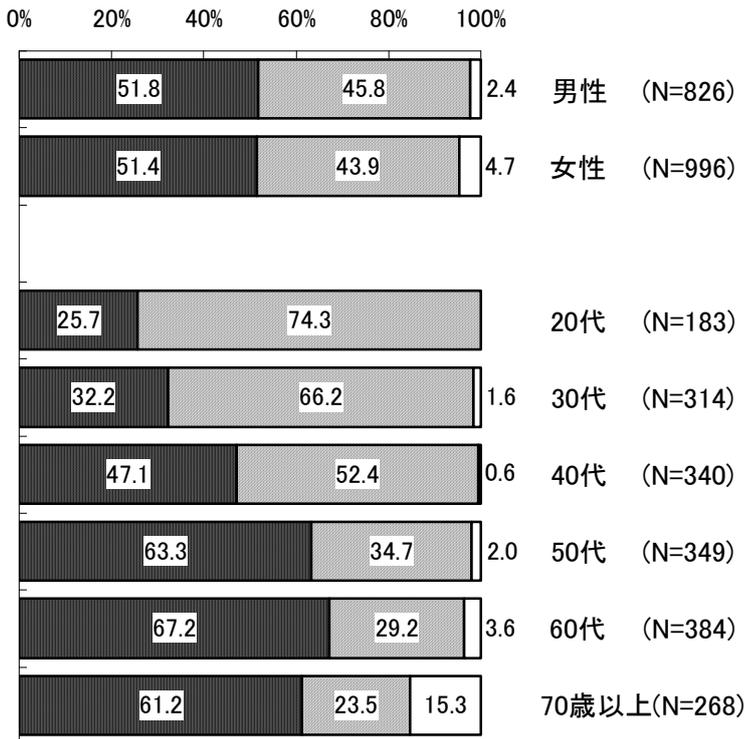
水道は緊急遮断弁が作動し、使えなくなることがあること



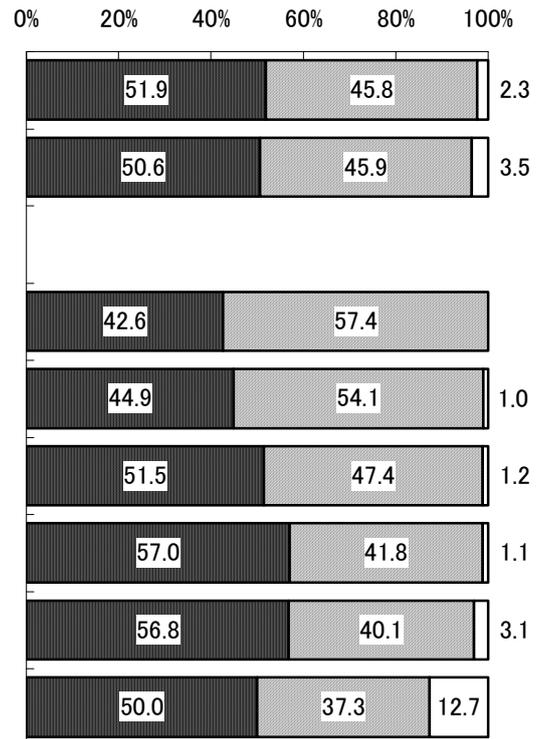
■ 知っている ■ 知らない □ 無回答

調査結果

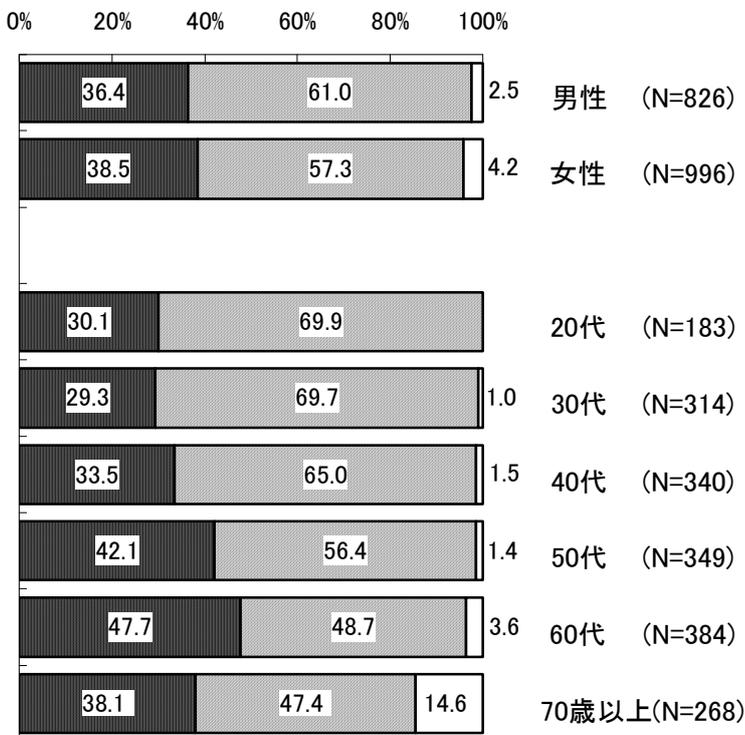
自主防災会に対策本部などを設置すること



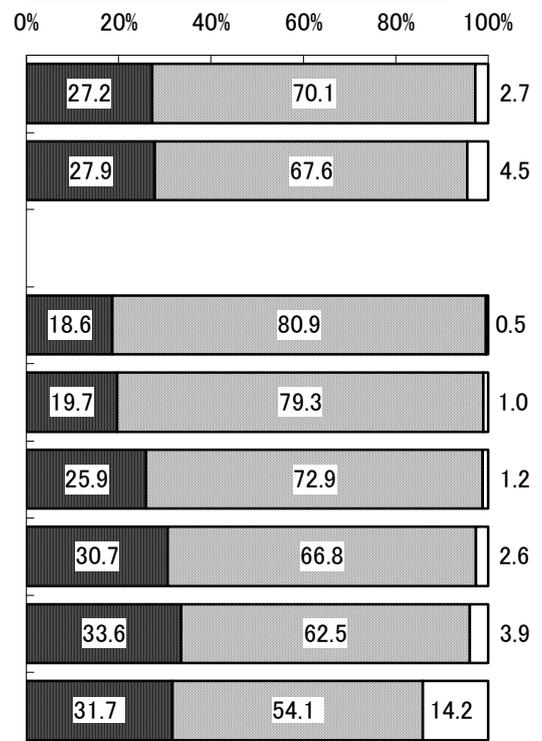
市指定の避難場所は、地震発生後応急危険度判定が行われ、安全が確保されなければ建物内に入ることはできないこと



市指定の避難場所には、自宅で生活できない人だけが行くこと

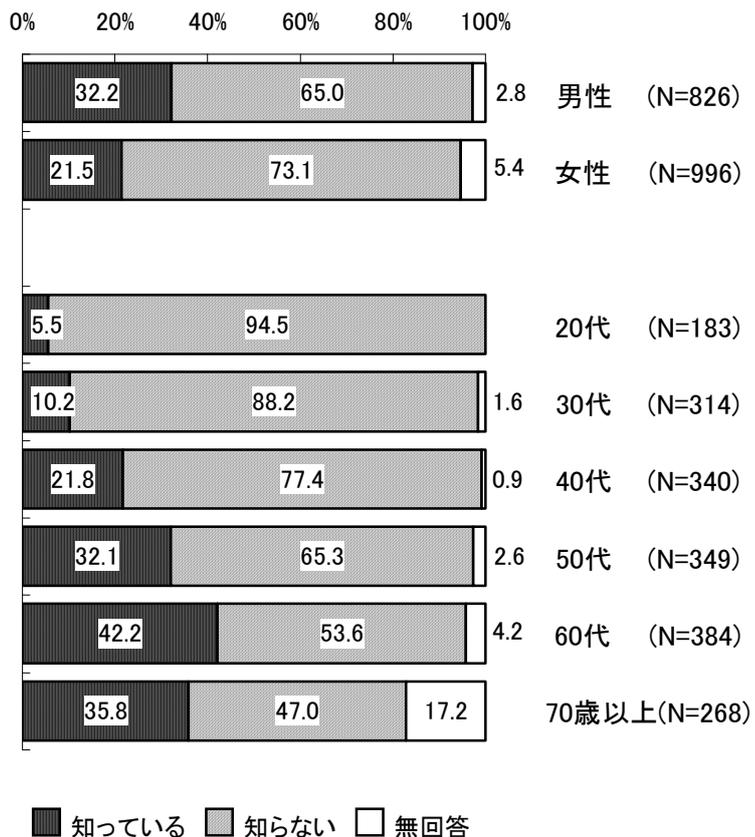


市内の医院は診療を中止し、救護病院と救護所のみ開設されること



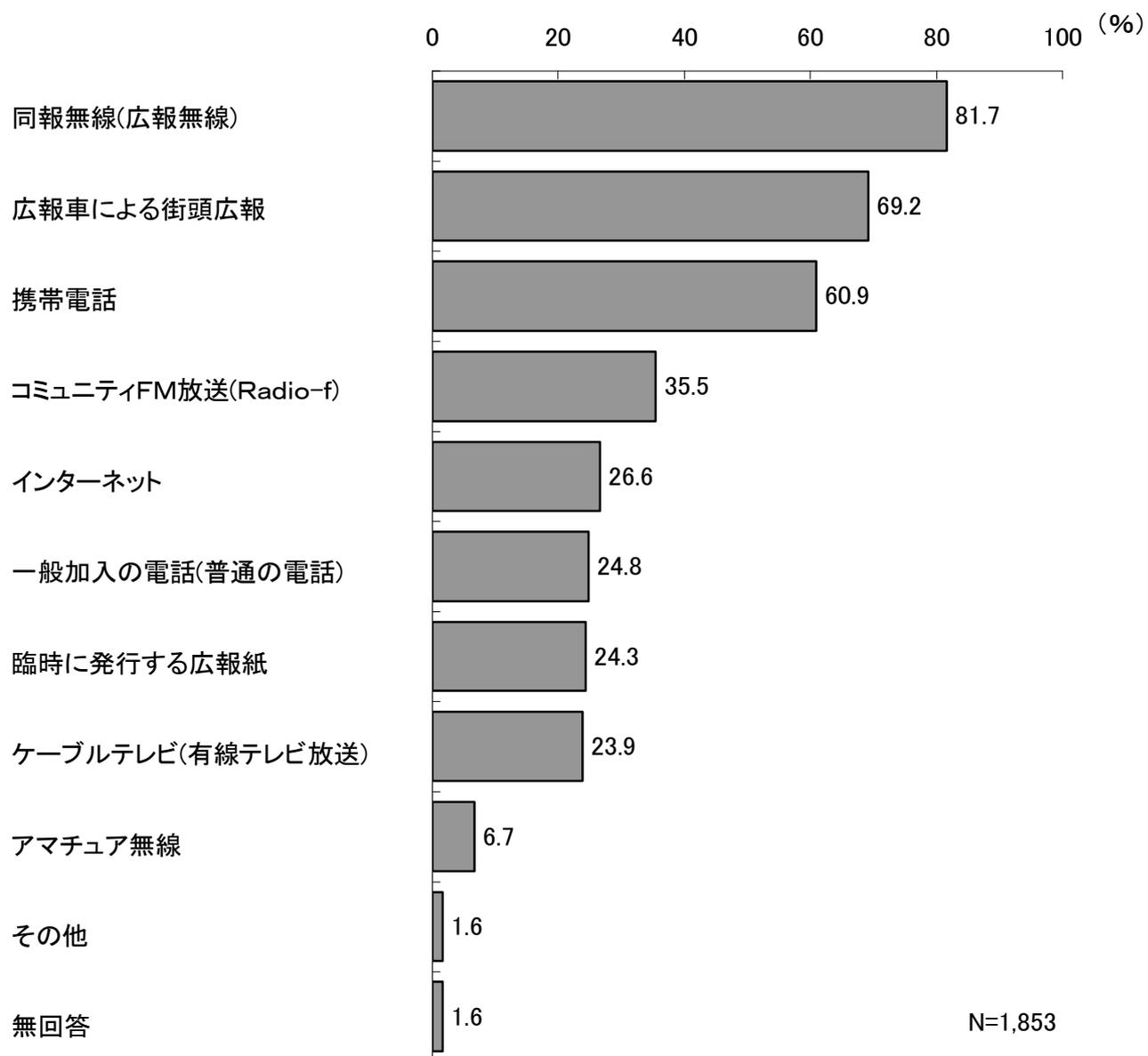
■ 知っている ■ 知らない □ 無回答

自主防災会での自分の役割



(21) 警戒宣言発表時・東海地震発生後の情報入手方法として必要なもの

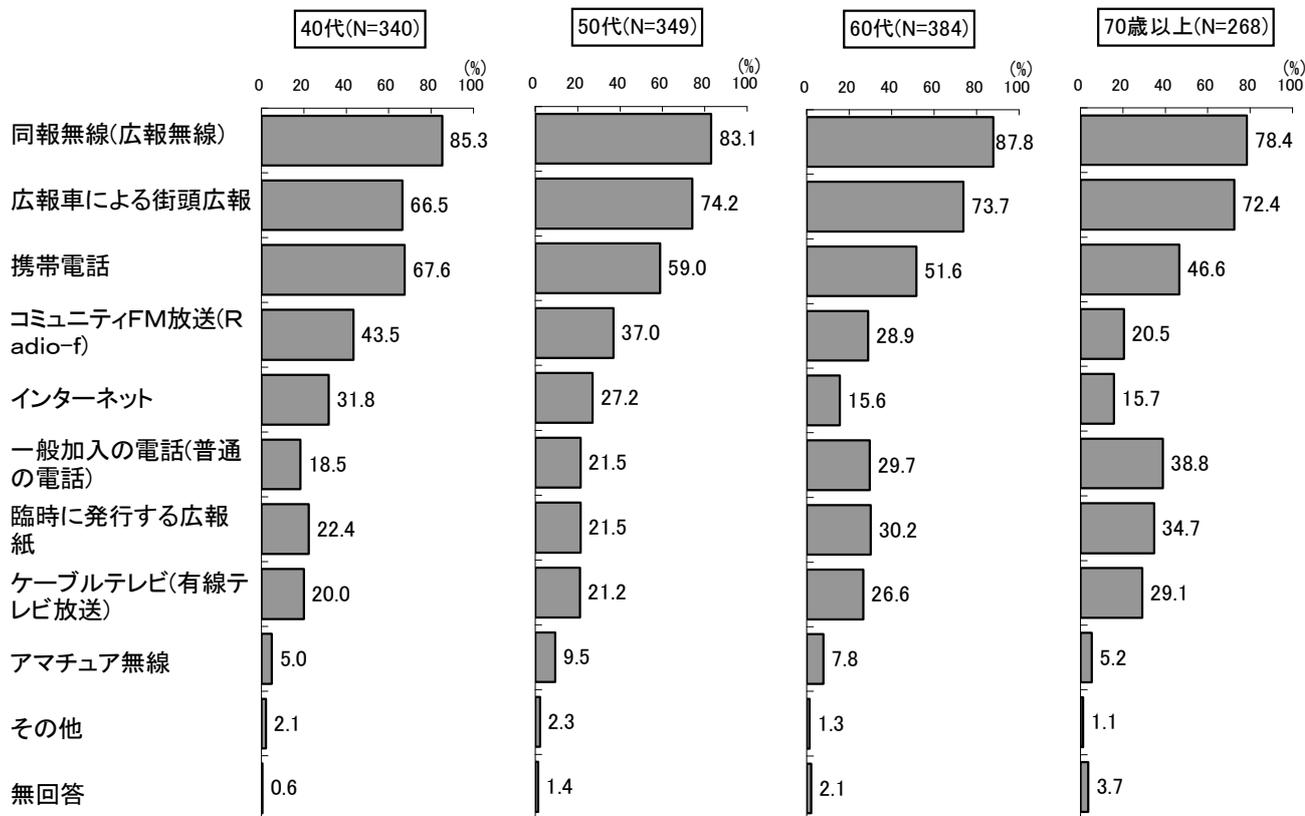
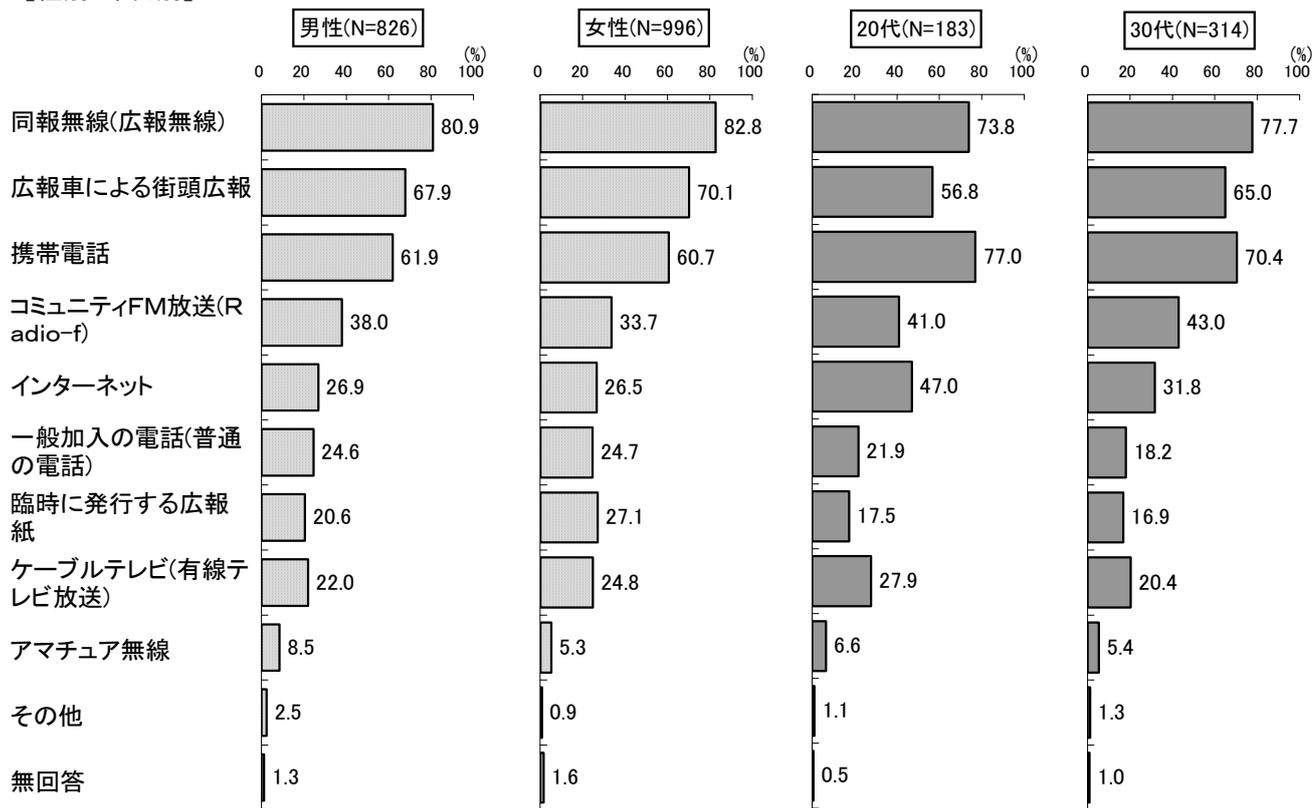
問 13 警戒宣言発表時及び東海地震発生後の情報入手方法として、どのようなものが必要だと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。



警戒宣言発表時・東海地震発生後の情報入手方法として必要なものを尋ねたところ、「同報無線（広報無線）」が81.7%で最も多く、次いで「広報車による街頭広報」が69.2%、「携帯電話」が60.9%となった。

年代別に見ると、各年代とも「同報無線（広報無線）」からの情報入手が必要であると回答している中で、20代、30代では「携帯電話」も7割以上の人を選択している。

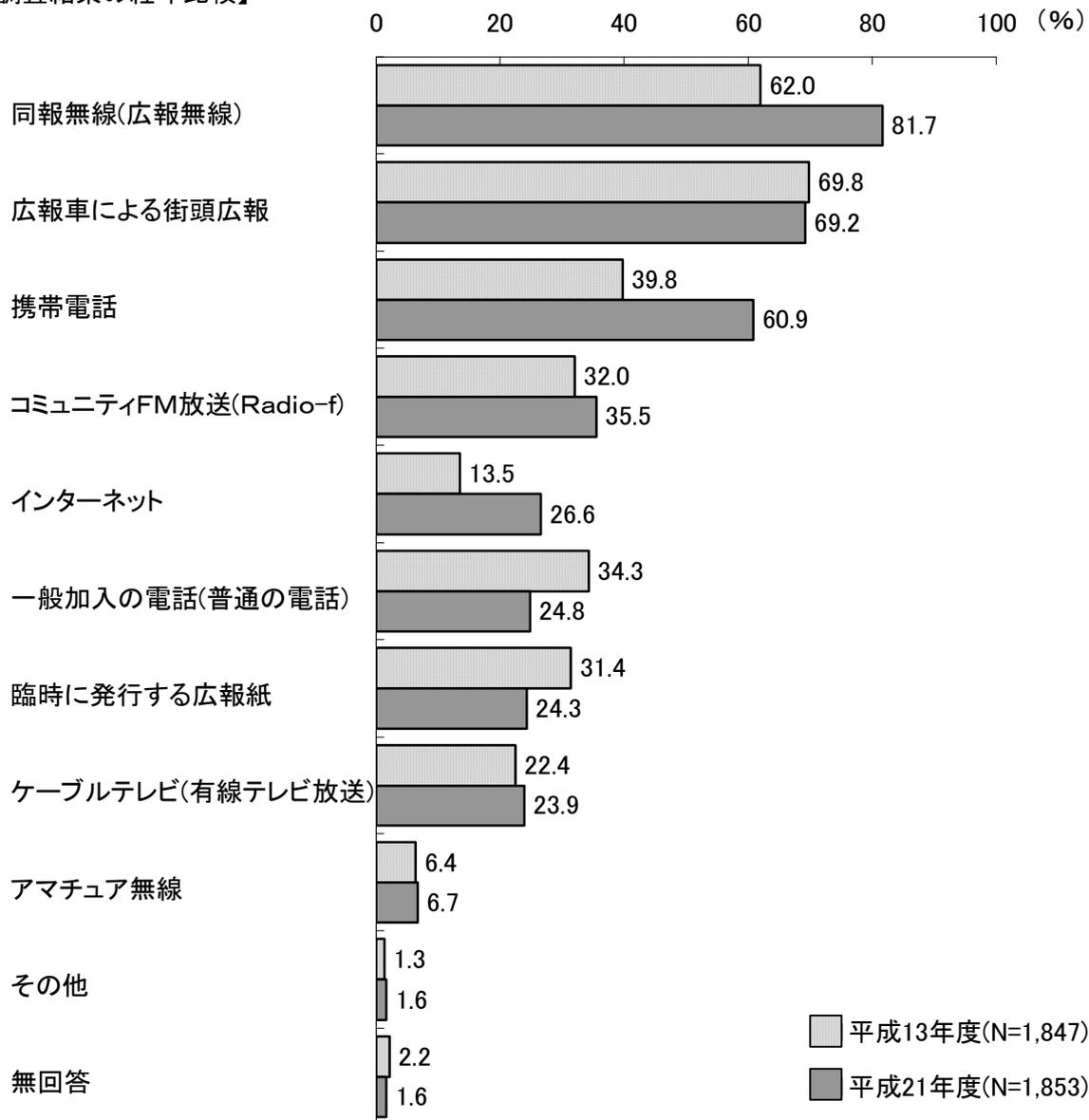
【性別・年代別】



調査結果

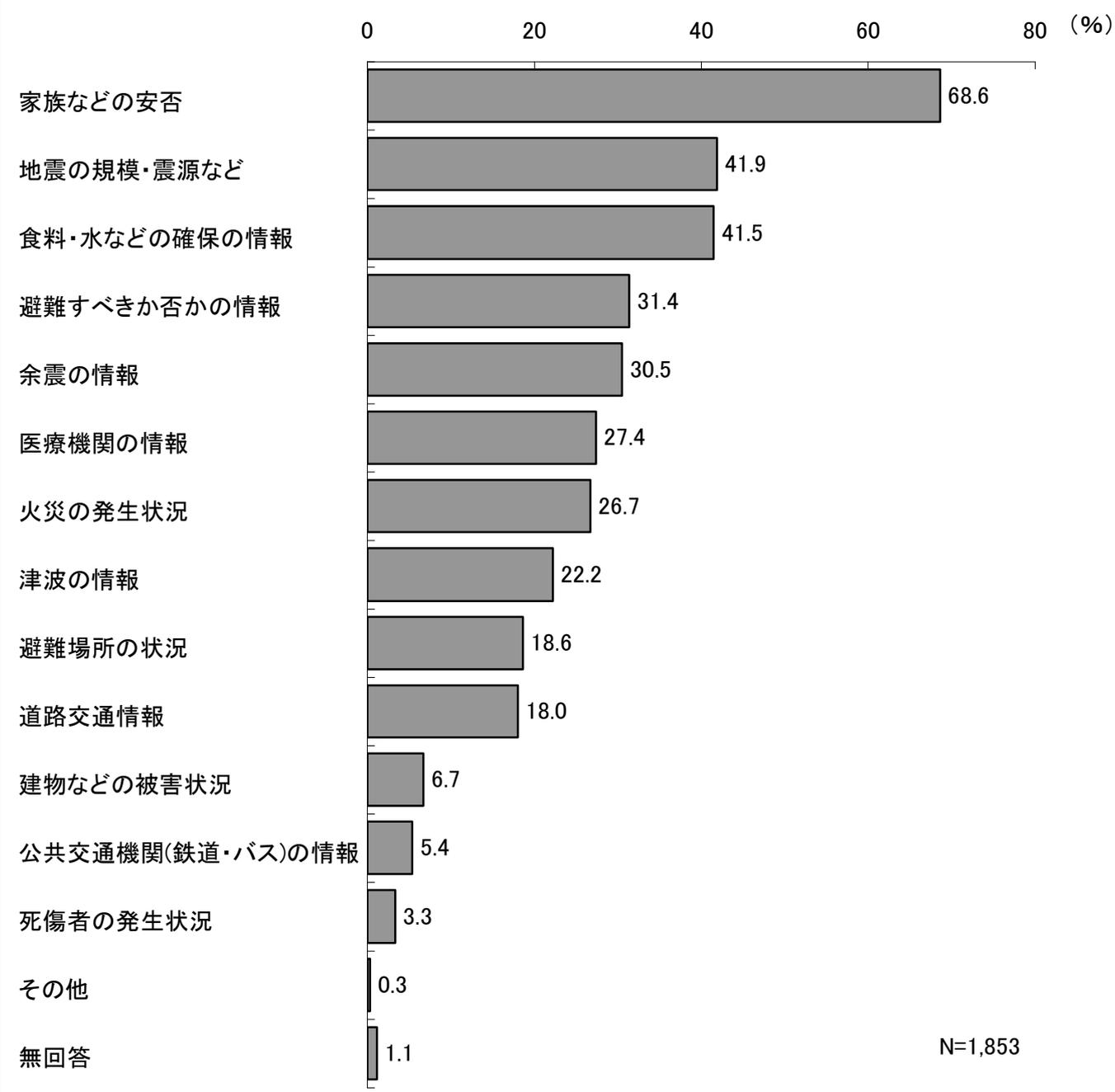
平成13年度の調査結果と比較すると、増加した項目は「携帯電話」が39.8%から60.9%、「同報無線（広報無線）」が62.0%から81.7%となった。逆に減少している項目は、「一般加入の電話（普通の電話）」が34.3%から24.8%、「臨時に発行する広報紙」が31.4%から24.3%となっている。

【調査結果の経年比較】



(22) 東海地震発生時に知りたい情報

問 14 東海地震が発生した場合、どのような情報を知りたいですか。次の中から主なものを3つ以内で選んでください。

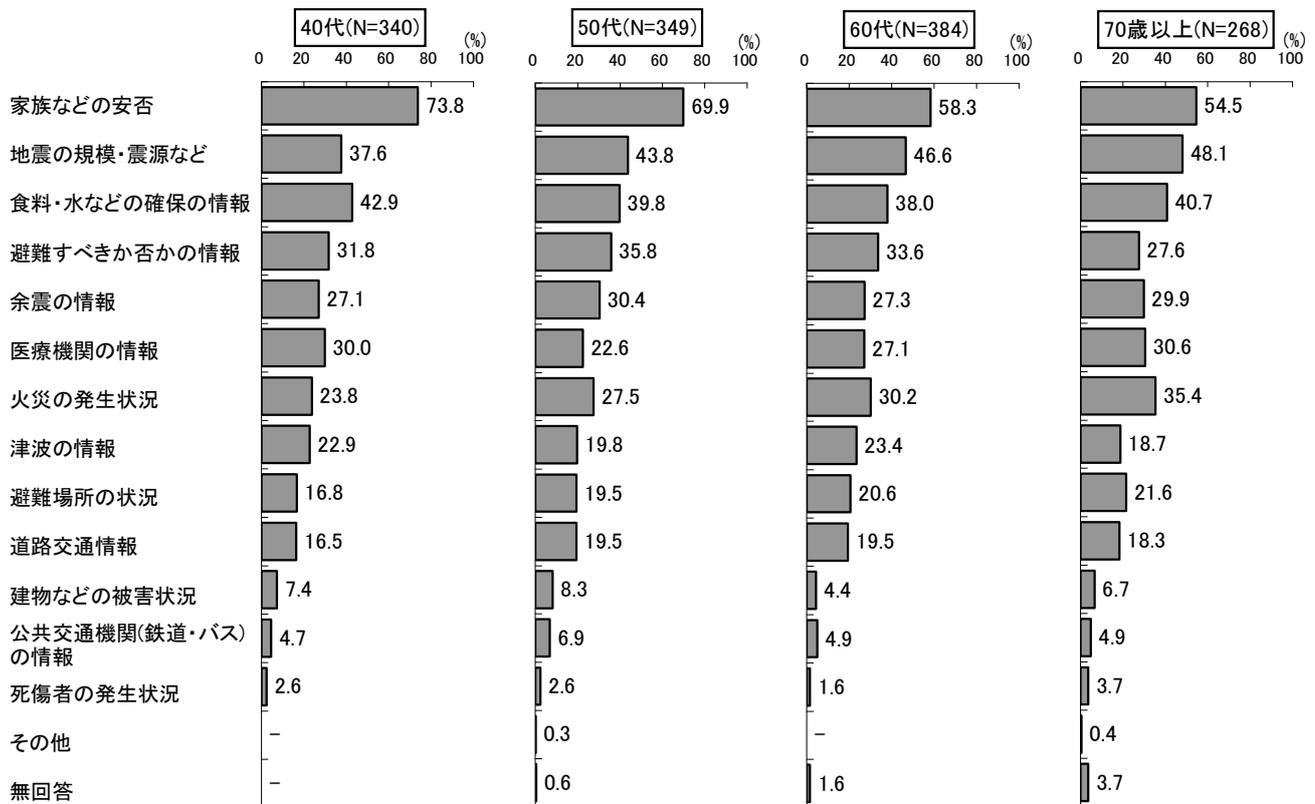
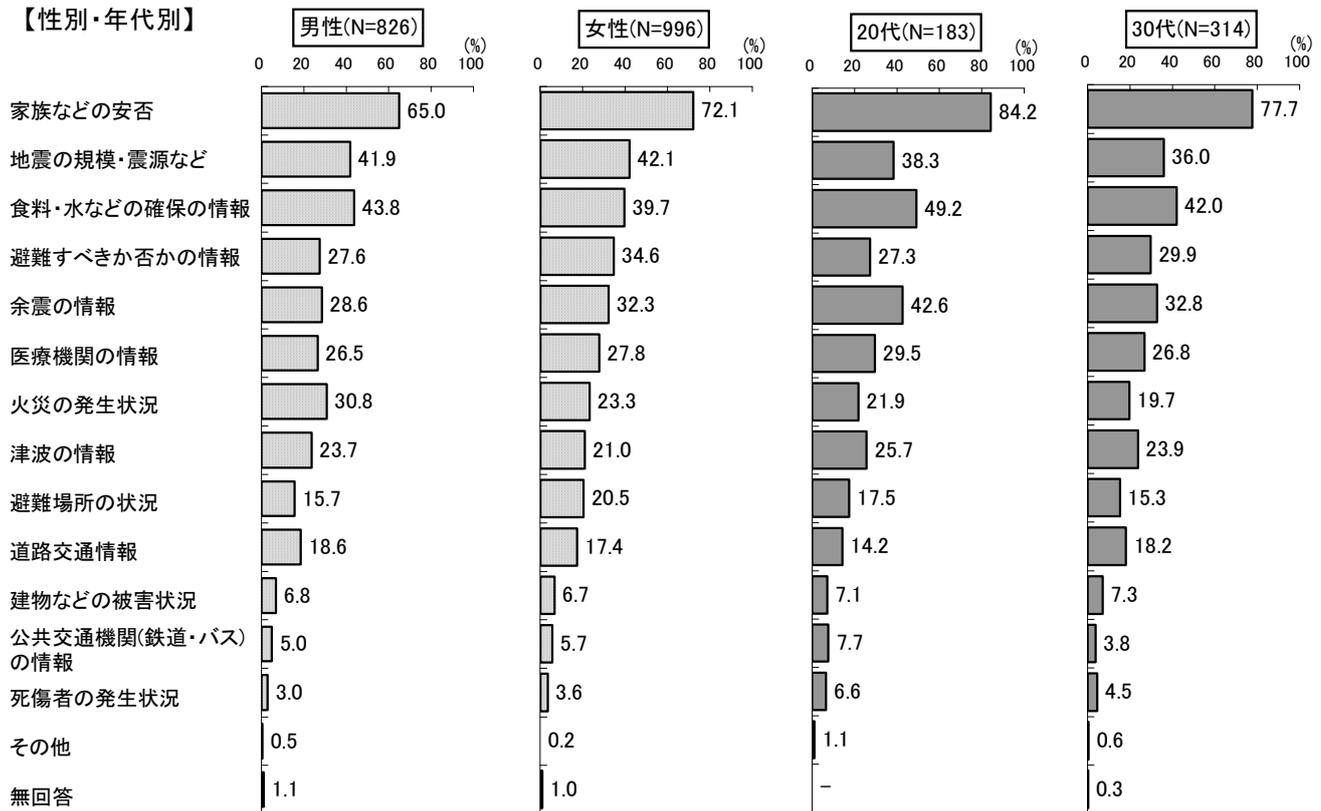


東海地震発生時に知りたい情報を尋ねたところ、「家族などの安否」が68.6%で最も多く、次いで「地震の規模・震源など」が41.9%、「食料・水などの確保の情報」が41.5%となった。

年代別に見ると、「家族などの安否」を知りたい人の割合は、若い年代ほど高くなっている。20代～40代では、「地震の規模・震源など」より「食料・水などの確保の情報」の方が割合が高くなっている。

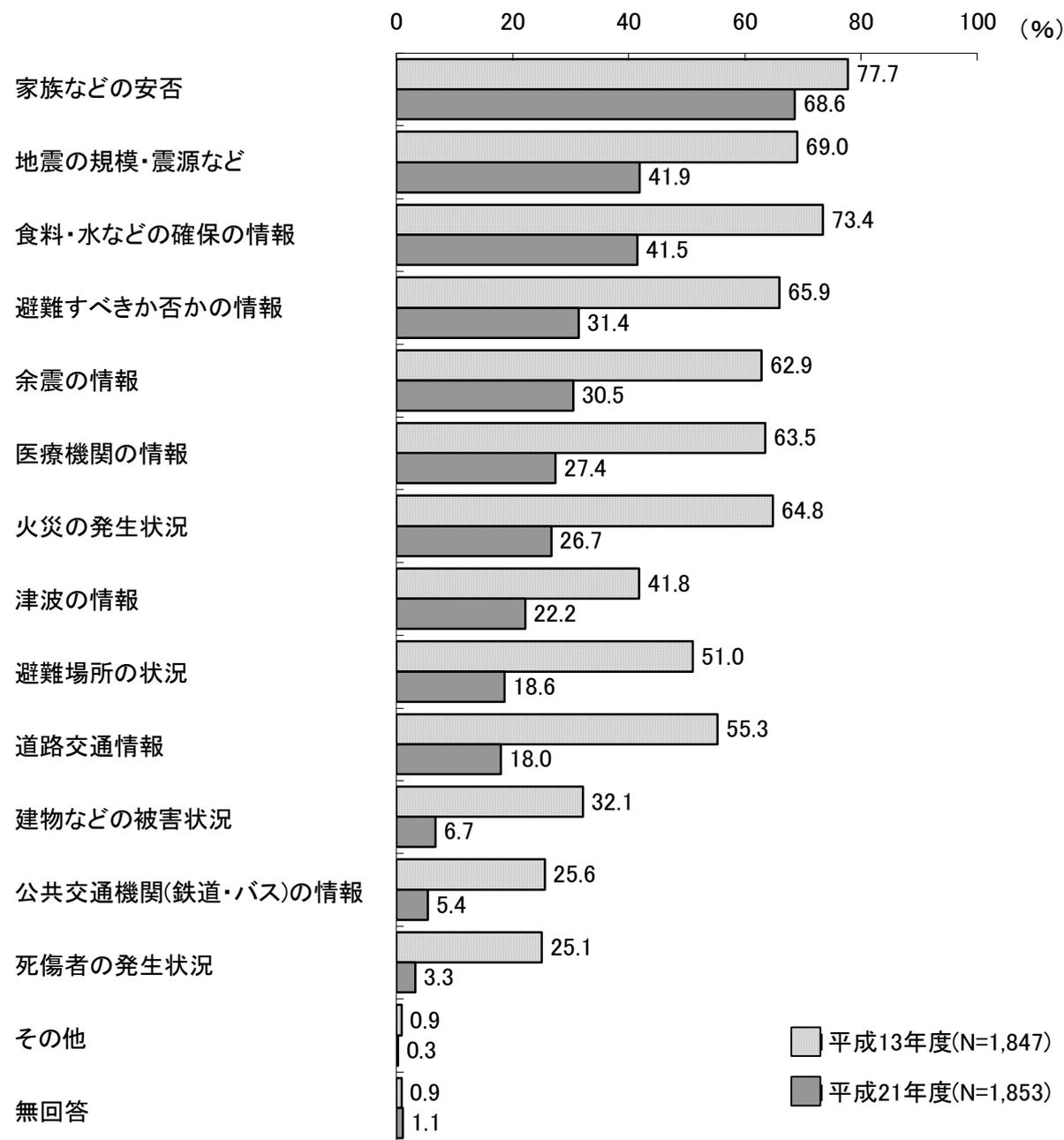
調査結果

【性別・年代別】



平成13年度の調査結果では、「家族などの安否」、「食料・水などの確保の情報」「地震の規模・震源など」の順となっている。

【調査結果の経年比較】

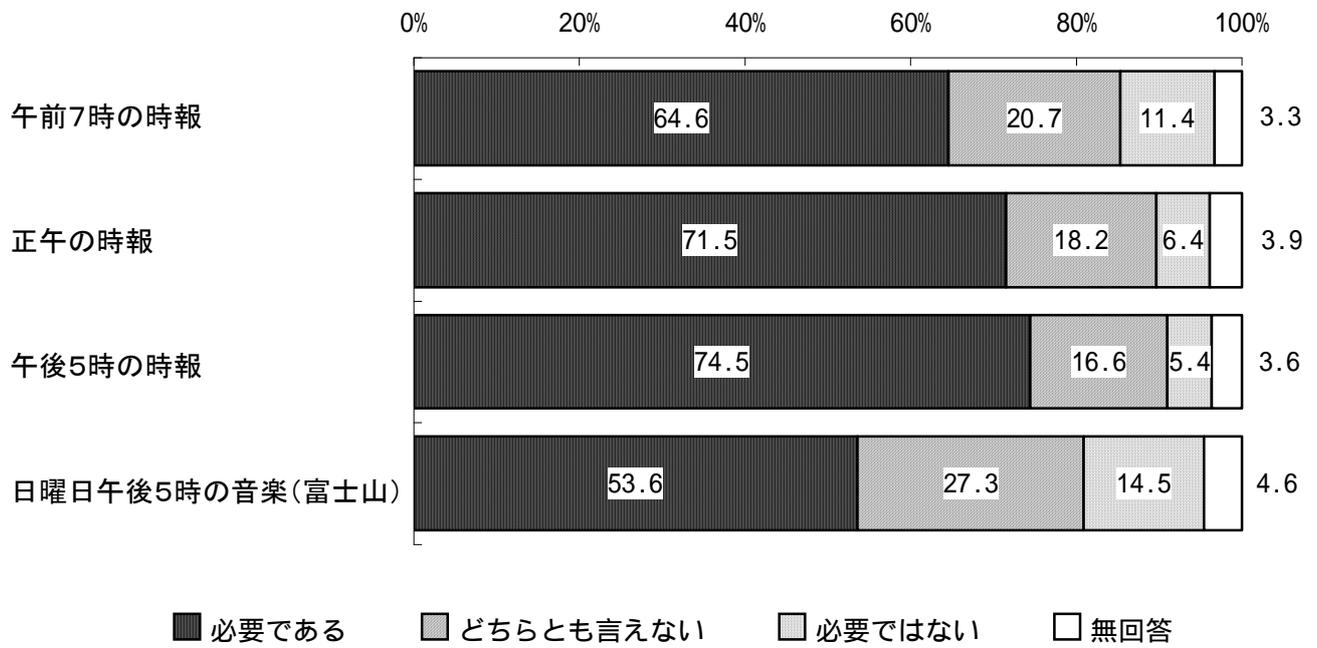


* 平成13年度は回答数に制限がなかったが、平成21年度の回答数は3つまでとしている

(23) 同報無線について

問 15 「こちらは広報ふじです。」で知られる同報無線は、東海地震などの災害が発生した時に、市民に対し情報を提供するために整備されたものです。平常時には、点検を兼ねて時報や市からのお知らせなどを放送していますが、次に挙げるものについて必要だと思いますか。当てはまるものを1つずつ選んでください。

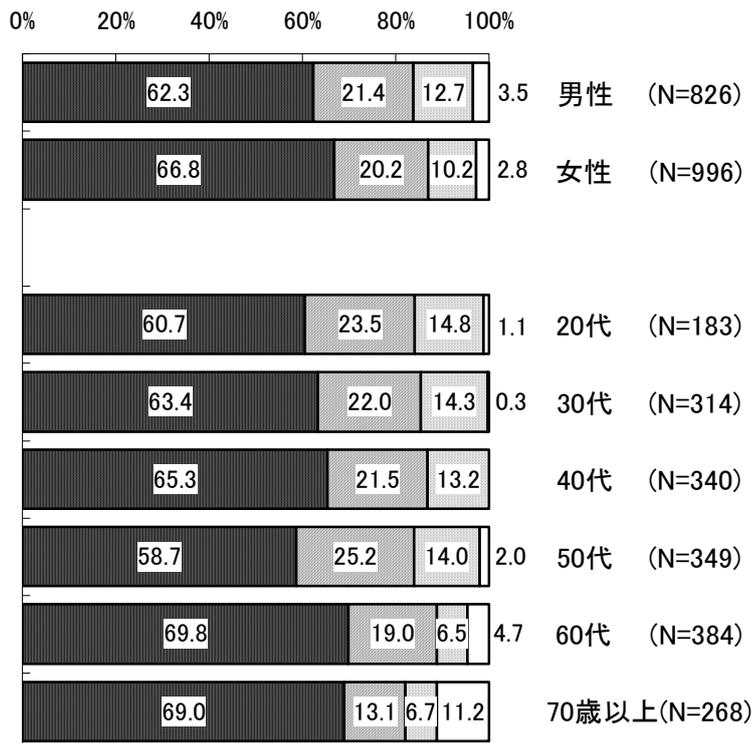
N=1,853



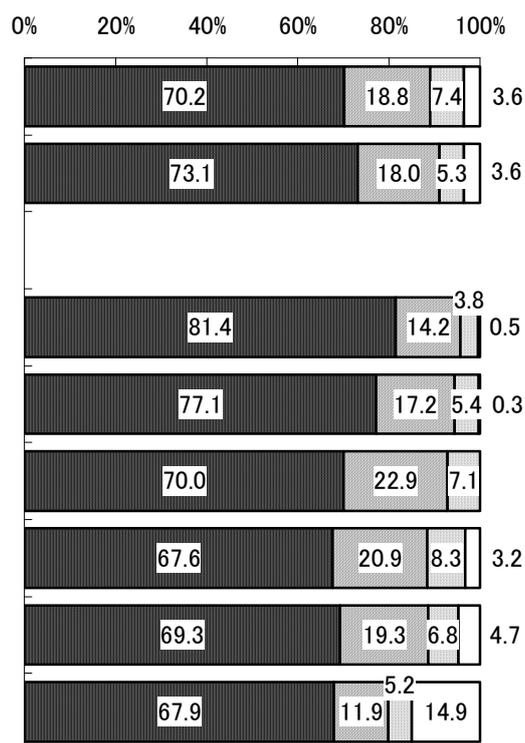
同報無線の平常時の時報などが必要だと思うか尋ねたところ、すべての時報について、半数以上の人が必要と答えている。中でも「午後5時の時報」は74.5%、「正午の時報」も71.5%の人が必要であると答えている。

年代別に見ると、午前7時の時報は60代以上が7割近く、正午の時報は20代が8割、午後5時の時報は各年代とも7割以上が必要であると回答している。日曜日午後5時の音楽は、60代の6割が必要と答えているものの、30代～50代では2割弱の人が必要ではないと答えている。

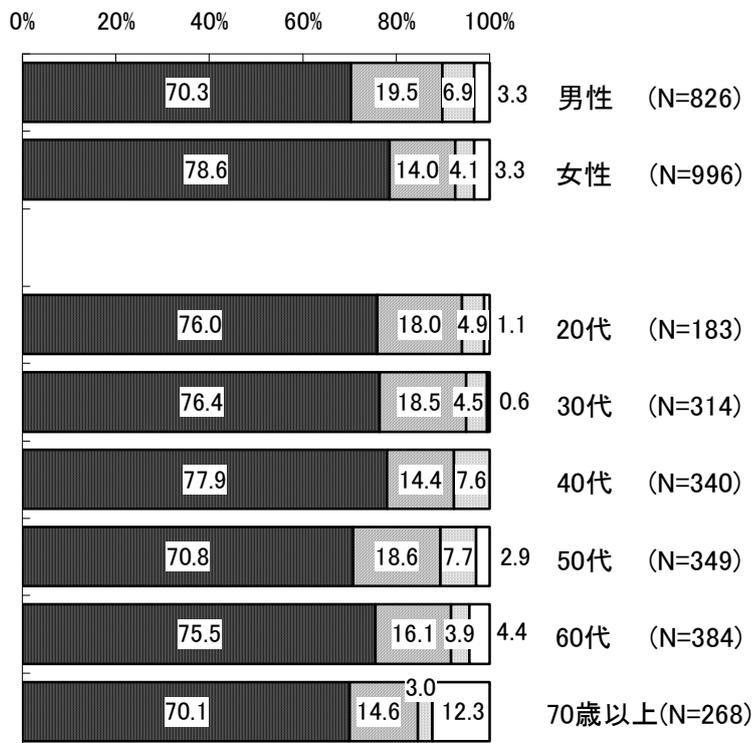
午前7時の時報



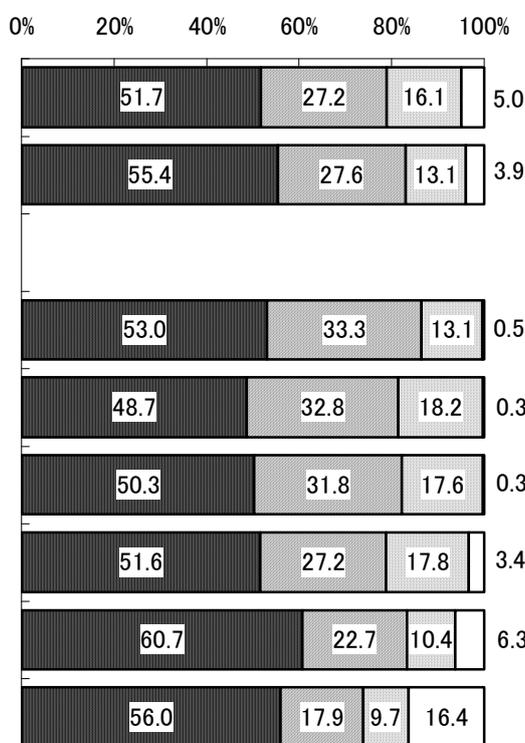
正午の時報



午後5時の時報



日曜日午後5時の音楽(富士山)

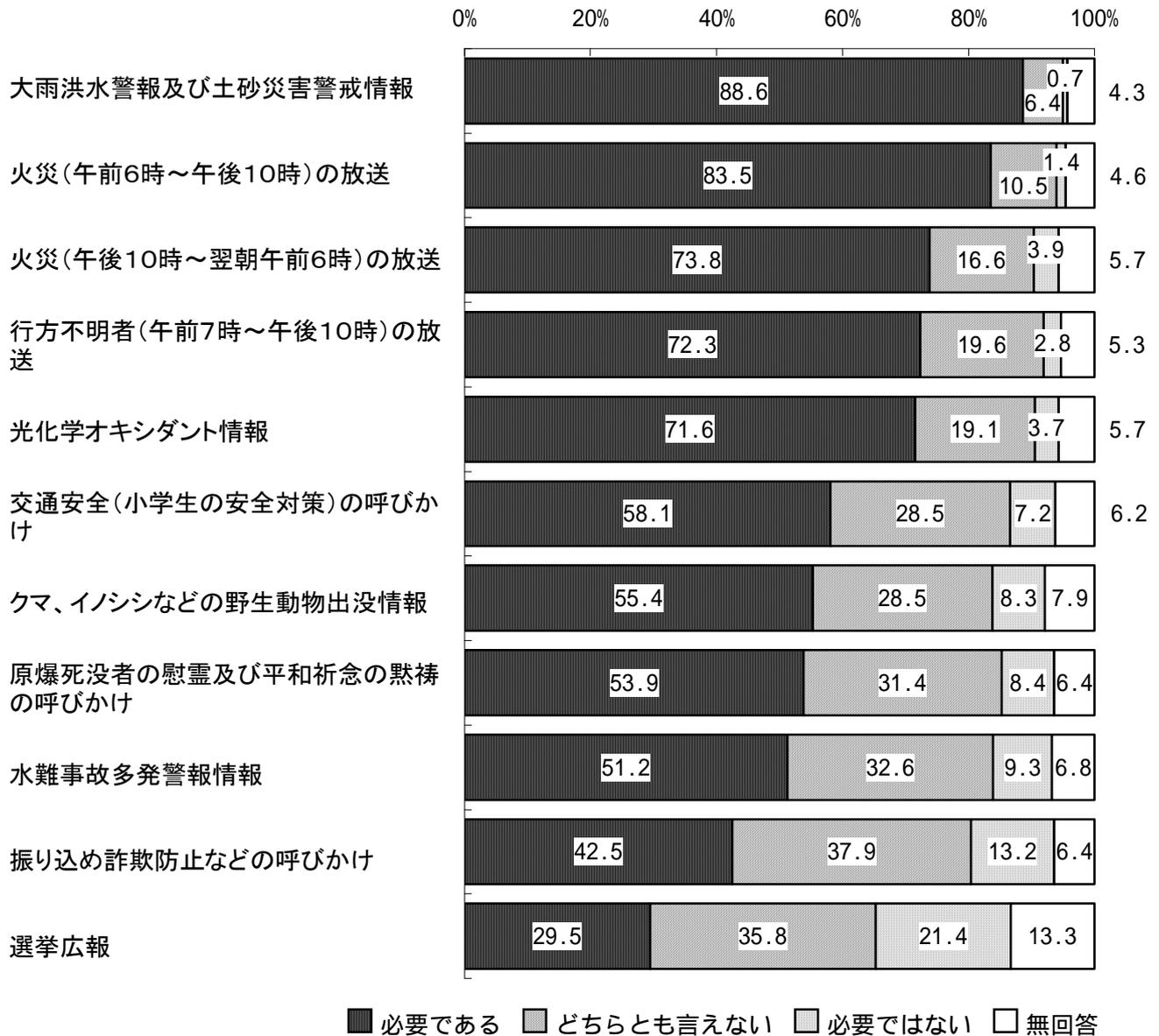


■ 必要である ■ どちらとも言えない ■ 必要ではない □ 無回答

(24) 臨時に放送する同報無線の必要度

問 16 問 15 の放送以外に、市は臨時に放送を行う場合があります。次に挙げるものについて必要だと思いますか。当てはまるものを 1つずつ 選んでください。

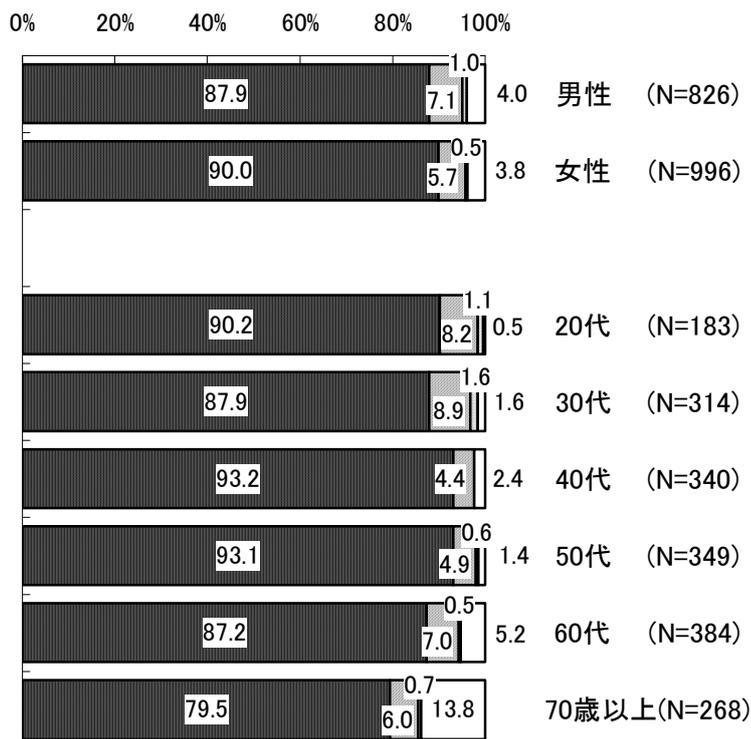
N=1,853



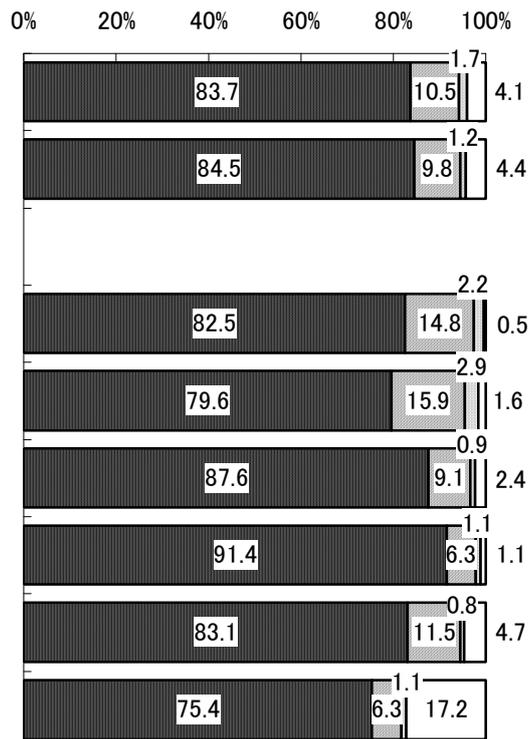
臨時に放送する同報無線の必要度を尋ねたところ、必要であるという回答が最も多かったのは、「大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報」で88.6%となった。次いで「火災(午前6時～午後10時)の放送」が83.5%、「火災(午後10時～翌朝午前6時)の放送」が73.8%となった。

「その他必要だと思うものを記入してください」の回答として、「不審者、強盗などの犯罪情報」(28件)、「通行止め、渋滞などの交通情報」(11件)、「雪、雷、ゲリラ豪雨などの異常気象情報」(5件)、「行事・イベント・ニュース」(5件)、「交通安全、迷惑行為防止の放送」(4件)、「小学生の下校時の放送、帰宅時間の放送」(3件)などがあつた。

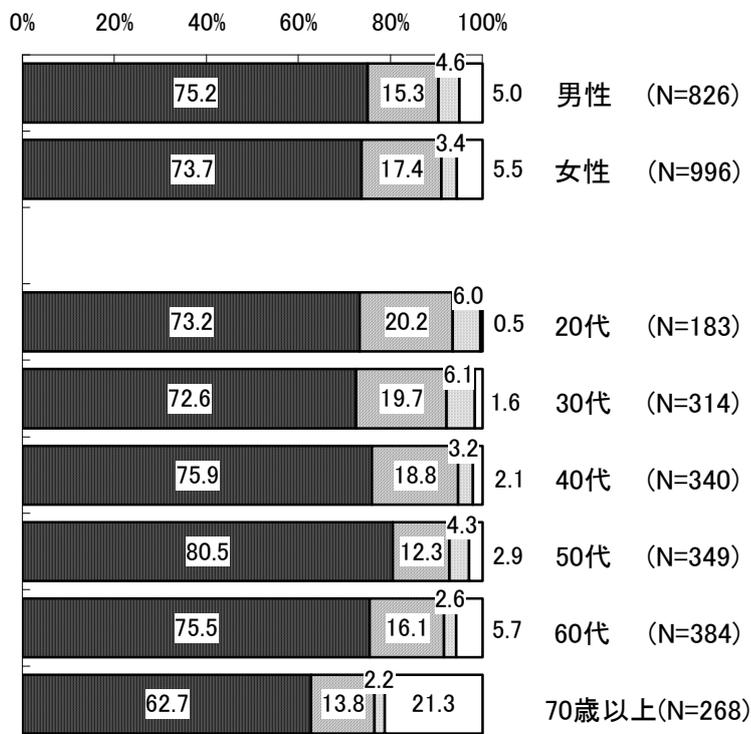
大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報



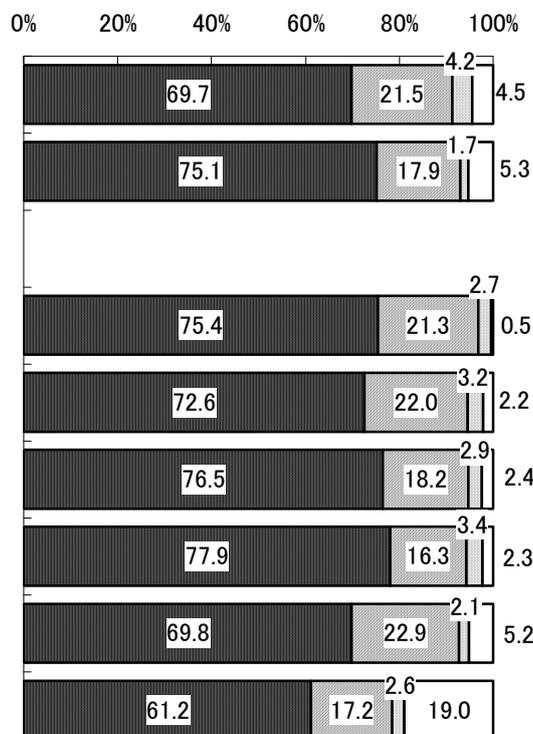
火災(午前6時～午後10時)の放送



火災(午後10時～翌朝午前6時)の放送



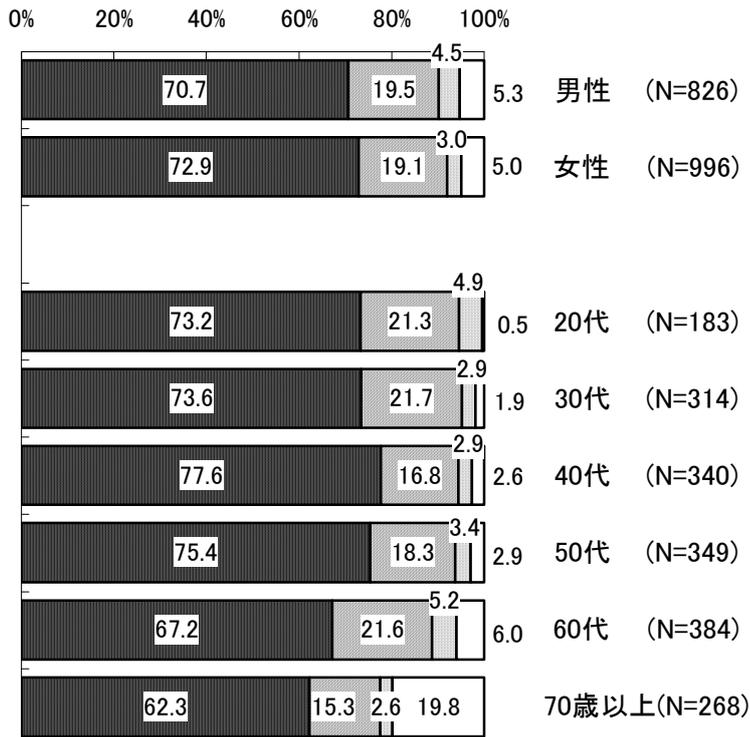
行方不明者(午前7時～午後10時)の放送



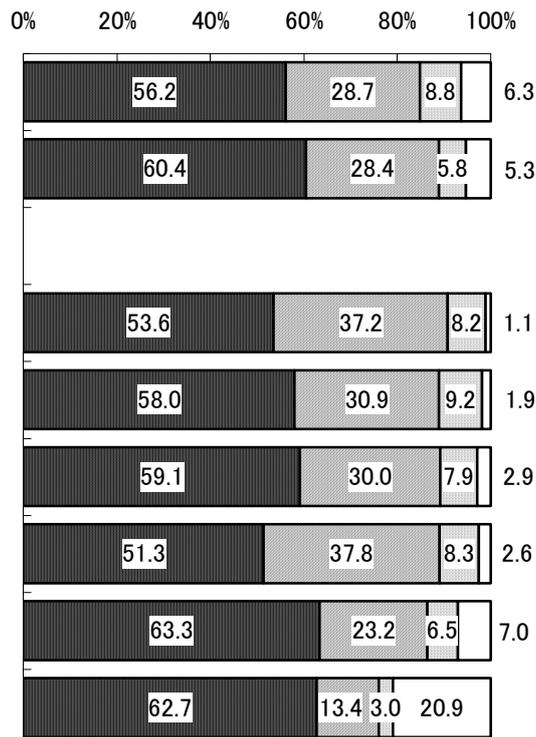
必要である
 必要ではない
 どちらとも言えない
 無回答

調査結果

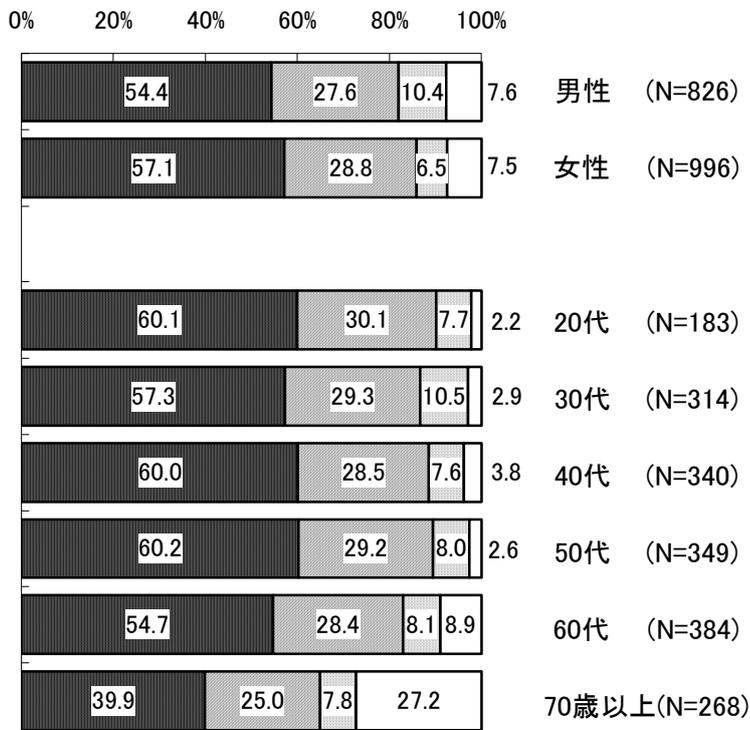
光化学オキシダント情報



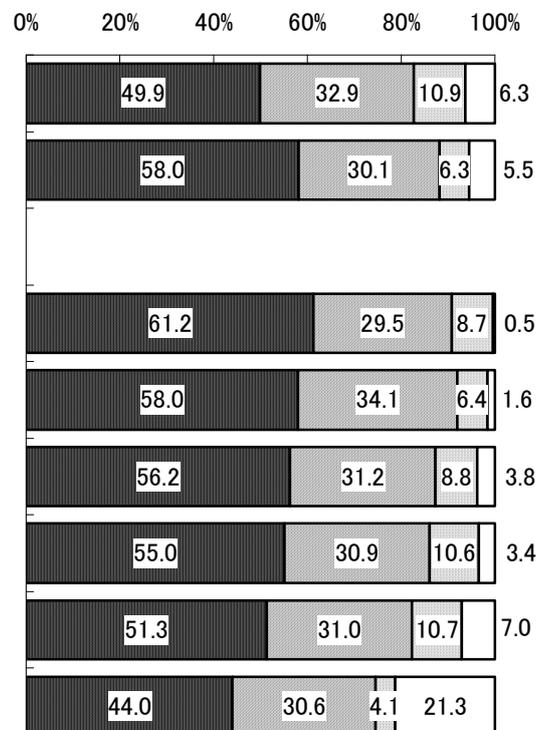
交通安全(小学生の安全対策)の呼びかけ



クマ、イノシシなどの野生動物出没情報

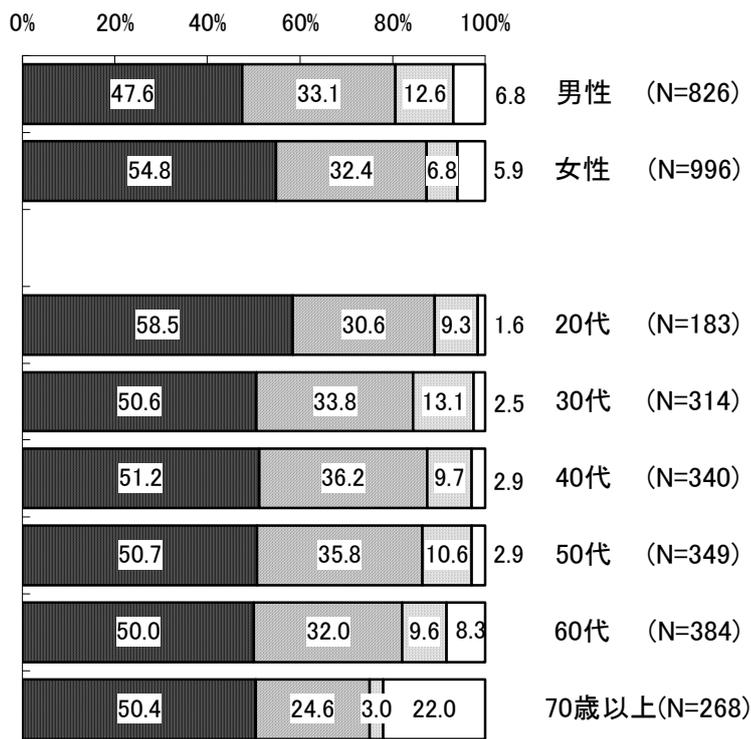


原爆死没者の慰霊及び平和祈念の黙禱の呼びかけ

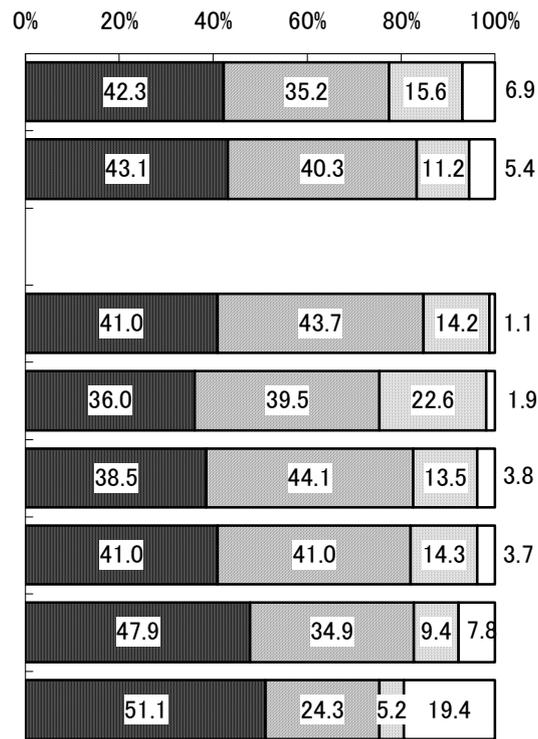


必要である
 必要ではない
 どちらとも言えない
 無回答

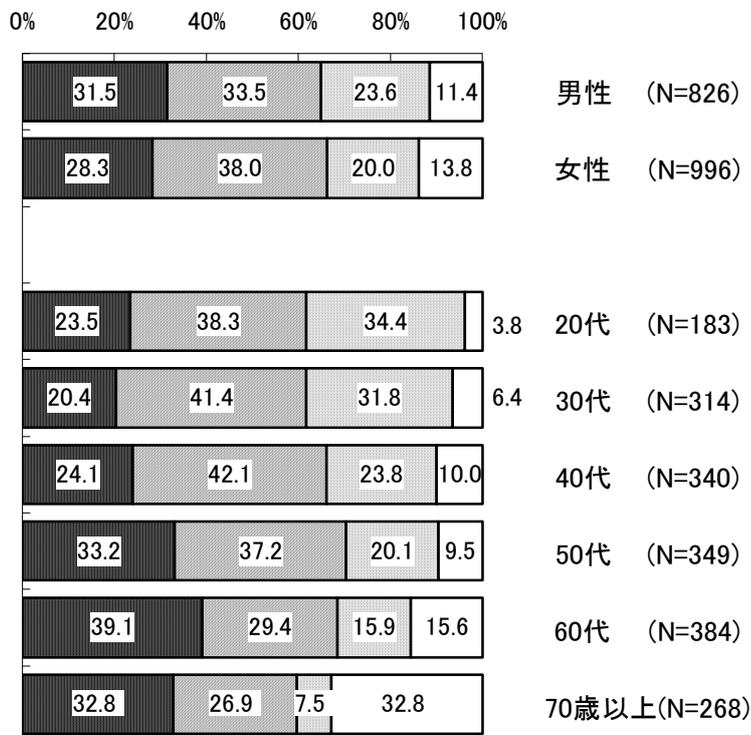
水難事故多発警報情報



振り込め詐欺防止などの呼びかけ



選挙広報

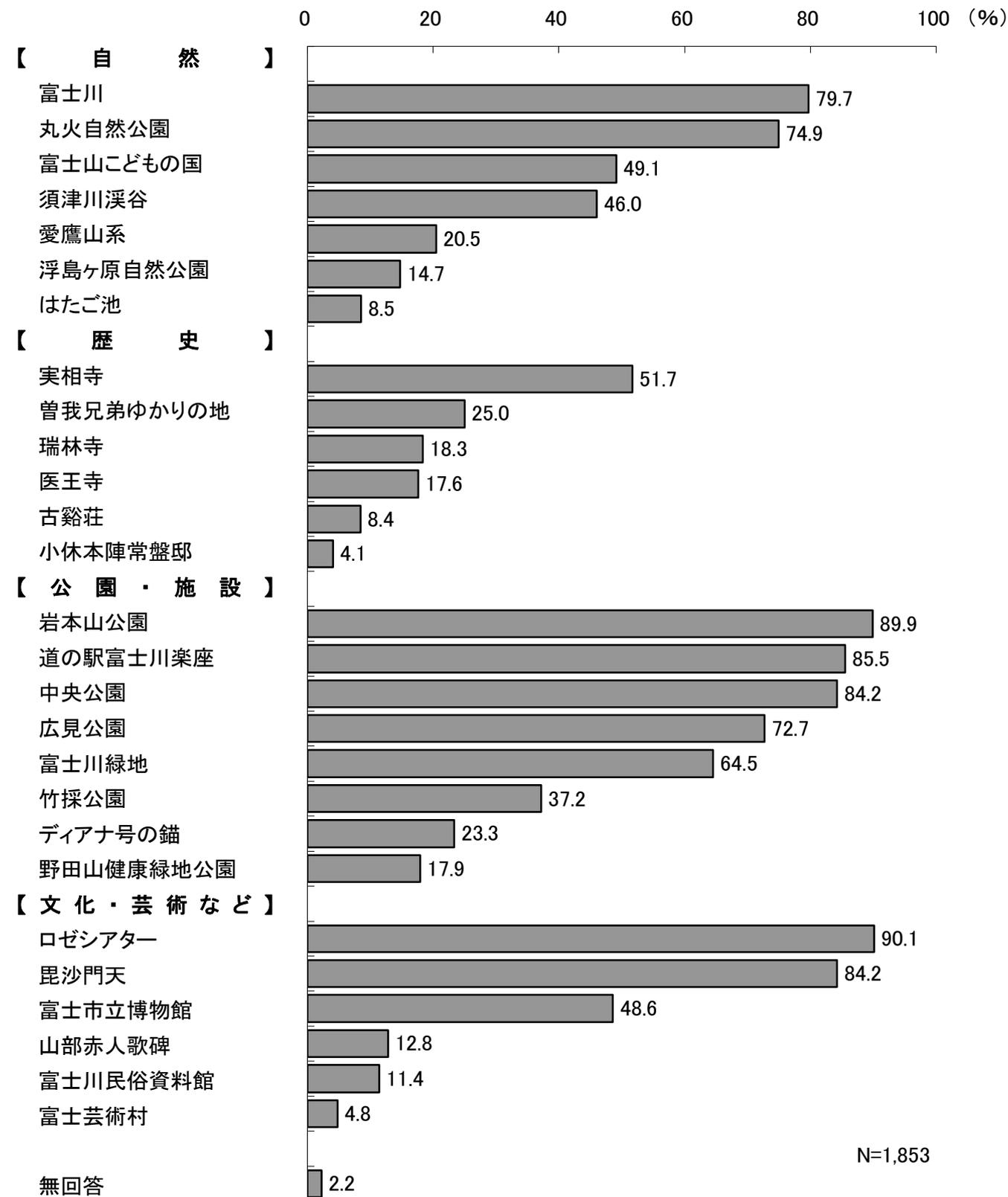


必要である どちらとも言えない
 必要ではない 無回答

富士市の観光について

(1) 行ったことがある場所

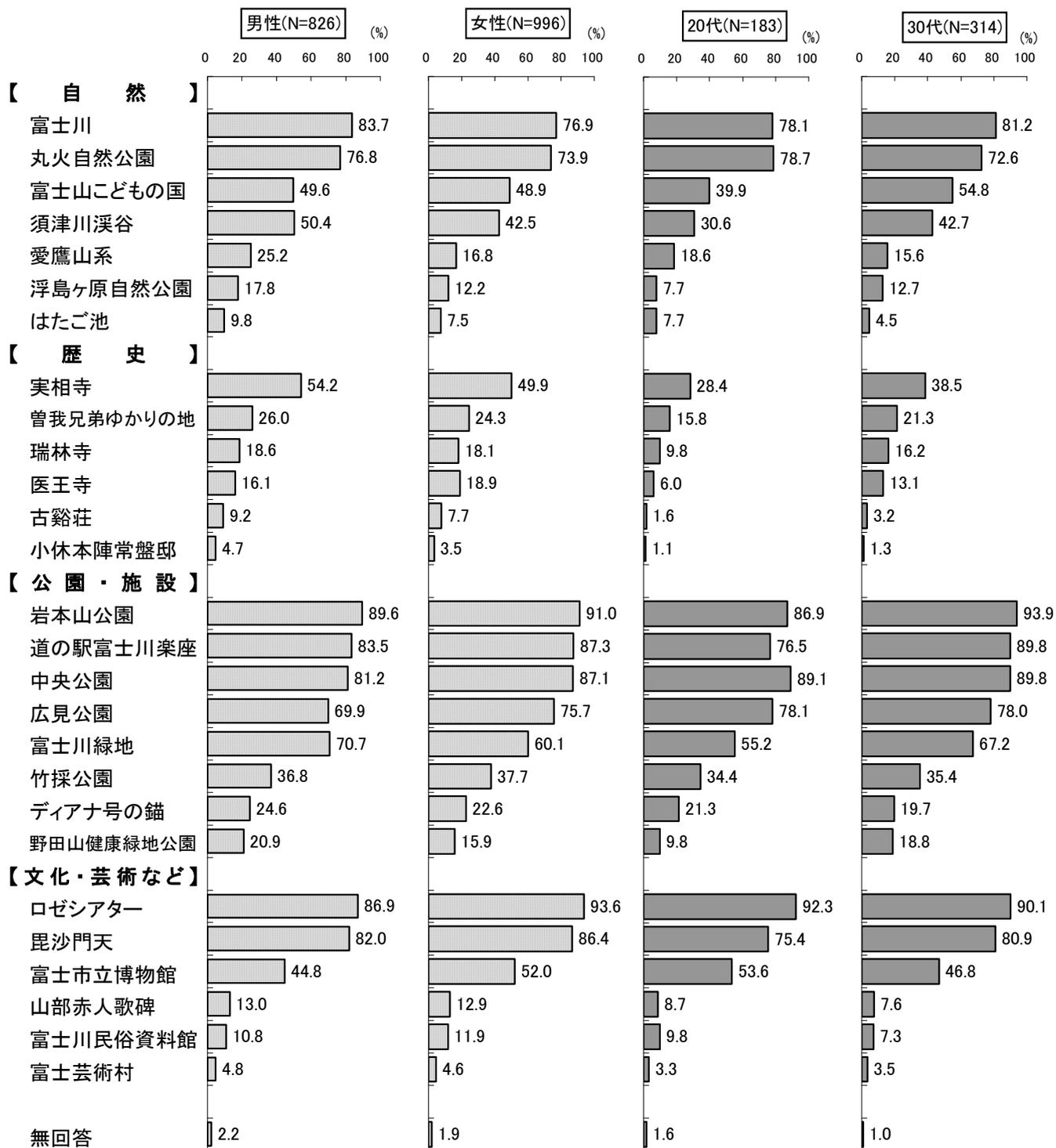
問 18 あなたが行ったことのある場所はどこですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。



今までに行ったことのある場所を尋ねたところ、「ロゼシアター」が最も多く 90.1%だった。次いで「岩本山公園」が 89.9%、「道の駅富士川楽座」が 85.5%、「中央公園」「毘沙門天」が 84.2%となった。

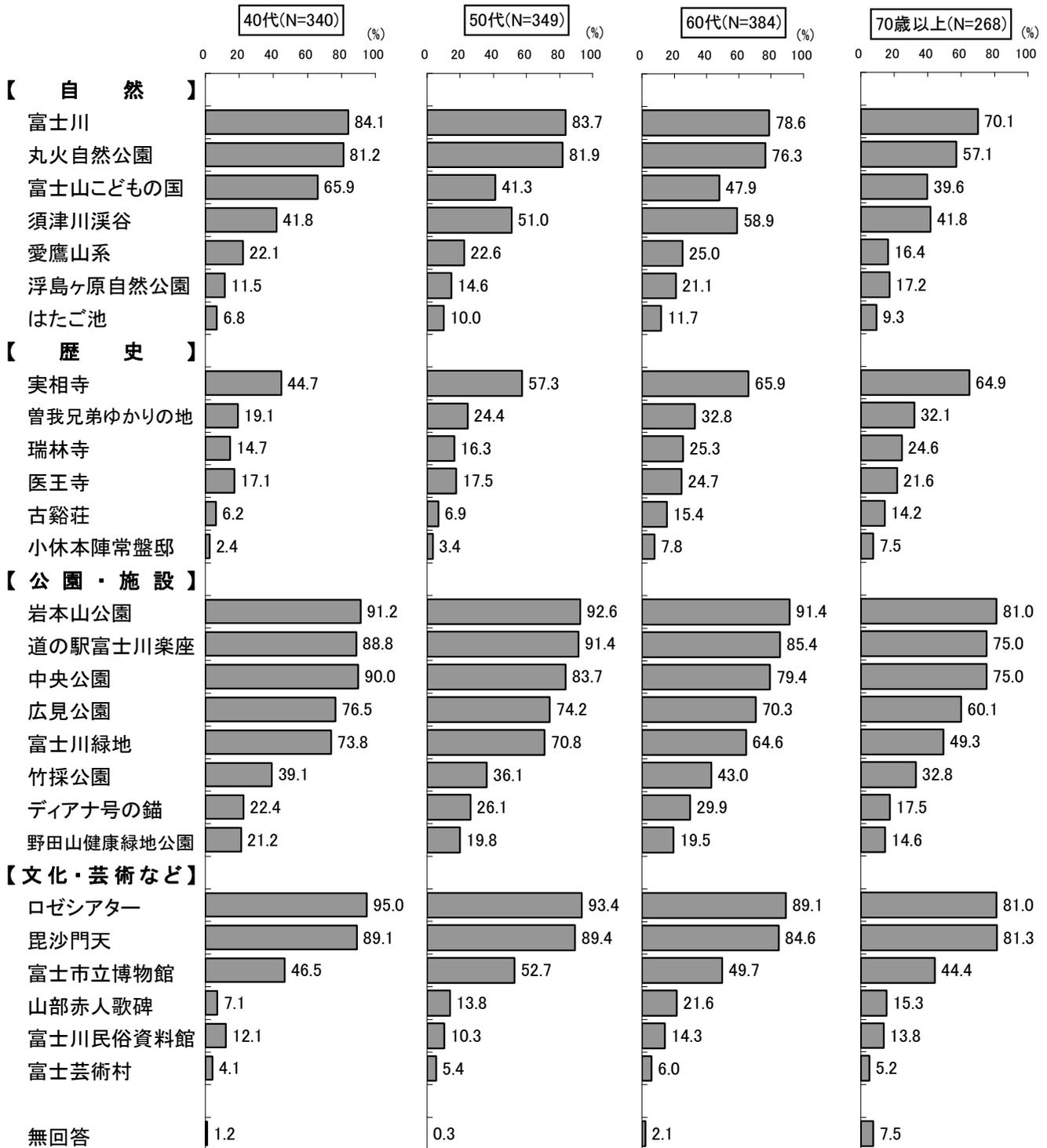
年代別に見ると、20代(92.3%)、40代(95.0%)、50代(93.4%)では「ロゼシアター」が最も多く、30代(93.9%)、60代(91.4%)では「岩本山公園」が最も多かった。70歳以上は「毘沙門天」が最も多く、81.3%となった。

【性別・年代別】



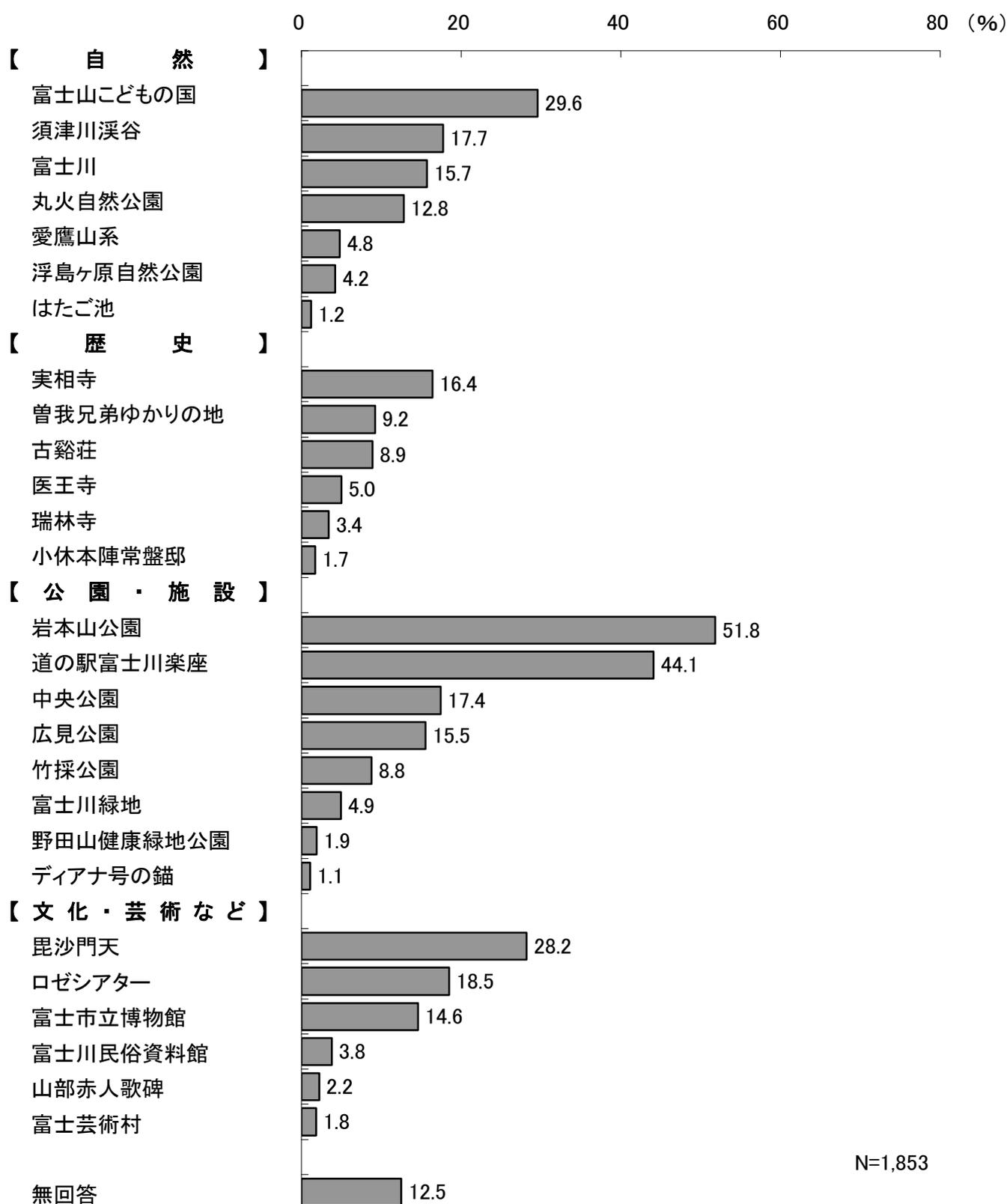
調査結果

【性別・年代別】



(2) 市外からの訪問者を案内したい場所

問 19 あなたが市外から訪れたお客様を案内したい場所はどこですか。次の中から3つ以内で選んでください。

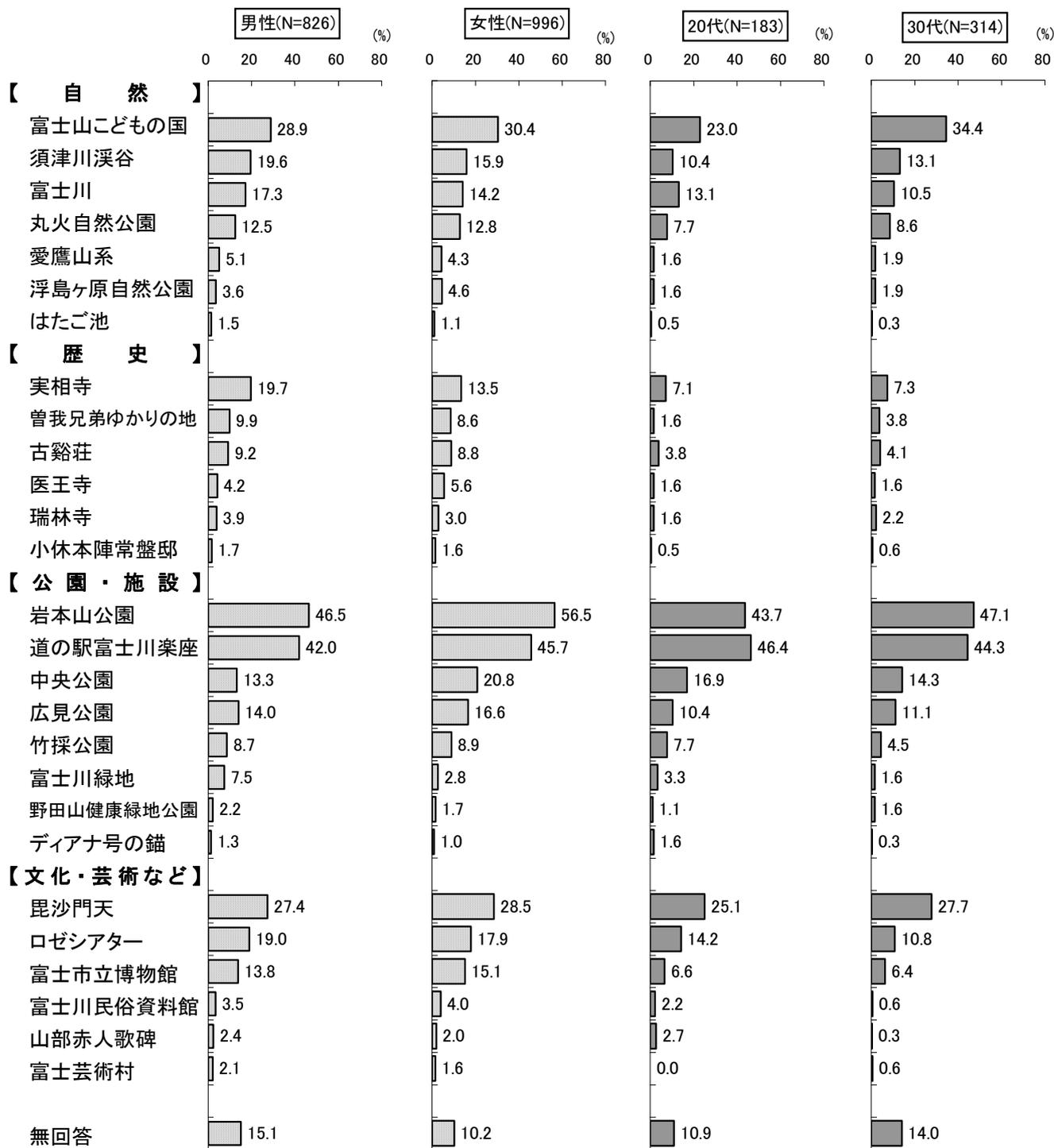


調査結果

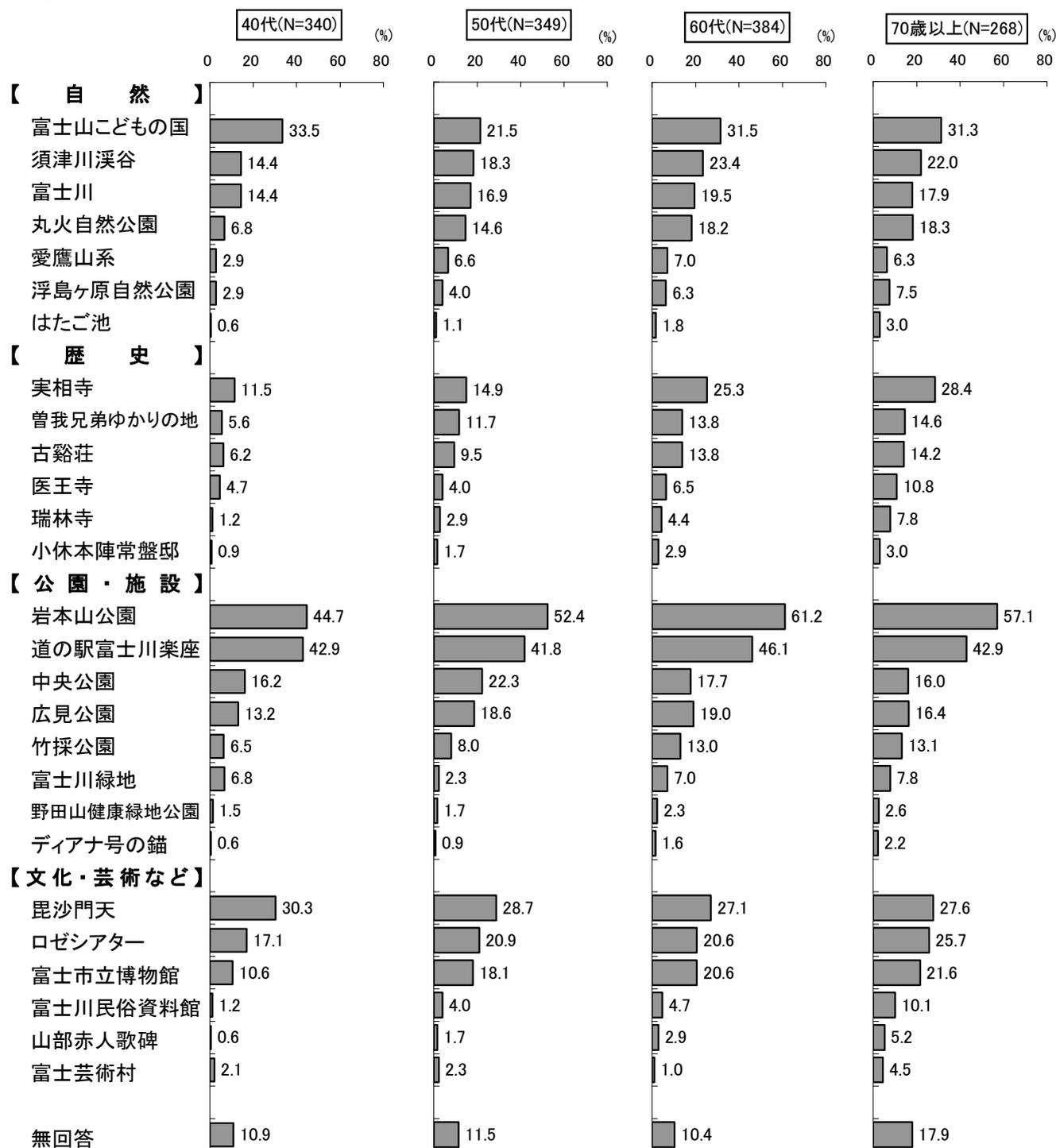
市外からの訪問者を案内したい場所を尋ねたところ、「岩本山公園」が最も多く 51.8%となった。次いで「道の駅富士川楽座」が 44.1%、「富士山こどもの国」が 29.6%、「毘沙門天」が 28.2%となった。

年代別に見ると、30代(47.1%)、40代(44.7%)、50代(52.4%)、60代(61.2%)、70歳以上(57.1%)で「岩本山公園」が最も多かった。20代は「道の駅富士川楽座」が最も多く、46.4%となった。

【性別・年代別】

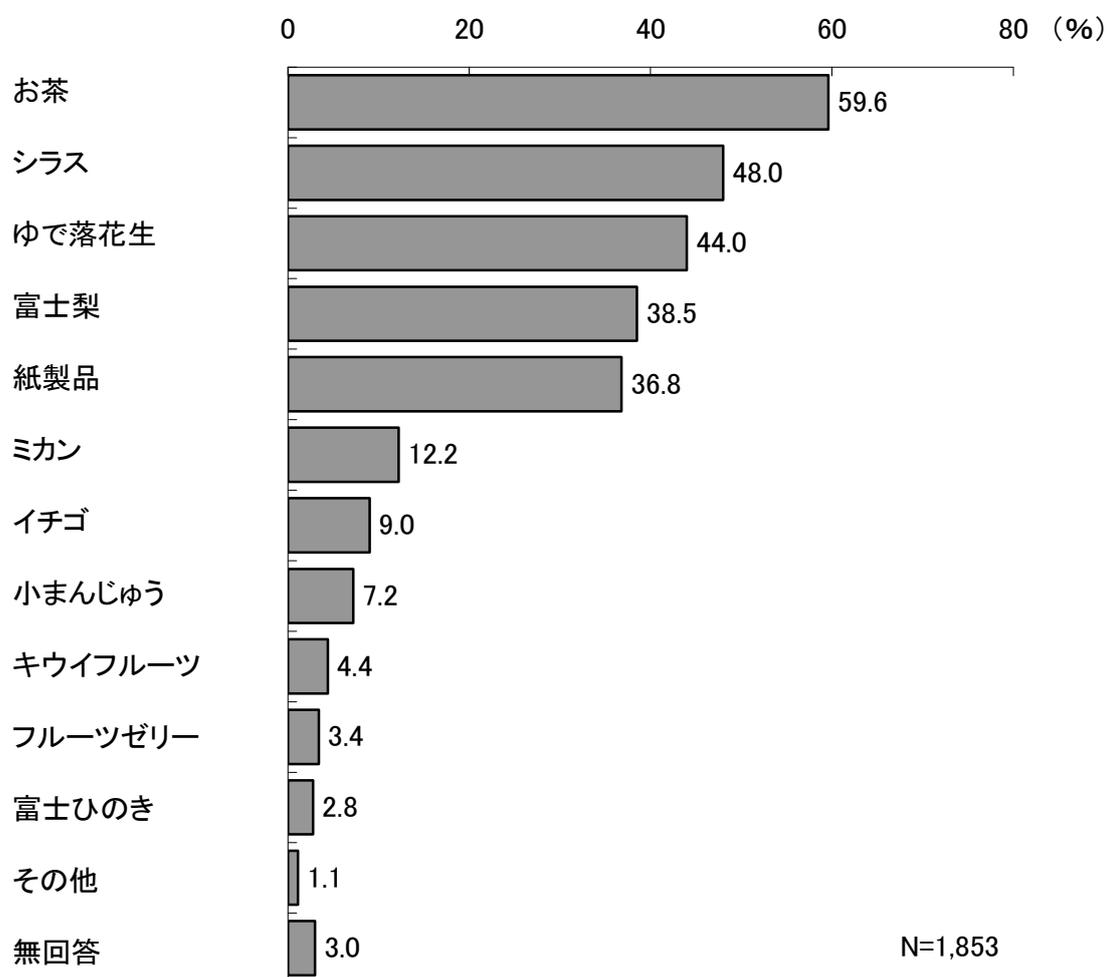


【性別・年代別】



(3) 富士市の特産品として自慢できるもの

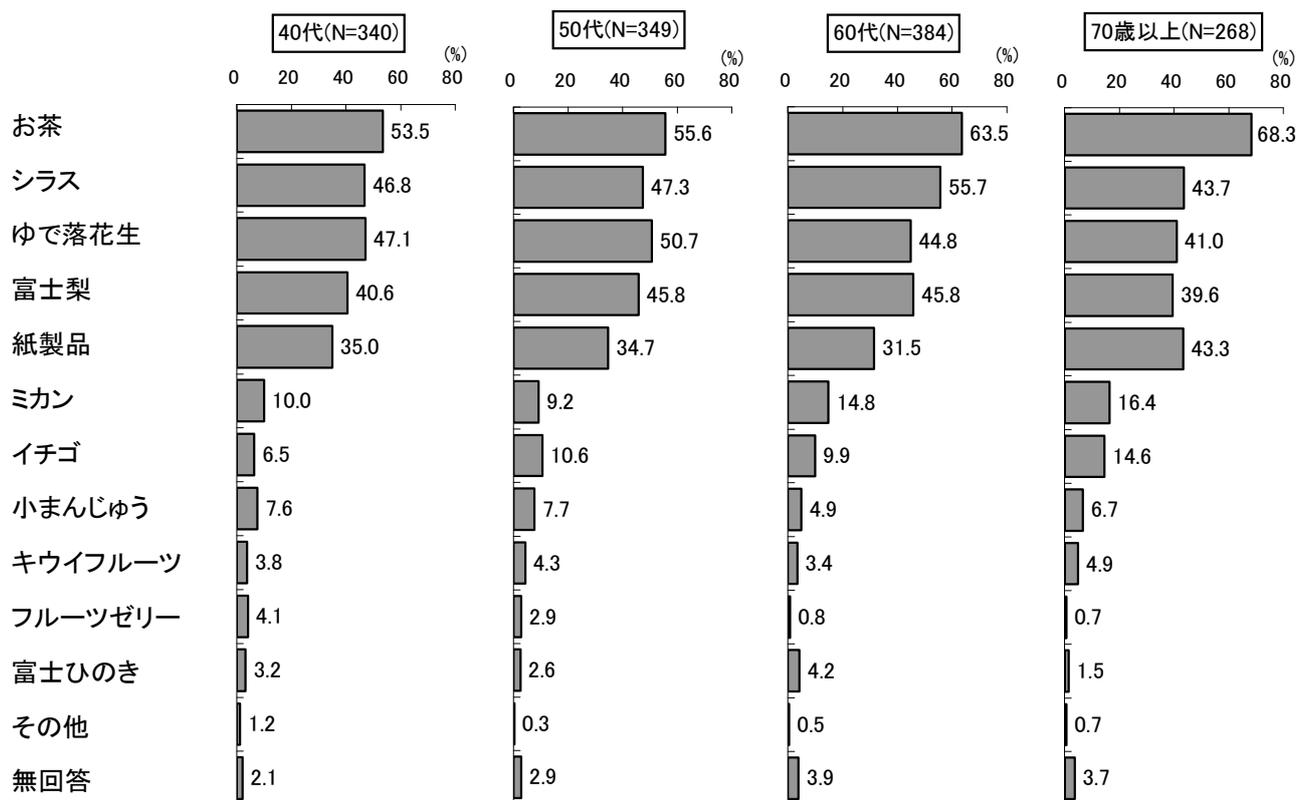
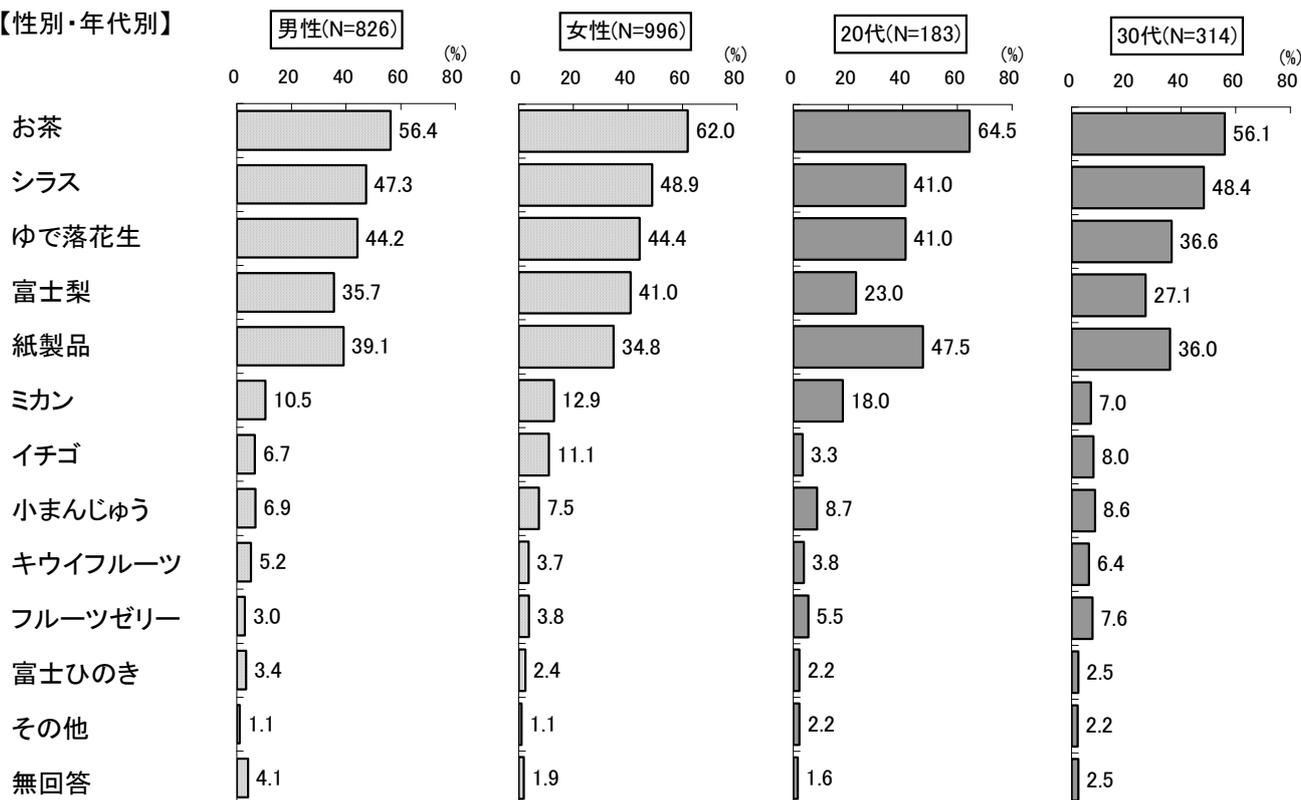
問 20 あなたが富士市の特産品として自慢できるものはなんですか。次の中から3つ以内で選んでください。



富士市の特産品として自慢できるものを尋ねたところ、「お茶」が最も多く 59.6%となった。次いで「シラス」が 48.0%、「ゆで落花生」が 44.0%、「富士梨」が 38.5%、「紙製品」が 36.8%の順となっている。

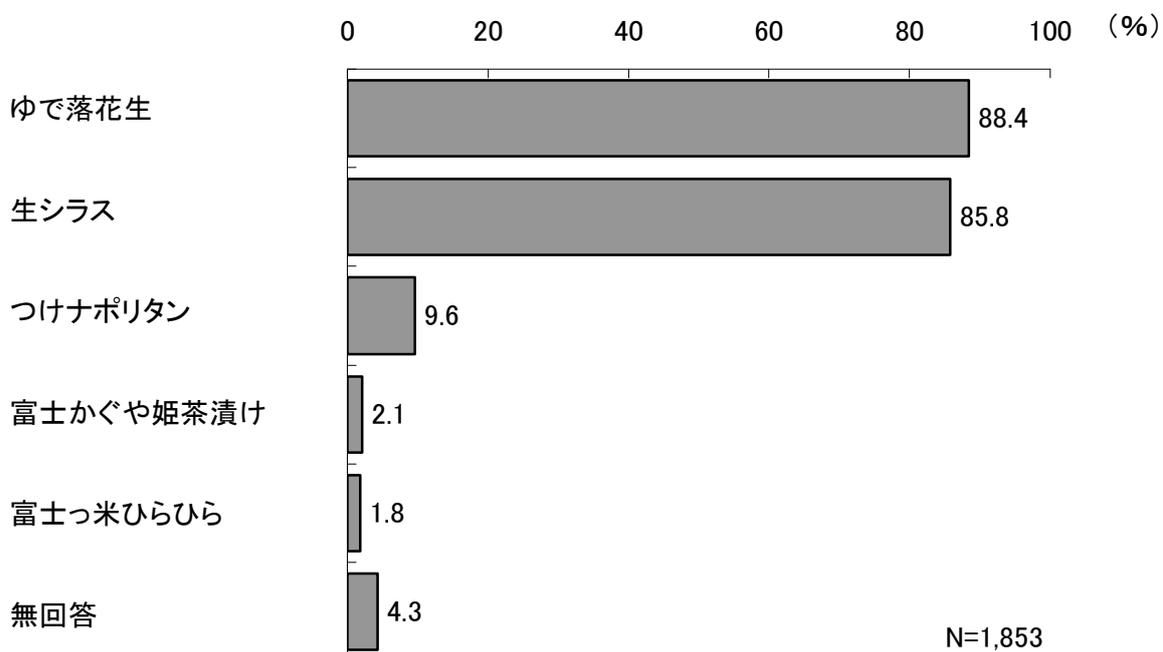
年代別に見ると、各年代とも「お茶」が自慢できる特産品として1位となっている。また、各年代とも、全体で5位までにあげられた「お茶」、「シラス」、「ゆで落花生」、「富士梨」、「紙製品」は5位までに入っているものの、20代は全体では5位の「紙製品」が 47.5%で2位となっている。

【性別・年代別】



(4) 食べたことのある富士市独特の料理・食材

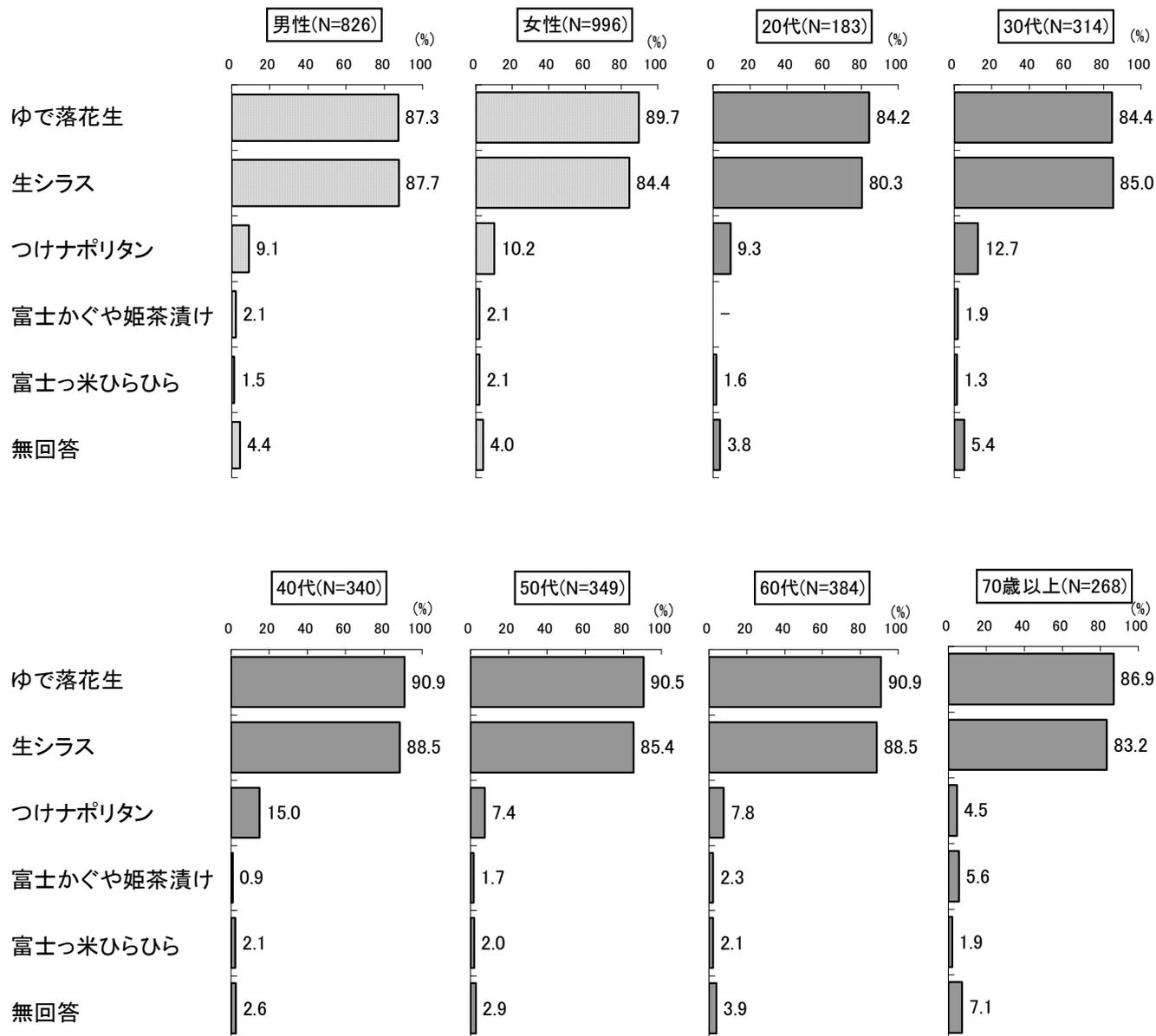
問 21 あなたが食べたことのある富士市独特の料理・食材はなんですか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。



食べたことのある富士市独特の料理・食材を尋ねたところ、「ゆで落花生」が最も多く 88.4%となっている。次いで「生シラス」が 85.8%で、3位以下と大きく差をつけている。

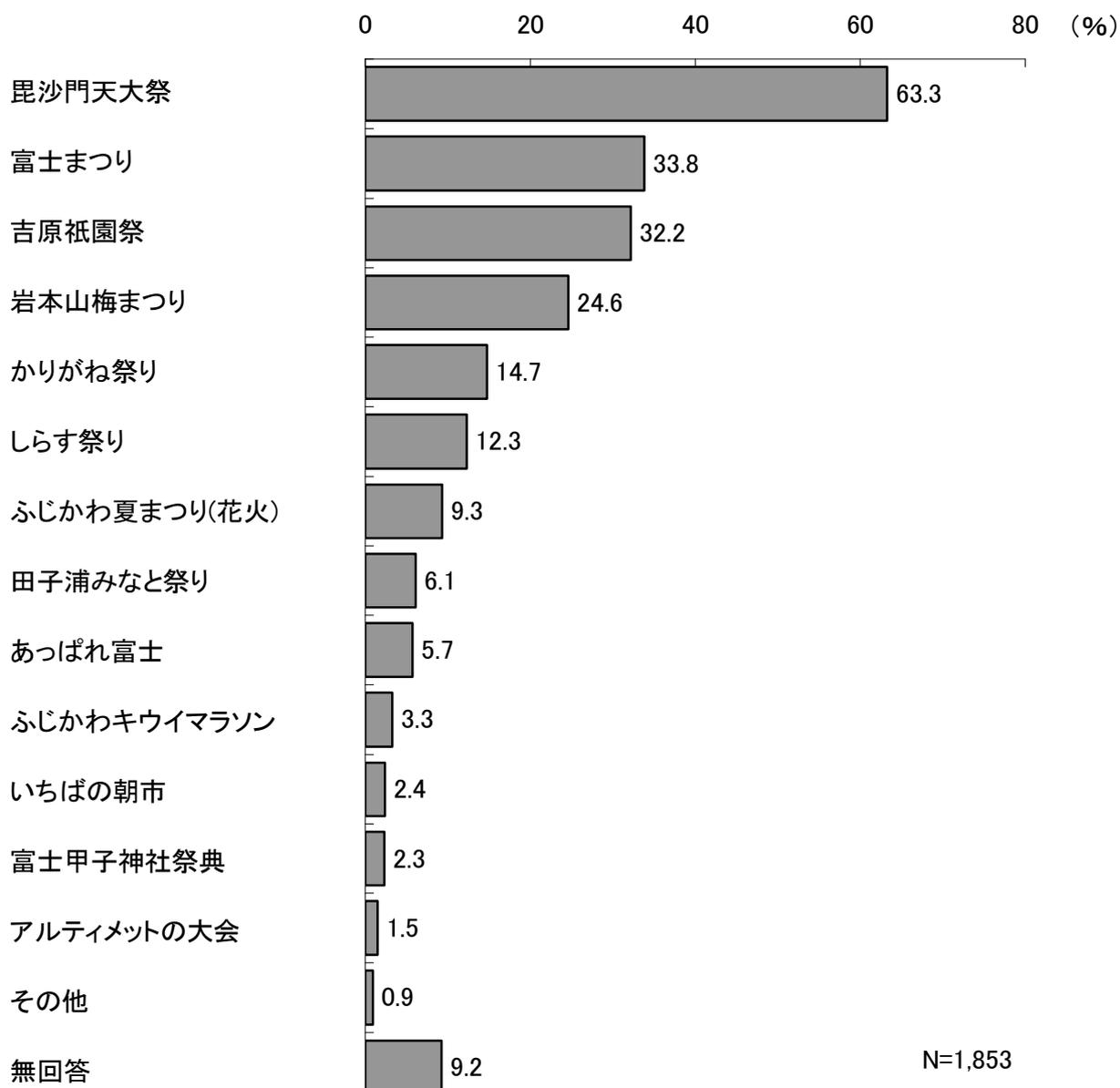
年代別に見ると、各年代とも「ゆで落花生」と「生シラス」は8割以上の人食べたことがあり、ほかの料理に大きく差をつけている。

【性別・年代別】



(5) 全国にPRしたい富士市の祭り・イベント

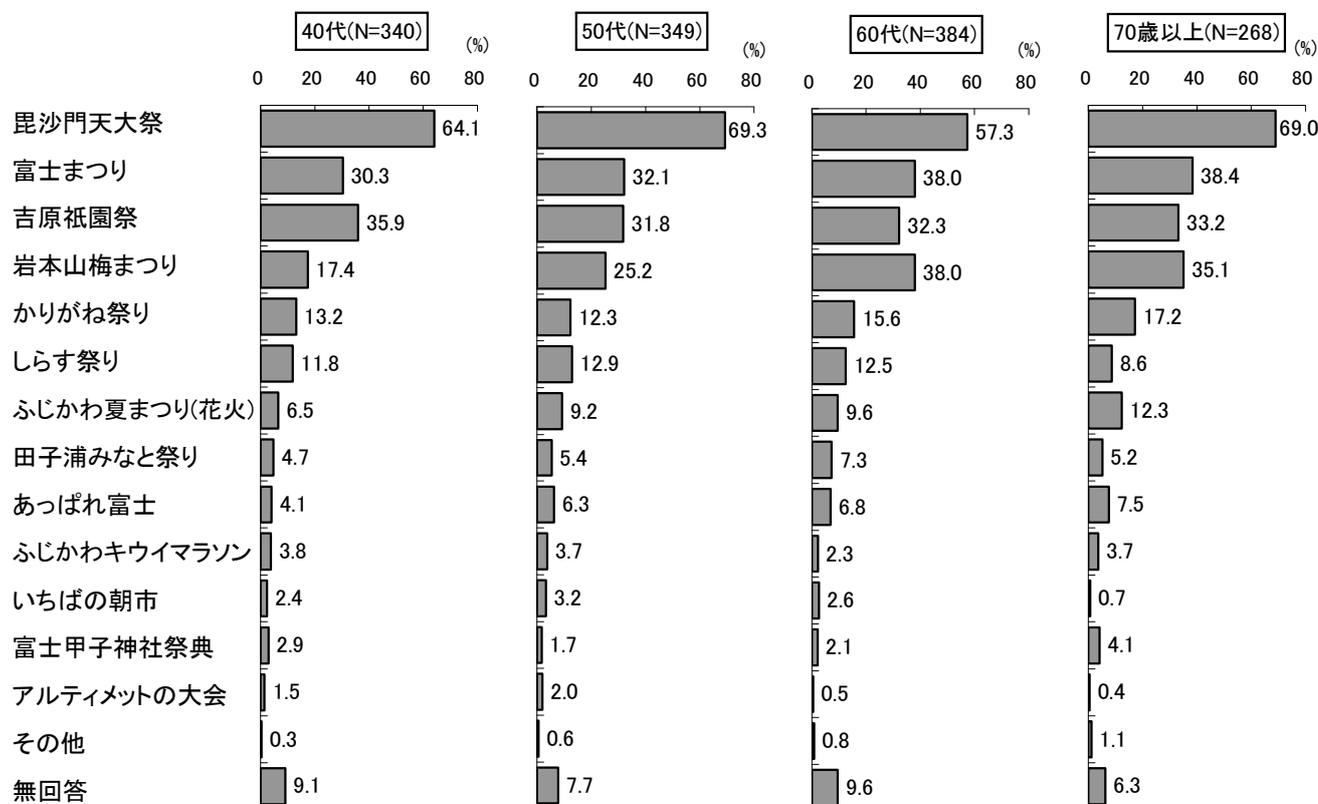
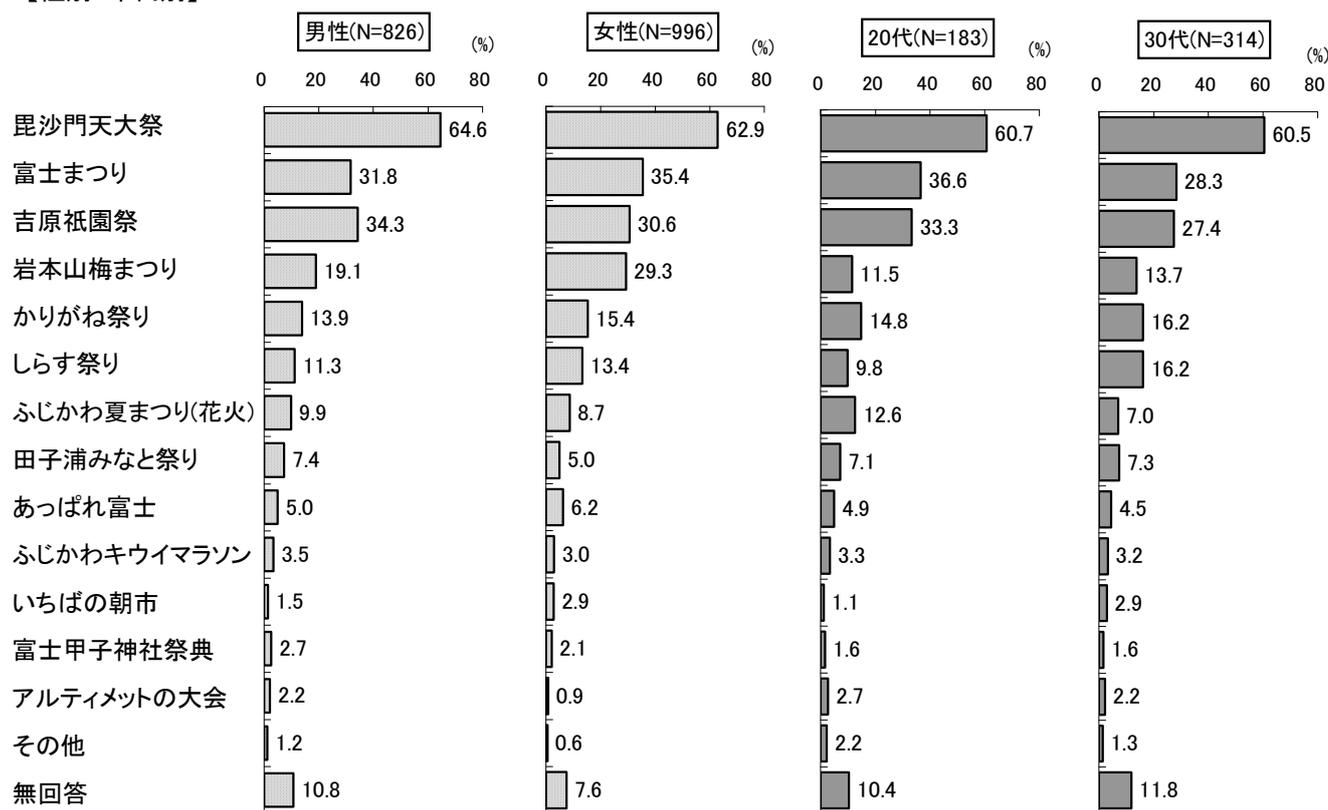
問 22 あなたが全国にPRしたい富士市のお祭り・イベントはどれですか。次の中から3つ以内で選んでください。



全国にPRしたい富士市の祭り・イベントを尋ねたところ、「毘沙門天大祭」が最も多く 63.3%となった。次いで「富士まつり」が 33.8%、「吉原祇園祭」が 32.2%となっている。

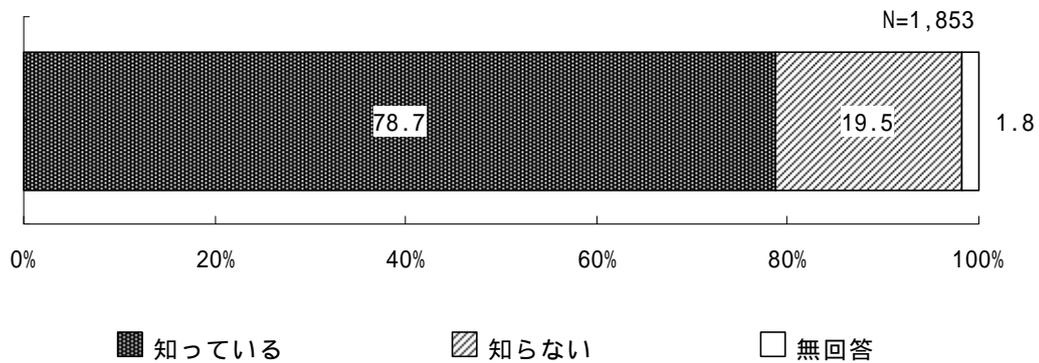
年代別に見ると、どの年代も「毘沙門天大祭」、「富士まつり」、「吉原祇園祭」と答えた人が多い。また、60代と70歳以上は、3割以上の人々が「岩本山梅まつり」と答えている。

【性別・年代別】



(6) 「竹取物語」に似た伝説の認知度

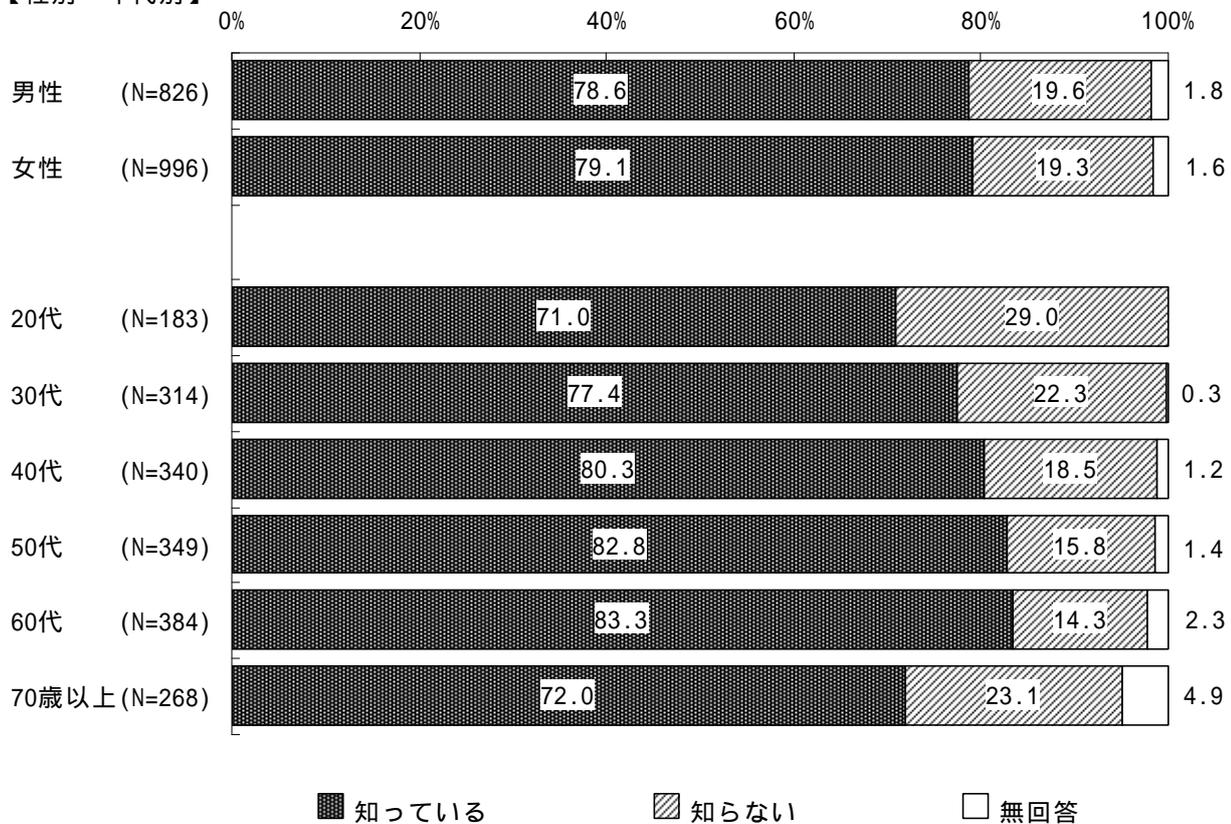
問 23 あなたは日本最古の物語である「竹取物語」に似た伝説が富士市にあることを知っていますか。



日本最古の物語「竹取物語」に似た伝説が富士市にあることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が78.7%で、「知らない」が19.5%だった。

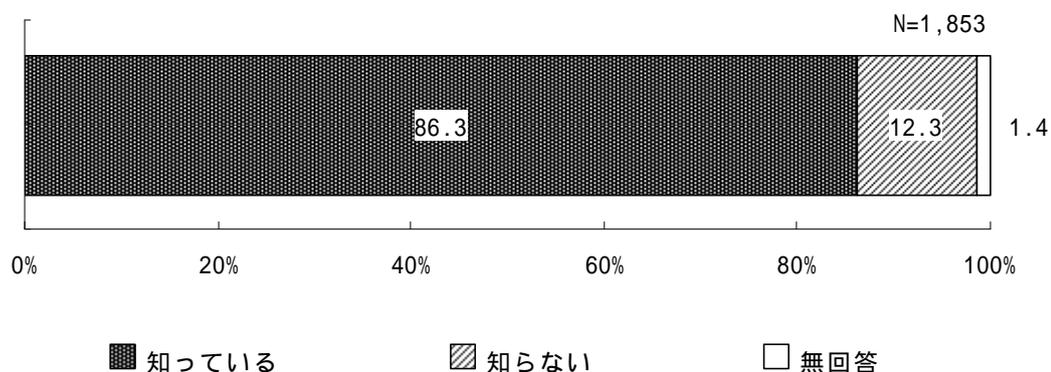
年代別に見ると、60代までは、年齢が高くなるほど「知っている」と答えた人の割合が高くなっている。

【性別・年代別】



(7) 「かぐや姫クイーンコンテスト」開催の認知度

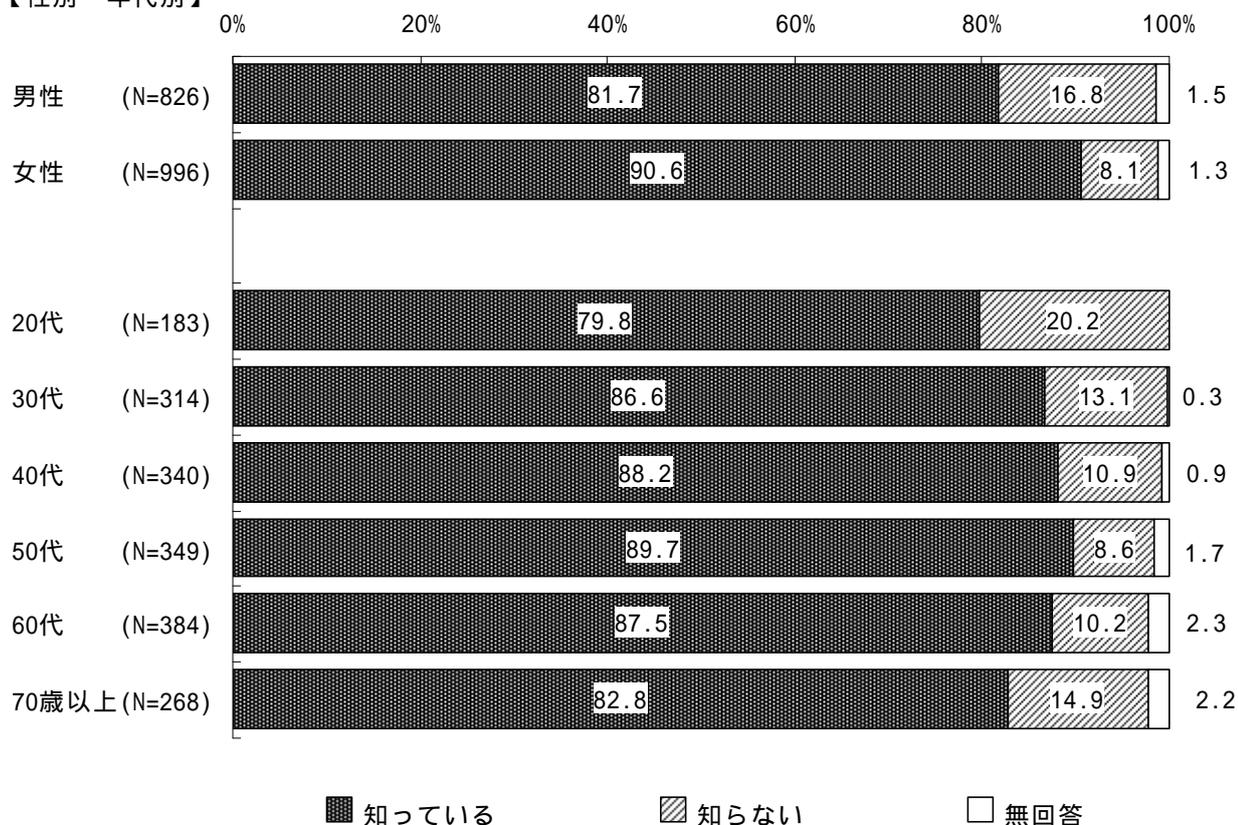
問 24 あなたは富士市で「かぐや姫クイーンコンテスト」を毎年開催していることを知っていますか。



富士市で「かぐや姫クイーンコンテスト」を毎年開催していることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が86.3%で、「知らない」が12.3%だった。

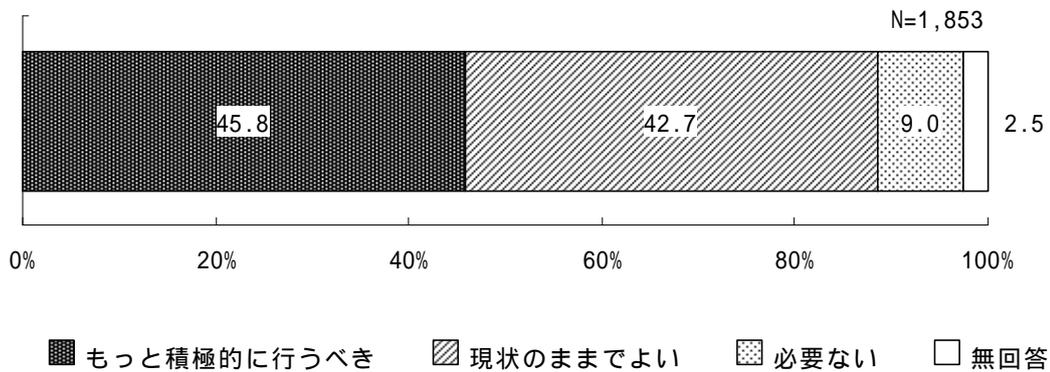
年代別に見ると、各年代とも、ほぼ8割以上の方が「知っている」と答えている。

【性別・年代別】



(8) 「かぐや姫発祥の地」のPR

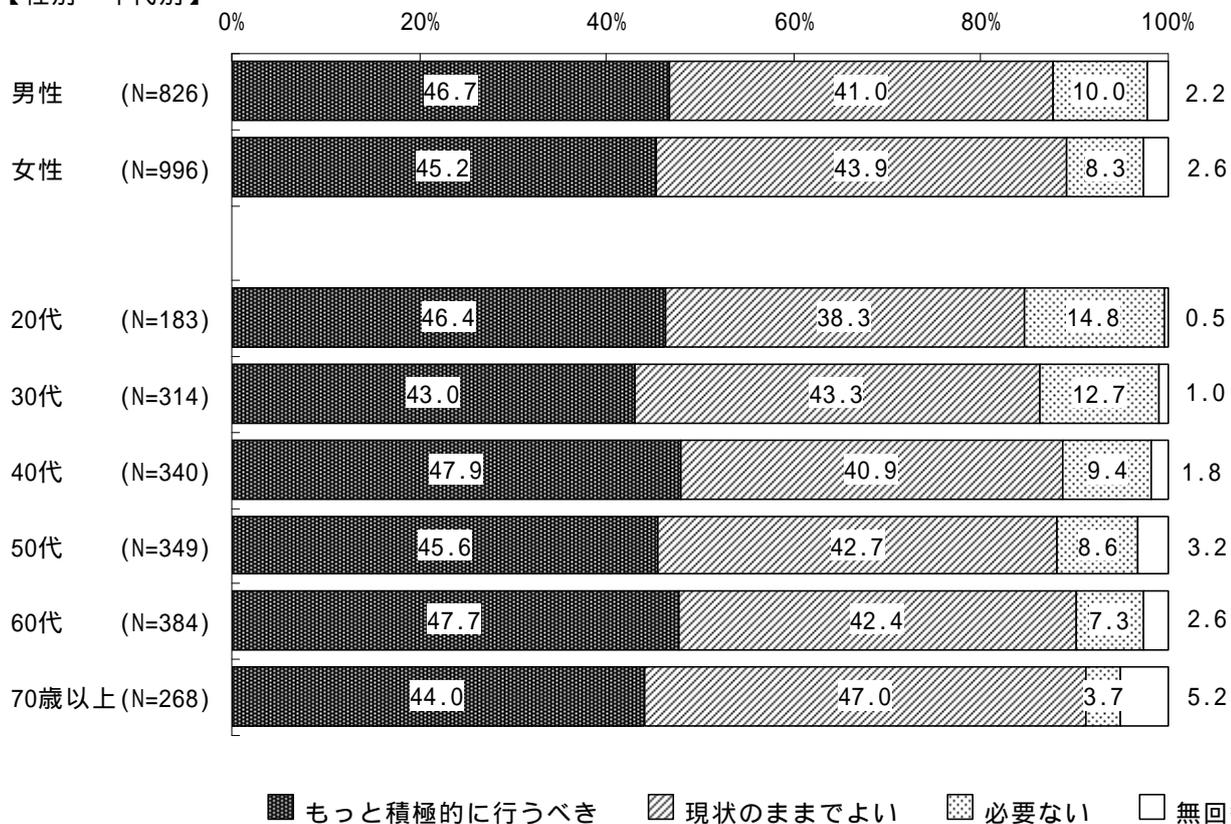
問 25 富士市は「かぐや姫発祥の地」を市外にPRし、イメージアップを図っています。このことについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



富士市は「かぐや姫発祥の地」を市外にPRしているが、このことについてどう思うか尋ねたところ、「もっと積極的に行うべき」が45.8%で、「現状のままでよい」の42.7%を若干上回った。また、「必要ない」と答えた人は9.0%で、1割以下となった。

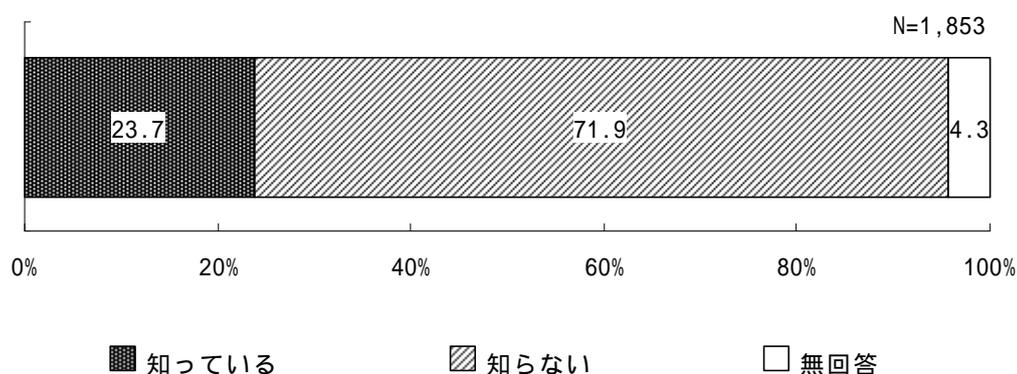
年代別に見ると、各年代とも、「もっと積極的に行うべき」と答えた人は4割から5割となっている。逆に「必要ない」と答えた人は、20代で14.8%、30代で12.7%と、若い年代の人の方が多い。

【性別・年代別】



(9) 観光計画の認知度

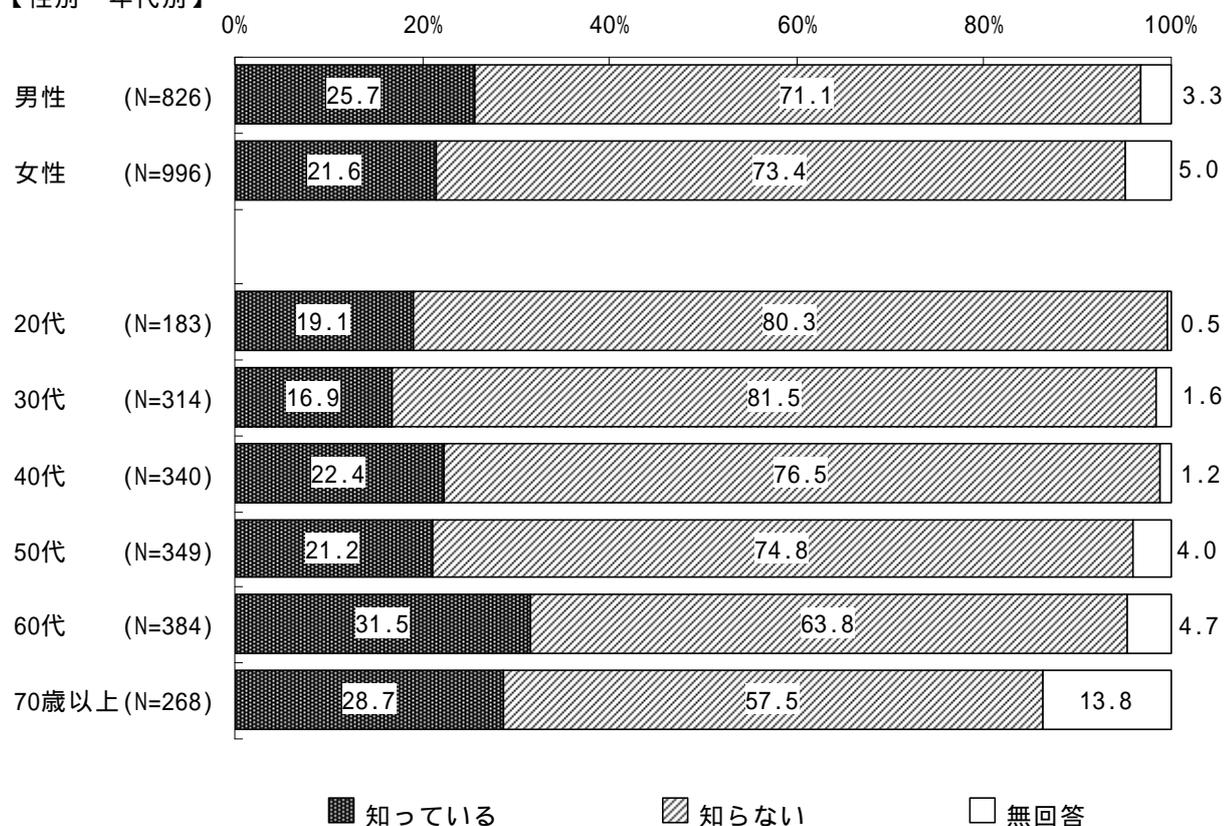
問 26 あなたは富士市に観光計画（富士市観光交流まちづくり計画）があることを知っていますか。



富士市に観光計画（富士市観光交流まちづくり計画）があることを知っているか尋ねたところ、「知っている」の23.7%に対し、「知らない」は71.9%で約3倍となっている。

年代別に見ると、「知っている」が最も多いのは60代の31.5%で、「知らない」が多い年代は30代の81.5%となった。

【性別・年代別】

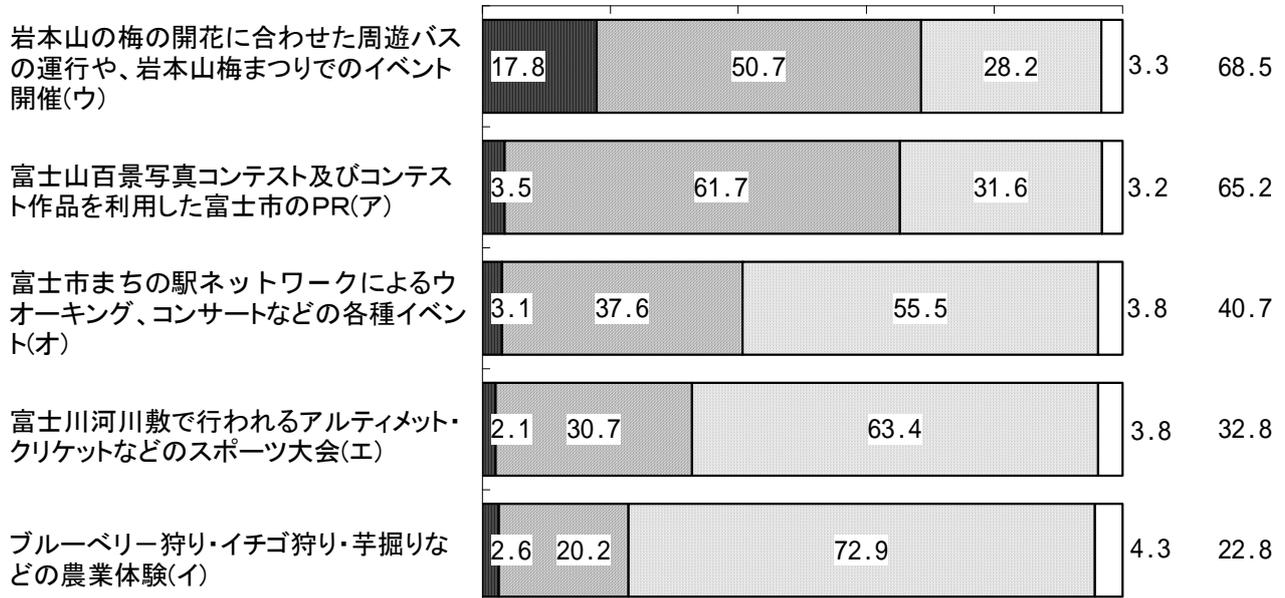


(10) 観光事業

問 27 あなたは富士市が行っているア～オの観光事業を知っていますか。次の事業それぞれについて、当てはまるものを選んでください。

N=1,853

0% 20% 40% 60% 80% 100% [知っている]

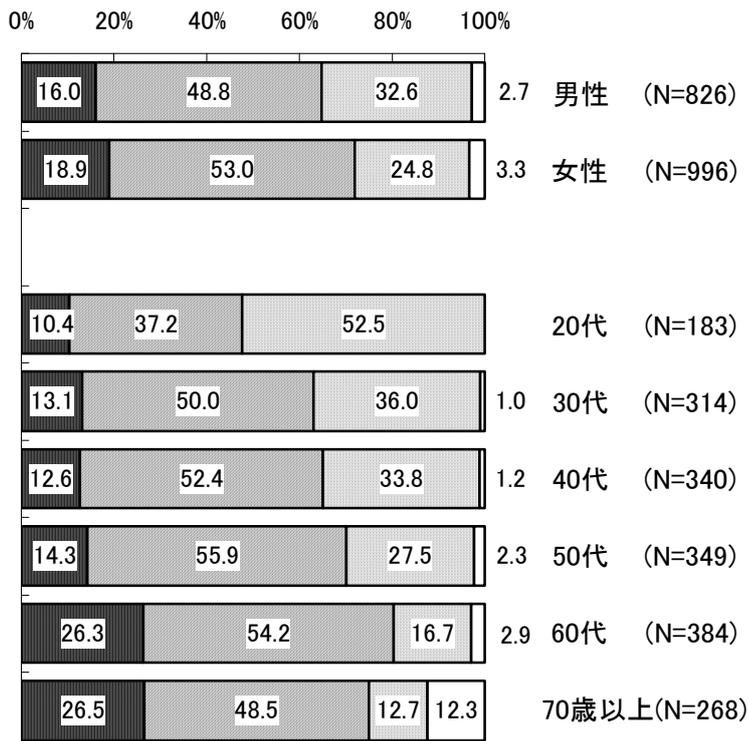


■ 参加したことがある □ 聞いたことがある □ 知らない □ 無回答

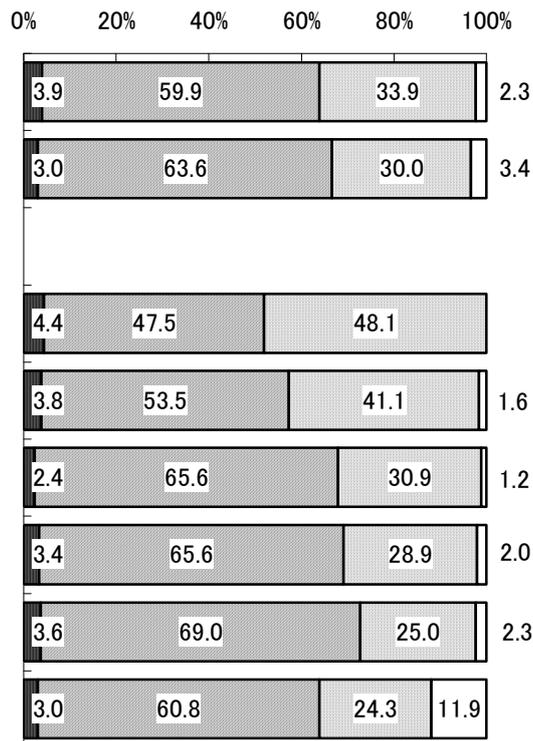
富士市が行っている観光事業を知っているか尋ねたところ、最も知られている事業は、「岩本山の梅の開花に合わせた周遊バスの運行や、岩本山梅まつりでのイベント開催」で、「参加したことがある」と「聞いたことがある」を合わせると 68.5%の人が知っていることがわかった。次いで「富士山百景写真コンテスト及びコンテスト作品を利用した富士市のPR」で、「参加したことがある」と「聞いたことがある」を合わせると 65.2%となった。

年代別に見ると、「岩本山の梅の開花に合わせた周遊バスの運行や、岩本山梅まつりでのイベント開催」は、60代、70歳以上の人の参加率が高く、約26%の人が参加していることがわかった。

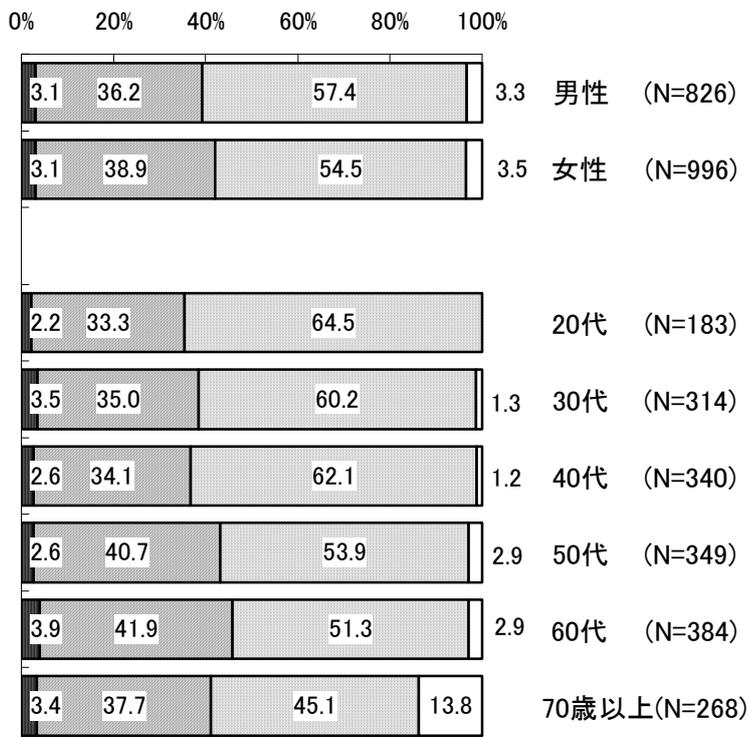
岩本山の梅の開花に合わせた周遊バスの運行や、岩本山梅まつりでのイベント開催



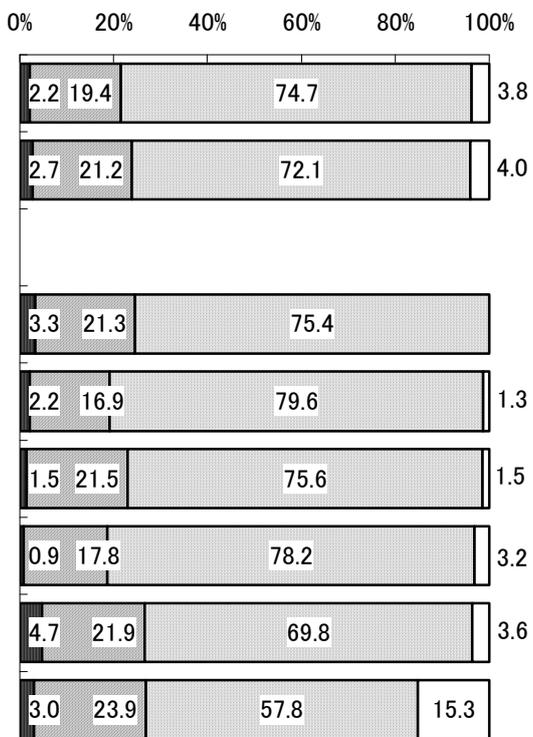
富士山百景写真コンテスト及びコンテスト作品を利用した富士市のPR



富士市まちの駅ネットワークによるウォーキング、コンサートなどの各種イベント



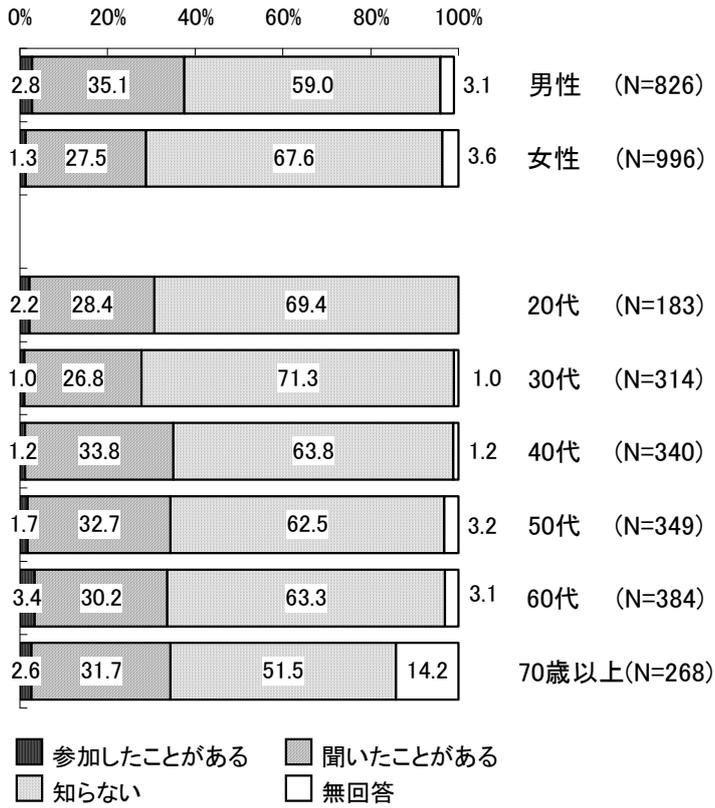
ブルーベリー狩り・イチゴ狩り・芋掘りなどの農業体験



■ 参加したことがある ■ 聞いたことがある
 □ 知らない □ 無回答

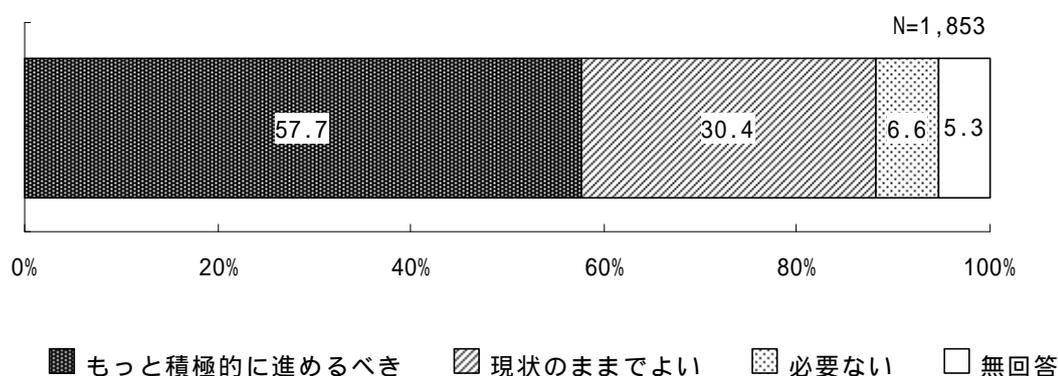
調査結果

富士川河川敷で行われる
アルティメット・クリケットなどのスポーツ大会



(11) 観光課設置による観光交流のまちづくり

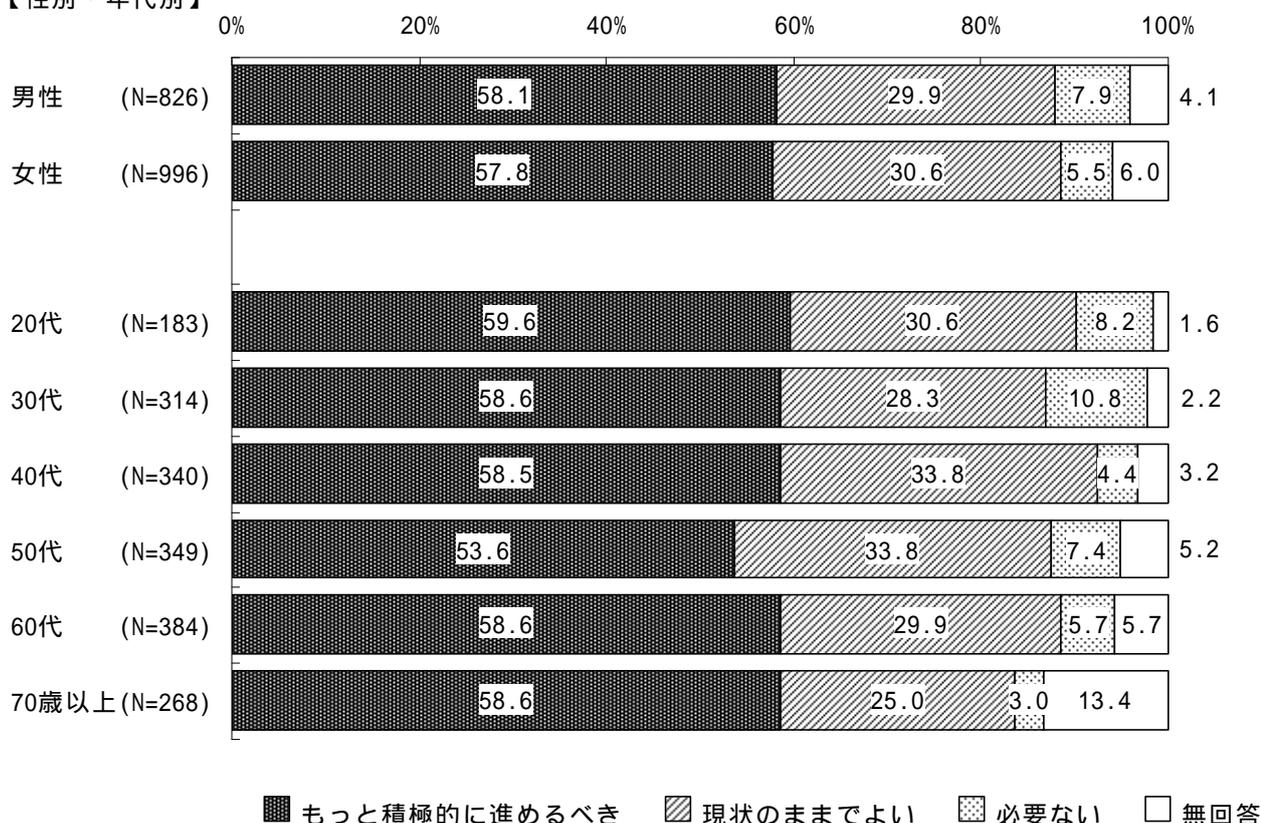
問 28 富士市は平成21年4月から観光課を設置し、観光交流のまちづくりを進めています。あなたはこのことについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



富士市は観光交流のまちづくりを進めているが、このことについてどう思うか尋ねたところ、「もっと積極的に進めるべき」は57.7%だった。「現状のままでよい」は30.4%で、「必要ない」は6.6%にとどまった。

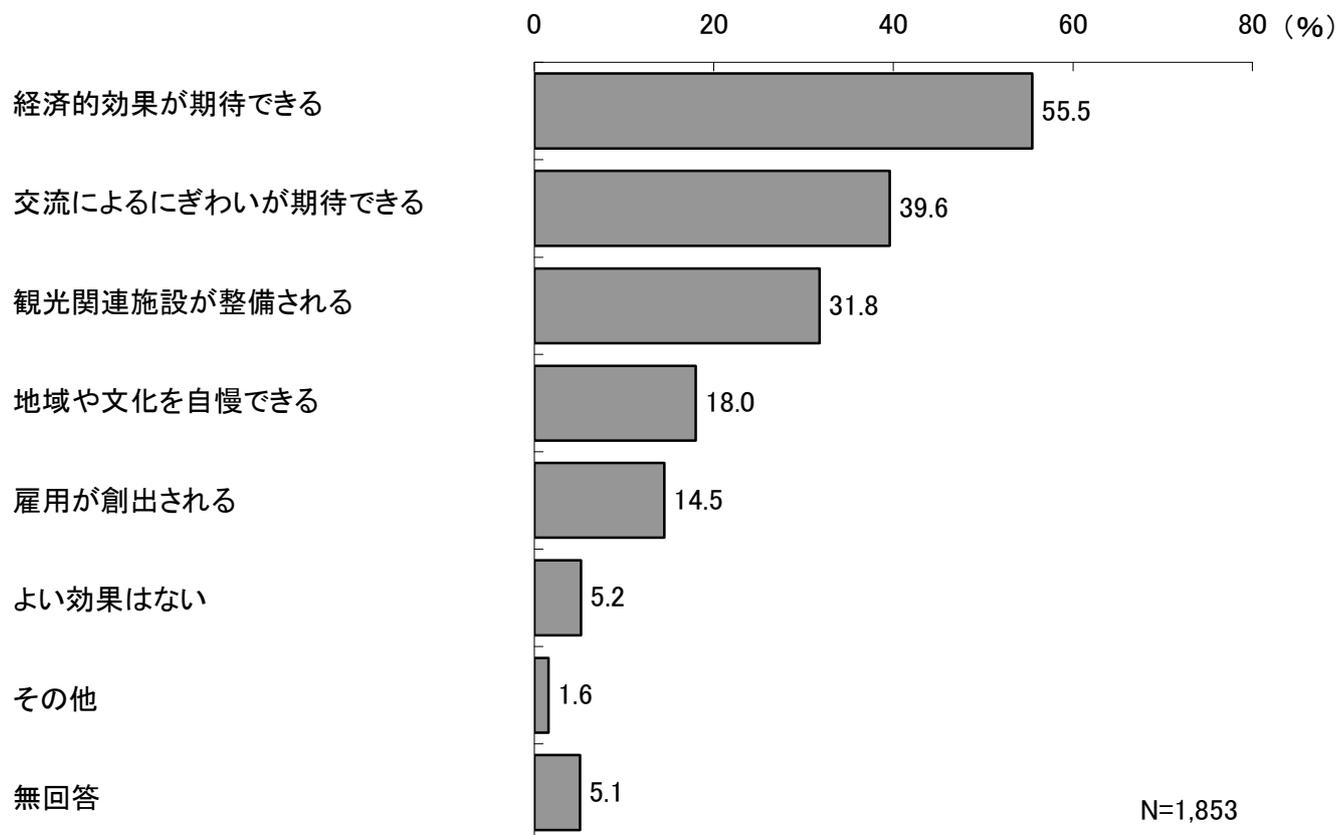
年代別に見ても、各年代で「もっと積極的に進めるべき」が6割弱となっており、「現状のままでよい」は3割前後となっている。「必要ない」と答えた人は30代で1割いるものの、ほかの年代では1割以下となっている。

【性別・年代別】



(12) 観光振興によるよい効果

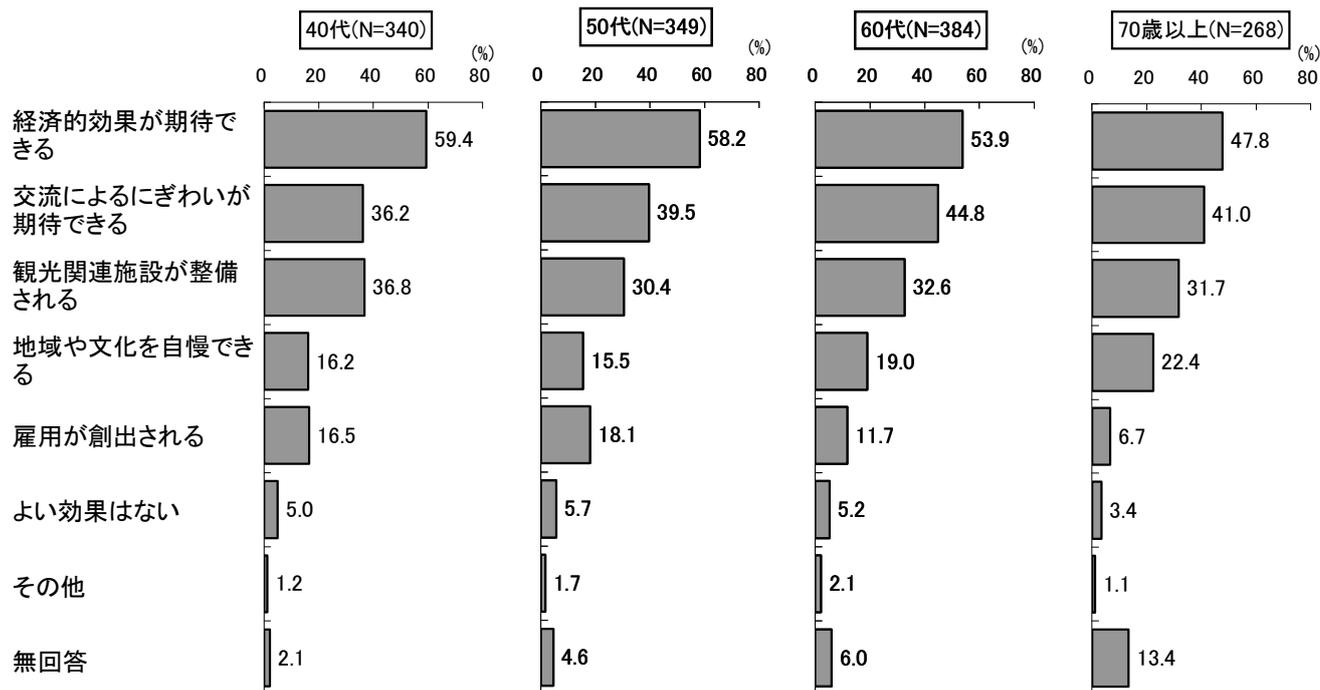
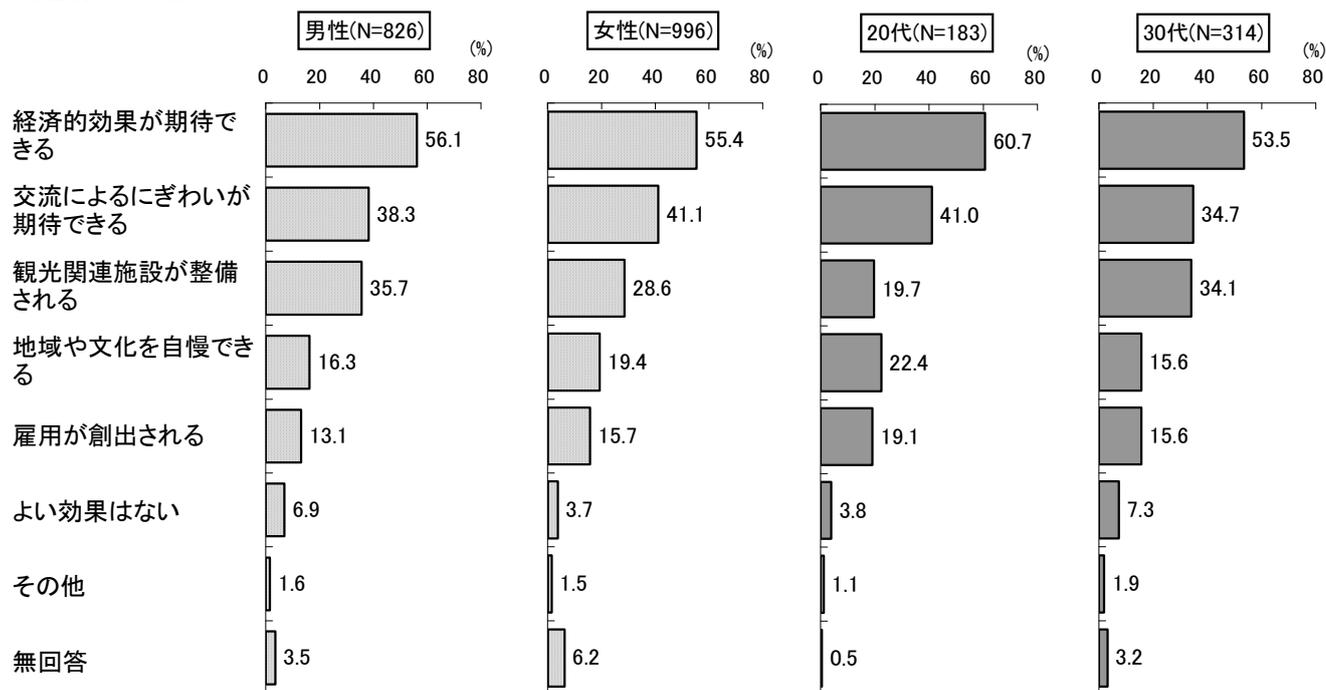
問 29 あなたは観光振興により、市にどんなよい効果があると思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。



観光振興により、市にどんなよい効果があるか尋ねたところ、最も多かったのは「経済的効果が期待できる」で55.5%、次いで「交流によるにぎわいが期待できる」が39.6%、「観光関連施設が整備される」が31.8%となった。

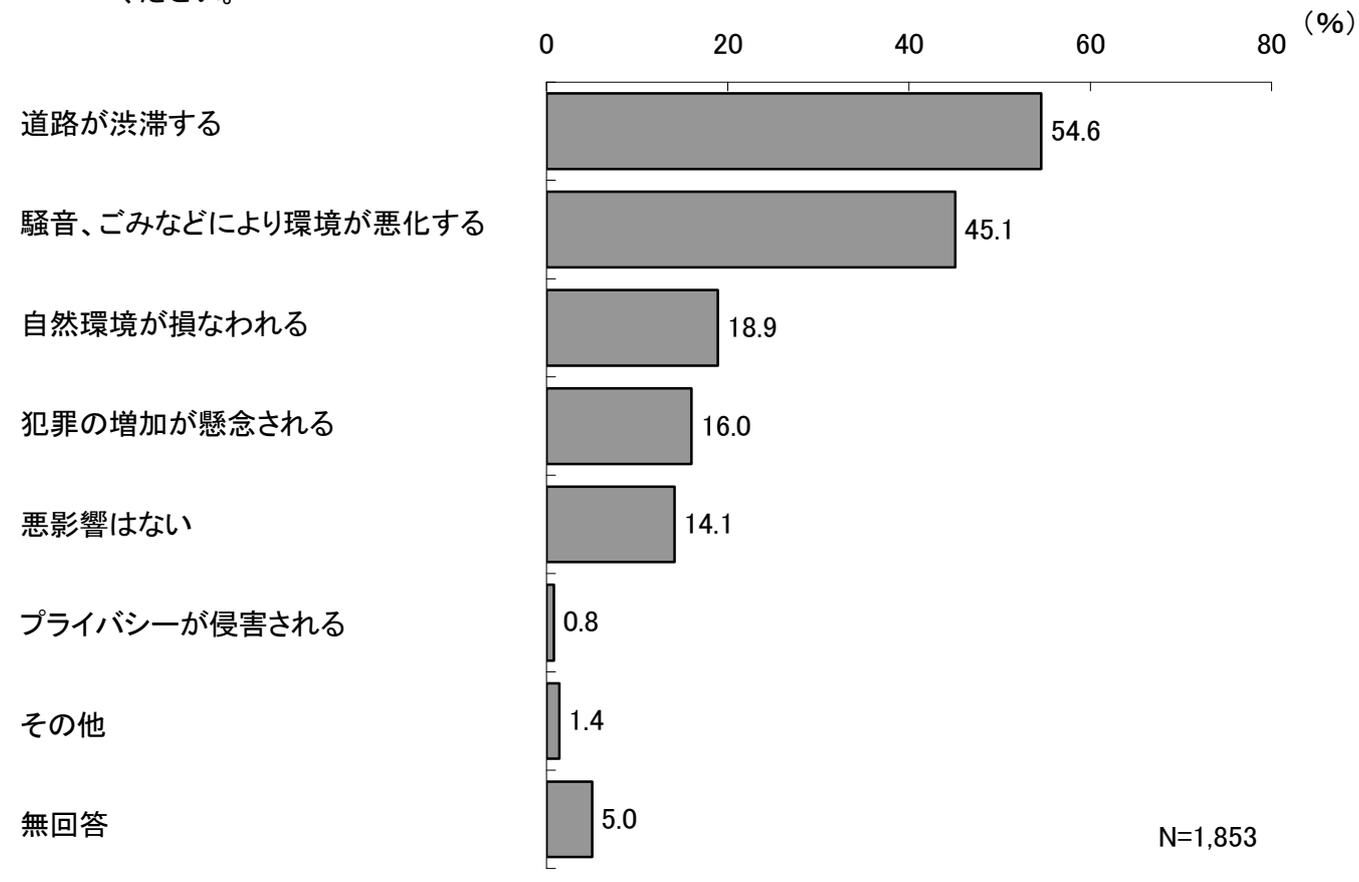
年代別に見ると、20代、40代、50代の6割近くが「経済的効果が期待できる」と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。また、20代、60代、70歳以上の4割以上が「交流によるにぎわいが期待できる」と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。

【性別・年代別】



(13) 観光振興による悪影響

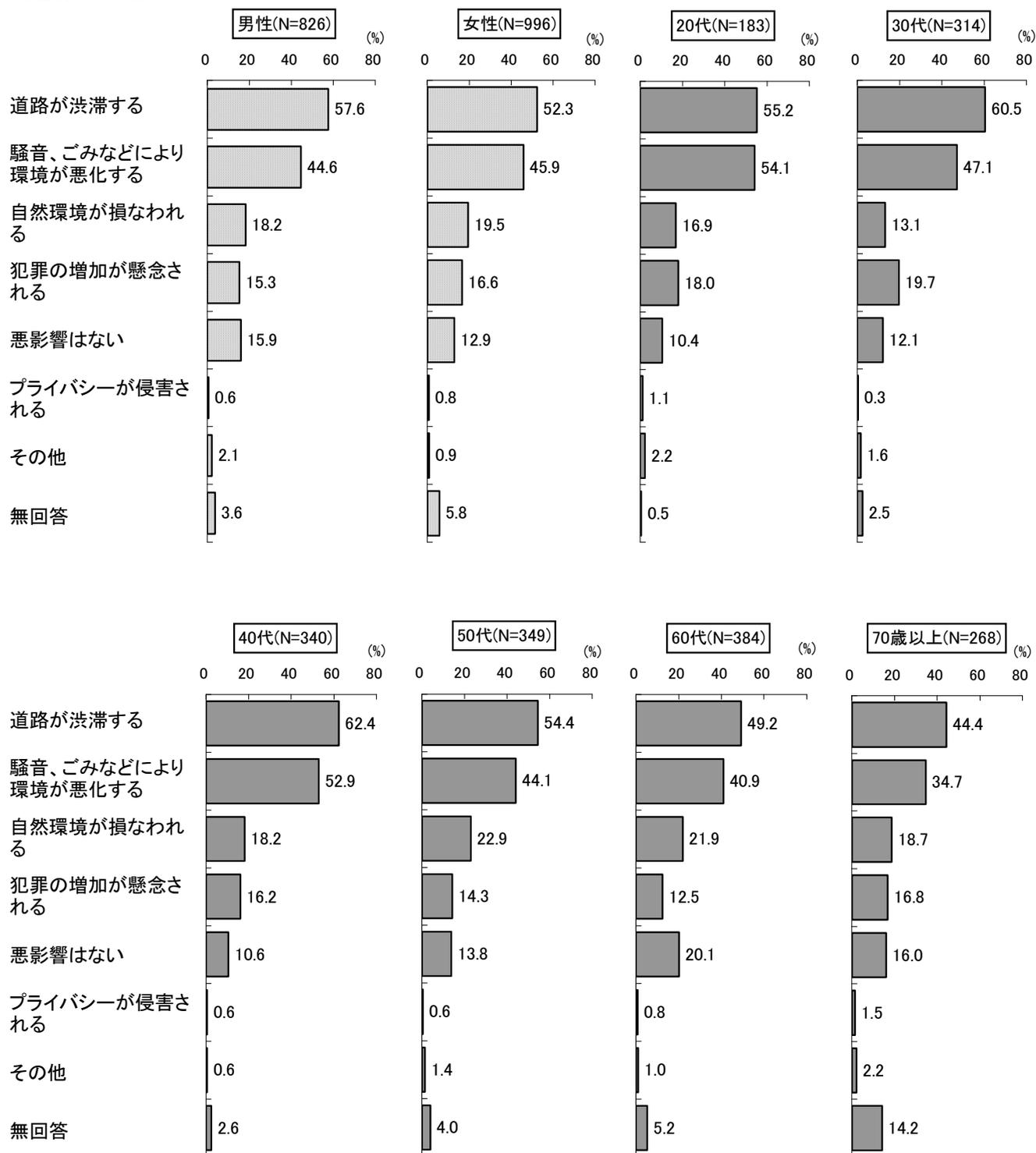
問 30 あなたは観光振興により、市にどんな悪影響があると思いますか。次の中から2つ以内で選んでください。



観光振興により、市にどんな悪影響があるか尋ねたところ、最も多かったのは「道路が渋滞する」で54.6%、次いで「騒音、ごみなどにより環境が悪化する」が45.1%となった。

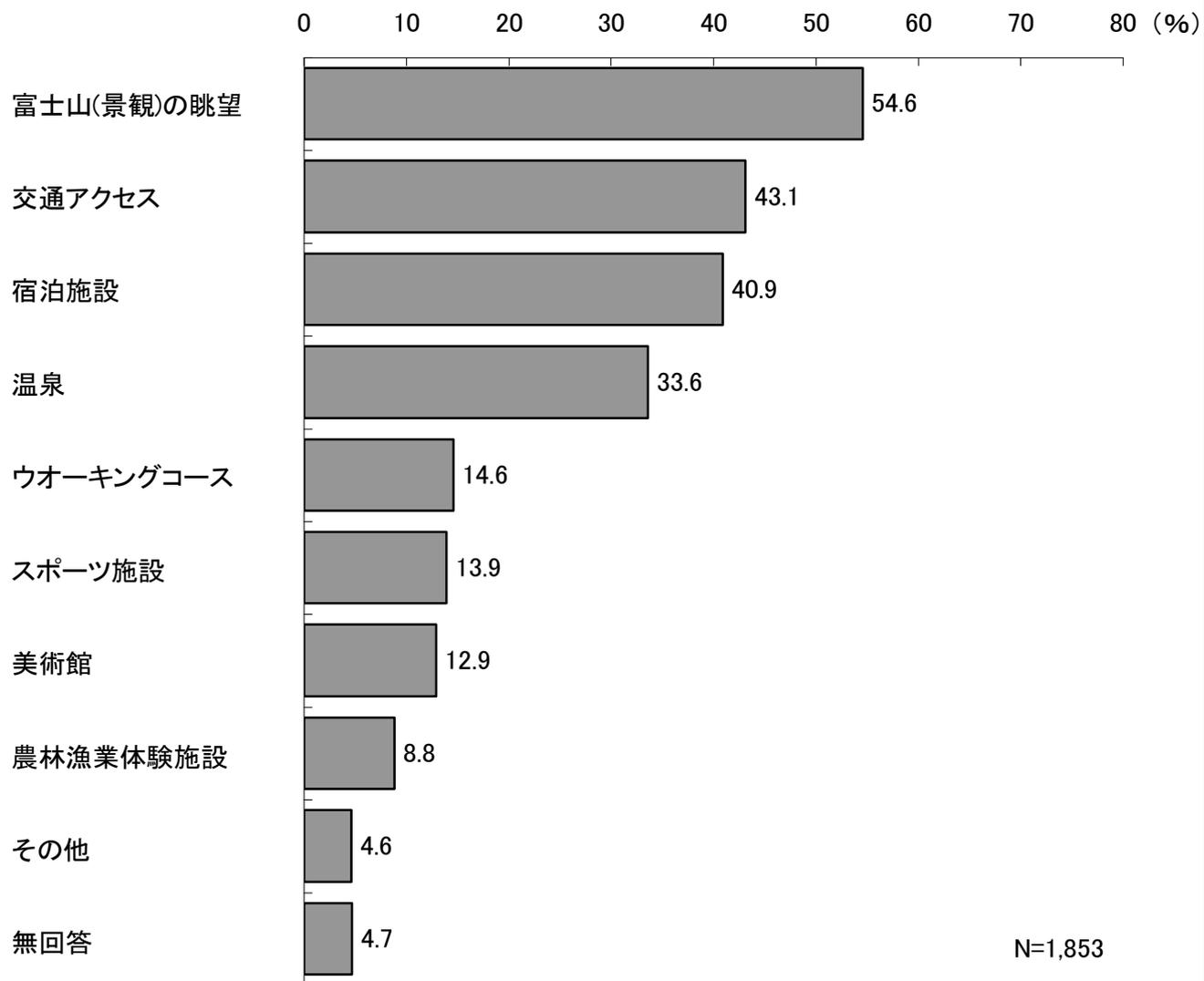
年代別に見ると、30代、40代の6割近くが「道路が渋滞する」と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。また、20代、40代で5割以上が「騒音、ごみなどにより環境が悪化する」と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。

【性別・年代別】



(14) 富士市の観光振興のために必要なもの

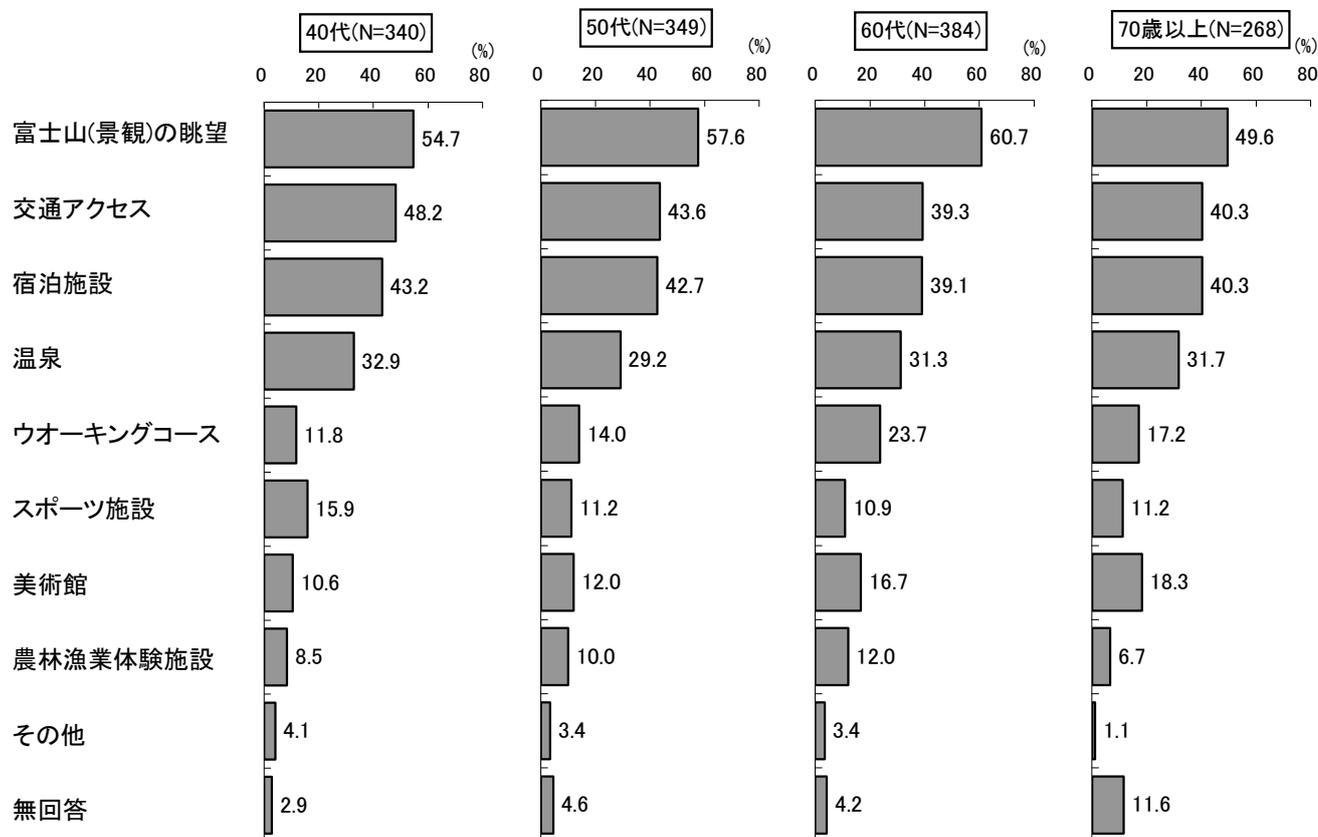
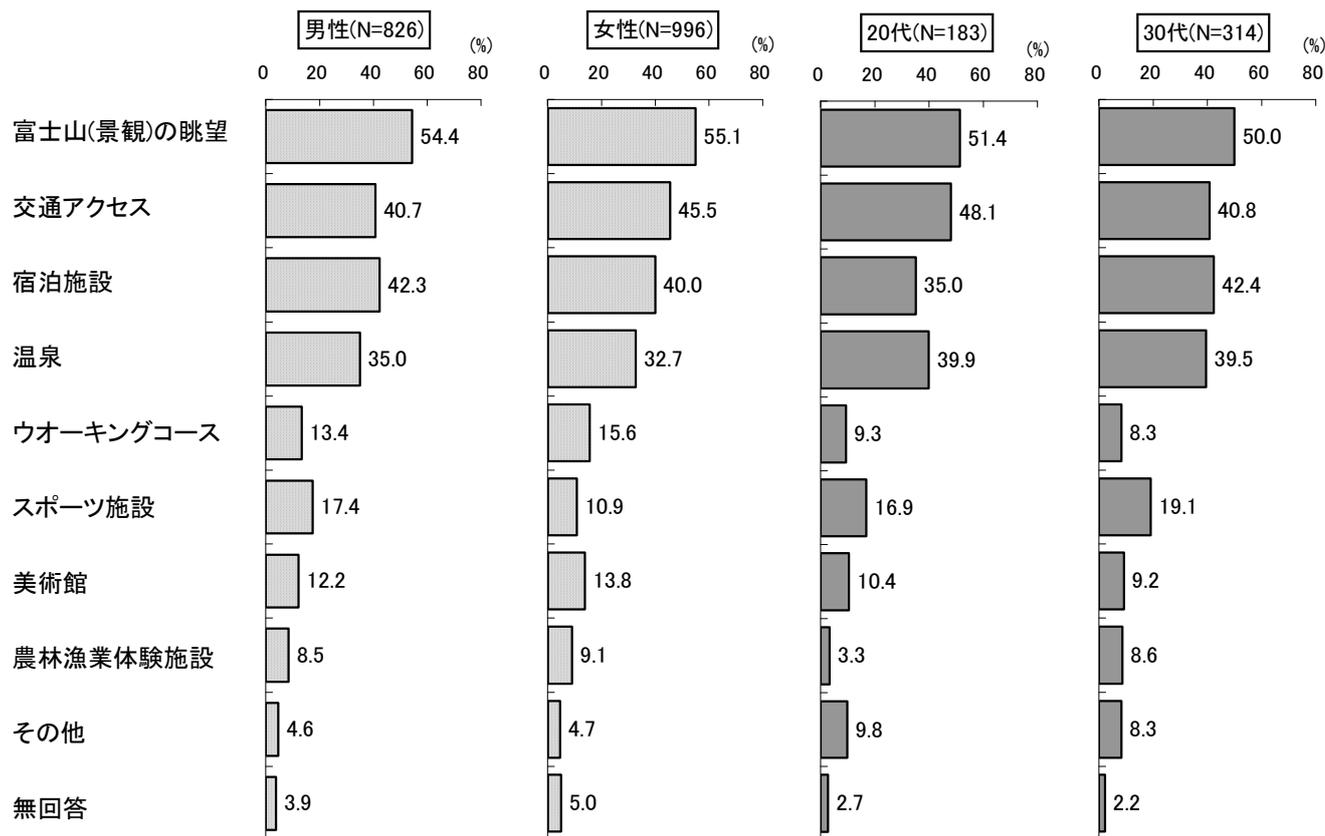
問 31 あなたは富士市の観光振興のためにどんなものが必要だと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。



富士市の観光振興のために必要なものを尋ねたところ、最も多かったのは「富士山（景観）の眺望」で54.6%、次いで「交通アクセス」が43.1%、「宿泊施設」が40.9%、「温泉」が33.6%となった。

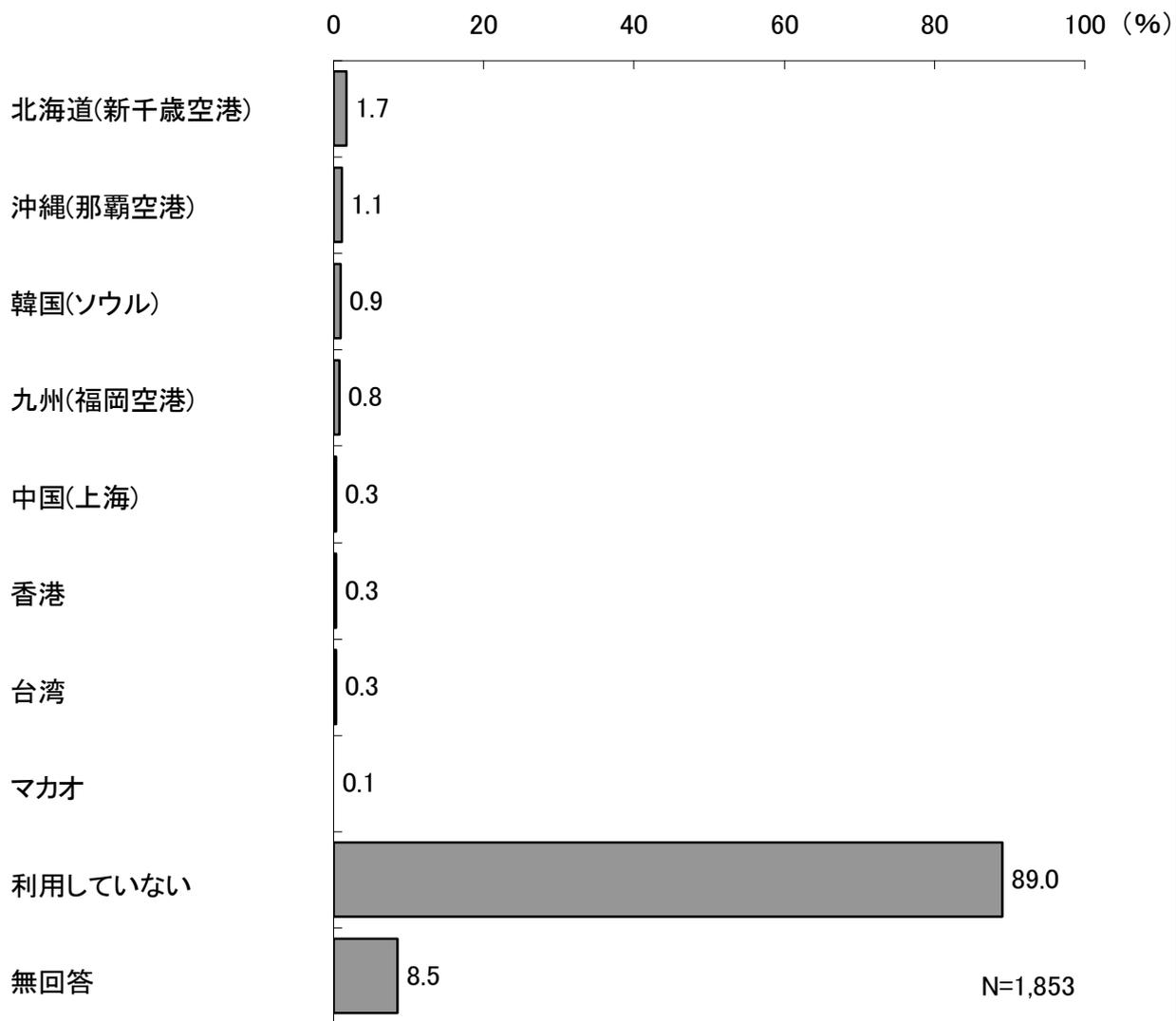
年代別に見ると、「富士山（景観）の眺望」は60代で6割以上が必要と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。「温泉」は20代、30代で4割近くが必要と答え、ほかの年代より割合が高くなっている。

【性別・年代別】



(15) 富士山静岡空港を利用して行った場所

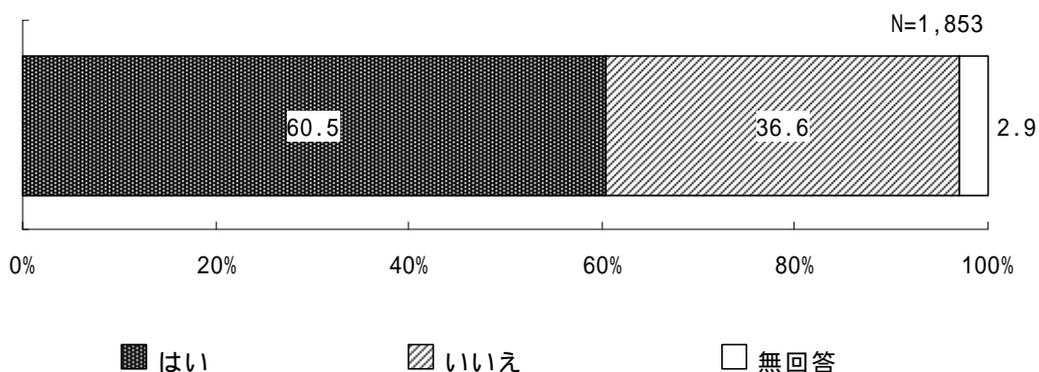
問 32 6月4日に富士山静岡空港が開港しましたが、あなたは富士山静岡空港を利用してどこかに行きましたか。次の中からすべて選んでください。



6月4日に開港した、富士山静岡空港を利用してどこかに行ったか尋ねたところ、「利用していない」と答えた人が89.0%で、開港して間もないため、ほとんどの人はまだ利用していないことがわかった。

(16) 富士山静岡空港利用意向

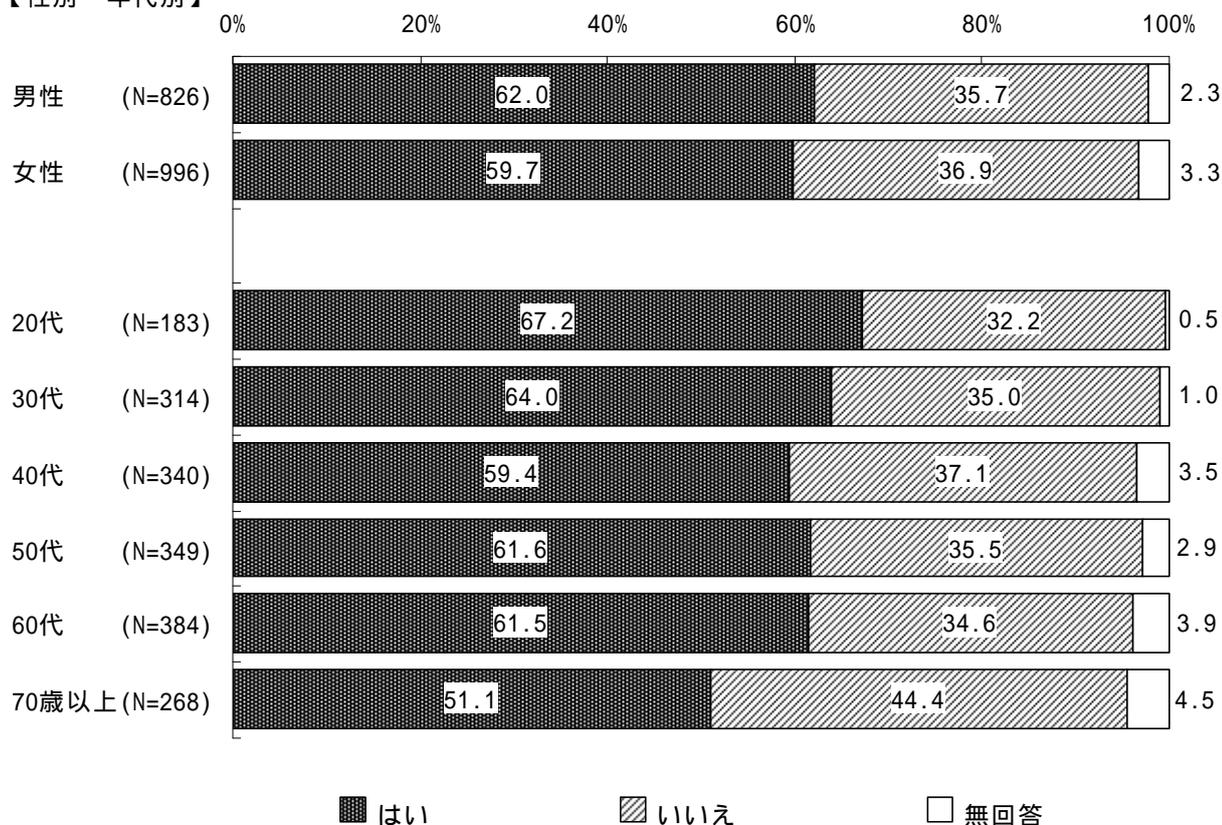
問 33 あなたは今後、富士山静岡空港を利用したいと思いますか。



今後、富士山静岡空港を利用したいか尋ねたところ、「はい」が60.5%で、「いいえ」が36.6%となった。

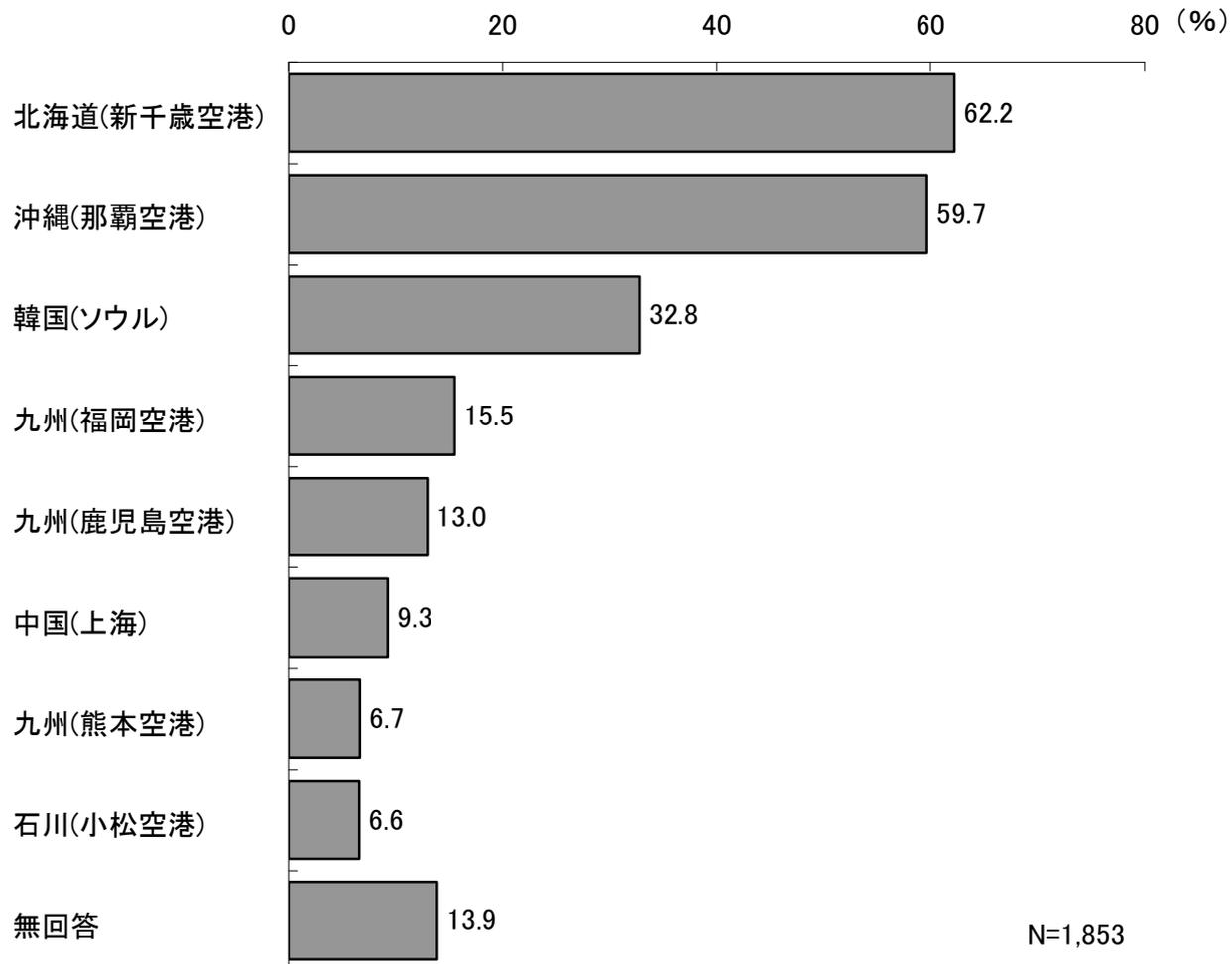
年代別に見ると、若い年代の方が利用したい人が多く、20代では67.2%が利用したいと答えている。

【性別・年代別】



(17) 富士山静岡空港を利用して行きたい場所

問 34 あなたが富士山静岡空港を利用するとしたらどこに行きたいですか。次の中から3つ以内で選んでください。



富士山静岡空港を利用し、どこに行きたいか尋ねたところ、最も多かったのは「北海道（新千歳空港）」で62.2%となった。次いで「沖縄（那覇空港）」が59.7%、「韓国（ソウル）」が32.8%となっている。年代別に見ると、各年代とも「北海道（新千歳空港）」と「沖縄（那覇空港）」には人気があり、「韓国（ソウル）」は、70歳以上を除いて3割から4割の人が行きたいと答えている。

【性別・年代別】

